

令和 7 年 度

事業報告書

公益財団法人 東京動物園協会

目 次

第1 運 営 の 概 要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2 公 益 目 的 事 業	
I. 事 業 総 括 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
〔1〕 管 理 施 設 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
〔2〕 主 な 実 施 事 項 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
II. 事 業 実 績 ・・・・・・・・・・・・・・・・	23
〔1〕 飼 育 ・ 展 示 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	23
〔2〕 野 生 生 物 保 全 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	45
〔3〕 教 育 普 及 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	47
〔4〕 市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	79
〔5〕 利 用 者 サ ー ビ ス ・・・・・・・・・・・・・・・・	88
〔6〕 安 全 ・ 安 心 の 確 保 ・・・・・・・・・・・・・・・・	95
〔7〕 受 託 業 務 ・・・・・・・・・・・・・・・・	100
第3 収 益 事 業	
I. 事 業 総 括 ・・・・・・・・・・・・・・・・	104
II. 事 業 実 績 ・・・・・・・・・・・・・・・・	105
〔1〕 便 益 施 設 の 経 営 ・・・・・・・・・・・・・・・・	105
〔2〕 そ の 他 の 事 業 ・・・・・・・・・・・・・・・・	107
第4 決 算 概 要 ・・・・・・・・・・・・・・・・	108
第5 事 務 報 告	
I. 役 員 会 議 の 開 催 ・・・・・・・・・・・・・・・・	109
II. 監 査 ・・・・・・・・・・・・・・・・	110
III. 人 事 関 係 ・・・・・・・・・・・・・・・・	111
IV. 組 織 概 要 ・・・・・・・・・・・・・・・・	115

第1 運 営 の 概 要

上野動物園では、東京都と中国野生動物保護協会との協定に基づき、令和8年1月27日にジャイアントパンダ「シャオシャオ（オス）」と「レイレイ（メス）」の返還を実施した。また、昭和59年に完成し40年が経過したバードハウス及びバードケージは、老朽化に伴う建替工事のため、展示を終了した。多摩動物公園では、オランウータンのスカイウォークが20周年を迎え、これを記念した講演会を開催した。葛西臨海水族園では、令和10年のリニューアルに向けて、新水族園のサンゴ礁水槽で展示予定のサンゴをこどもたちと育てる「サンゴの苗を作ってみよう」等の企画を実施した。井の頭自然文化園では、水生物館竣工50周年を記念し、「水生物館のあゆみ」等の特設展示を行った。

さらに、利用者サービスの向上と情報発信力の強化を目的として、公式ウェブサイト「東京ゾーネット」の全面リニューアルを実施し、情報の検索性・閲覧性の向上を図った。また、令和8年度からの大島公園動物園の指定管理者選定に向けた準備を進めた。

入園者誘致策としては、ゴールデンウィーク期間中の開園時間延長に加え、夏季及び秋季の夜間開園を実施し、効果的な入園者増加に努めた。さらに、SNSを活用した戦略的な広報、外部イベントへの出展、訪日外国人旅行者向けの広告掲載、4園周遊キャンペーンなどの施策を推進した。こうした取組により、夏季の酷暑などの影響を受けつつも、令和7年度の年間入園者数は4園合計で前年と同水準の約626万人（前年比0.2%減）を確保した。

一方、危機管理面では令和7年12月28日に多摩動物公園でタイリクオオカミ（メス）1頭が動物舎から園内に脱出する事故が発生した。この事故を受け、都立動物園全園で動物展示施設の緊急点検を実施し、必要に応じて施設の改修・補強を行うことで、飼育動物の予想外の行動等による脱出リスクを最小限に抑える対策を講じた。

来園者・動物・職員にとって安全で安心な動物園・水族園づくりを一層推進し、協会の使命である「動物園及び水族園事業の発展振興」及び「人と動物の共存への貢献」を実現するため、長年培った技術・経験を基盤とし、各園の特色を活かしながら、我が国の動物園・水族館の先導的役割を果たすべく、以下5つの取組を積極的に展開した。

1 野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」

4園が緊密に連携し、展示動物の適正な飼育管理や展示の充実を図った。また、飼育技術の更なる向上に取り組むとともに、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮した管理手法を推進することにより、人にも動物にも安全で魅力的な飼育展示を行った。さらに4園で得られた野生生物に関する知見を国内外の会議等で積極的に発表したほか、大学や研究機関との共同研究を進めるなど、高度な飼育技術の継承・向上に取り組んだ。

【主な取組】

- 飼育展示の更なる充実のほか、季節やトピックに合わせた特設展や企画展を積極的に展開
- 環境エンリッチメントの工夫などを通じてアニマルウェルフェアに配慮した飼育管理、安全な健康管理や動物の自然な行動を引き出す取組 など

2 効果的な連携の推進による「野生生物の保全」

「野生生物保全センター」を中心に4園が連携し、積極的かつ計画的に野生生物の保全活動を

展開した。また、「東京動物園協会野生生物保全基金」の運営を通じて、野生生物の生息域外での保全活動のみならず、生息域内での調査や保全を積極的に進める個人や団体の活動を幅広く支援した。

【主な取組】

- コビトカバ、スマトラトラ、オガサワラカワラヒワ、ボルネオオランウータン、イヌワシ、ニホンカモシカ、ミナミイワトビペンギン、エトピリカなど希少動物の繁殖
- 環境省との連携による、トキの放鳥計画への協力やオガサワラカワラヒワの飼育下繁殖への取組 など

3 多様な教育普及活動を通して動物や自然環境について学ぶ「教育普及」

「教育普及センター」を中心に4園が連携しながら、動物園や水族園ならではの教育普及活動を展開し、社会教育施設としての活動を推進するとともに、ウェブサイトや印刷物などの多様な媒体を活用し、都立動物園・水族園の魅力を広く発信した。また、友の会の運営やボランティア等との協働事業を通じ、動物園・水族園事業への都民や利用者の参画意識を促進した。

【主な取組】

- 「授業に活かせる動物園・水族園講座」や「動物園・水族園レポートチャレンジ」の実施、学校教員ヒアリング等を通じ、教育機関との連携を強化
- 動物や自然にちなんだ記念日等の特別な日に、4園が共通のテーマで情報発信や教育プログラムを実施
- 障害をもつ子ども達とその家族を対象にした「のんびり楽しむ動物園 水族園ドリームナイト&イブニング」を4園で開催 など

4 魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービスを提供する「利用者サービス」

入園券購入及び店舗におけるキャッシュレス対応を推進するとともに、先端技術を活用したサービスの拡充や暑熱期の熱中症対策による利用者満足度の更なる向上を図った。また、各園の企画展やイベントに合わせた魅力的なオリジナル商品の開発や快適な店舗環境の提供、接遇力向上により多様な来園者の期待に応えるとともに、通信販売や園外での販売を強化した。

【主な取組】

- 4園周遊キャンペーン「都立動物園・水族園 謎めぐり」の実施
- 熱中症対策として、園内でひと涼みできる場所を「ひんやり ZOO スポット」として紹介
- 飼育係の監修によるオリジナルギフト商品・各園の魅力向上に資するフード商品の販売等

5 万全な施設管理や危機管理対策など「安全・安心の確保」

動物舎や樹木等の適切な点検・管理・補修を通じて良好な園内環境を確保するとともに、地震などの自然災害や無差別テロ等を想定した訓練を各園にて実施し、安全・安心の確保に努めた。

【主な取組】

- 警察等と連携した自然災害及びテロ対策訓練の実施
- 大規模噴火による降灰に対する備えとして、新たに「降灰対策計画書」を策定
- 施設、設備や樹木等の定常的な維持管理に加え、ナラ枯れ処理やベンチ座板補修などの緊急的な維持管理を実施 など

第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園の指定管理者として管理運営を行うとともに、動物園事業の発展・振興を図り、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献することを目的に、動物飼育及び展示業務、野生生物保全業務、教育普及業務、市民・団体との協働に関する業務、利用者サービスに関する業務、安全・安心の確保に関する業務及び受託業務を実施した。

I. 事業総括

〔1〕管理施設

名 称	住 所	開園面積 (㎡)	摘 要
恩賜上野動物園	台東区上野公園、池之端三丁目	145,173.03	
多摩動物公園	日野市程久保六丁目、七丁目、 南平八丁目	602,513.37	うち無料開園区域 78,649.05㎡
葛西臨海水族園	江戸川区臨海町六丁目	85,958.90	
井の頭自然文化園	武蔵野市御殿山一丁目、 三鷹市井の頭四丁目	115,500.00	

〔2〕主な実施事項

1. 4園共通

【「地球環境保全行動戦略」の推進】

令和4年12月に都立動物園・水族園における地球環境保全に向けた率先行動の指針として「地球環境保全行動戦略」を策定し、公表した。この戦略に基づき、令和7年度は各事業分野にて4園の重要な役割である生物多様性保全の取組を強化した。園内の自然を活用したガイド等の実施や緑のカーテンの設置、剪定枝を飼料として活用する園内循環を積極的に進めるなど、施設運営自体にかかる地球環境への負荷を低減させる取組を推進した。

令和7年10月に井の頭自然文化園のヤマネコ祭り、12月に東京ビッグサイトでの環境総合展「エコプロ」、令和8年3月に上野動物園における世界野生生物の日イベント「買って・知って・まもるシェ！」にブース出展し、パネル展示やハンズオン教材を効果的に用いて、当協会の地球環境保全への取組を広く情報発信した。

【動物の飼育・展示】

展示動物の適正な飼育管理と魅力的な展示の充実に向け、4園間の密接な連携のもと、飼育展示業務を着実に実施した。また、飼育下でのトレーニングや各種エンリッチメントの実施、飼育環境整備など、アニマルウェルフェア（動物福祉）の向上に向けた取組を行った。

また、国内外の会議・学会・研究会等への積極的な参加を通じて各方面の専門家との人的・技術交流や最新の知識や技術の向上に努めた。

令和5年度に当協会内に設置した「アニマルウェルフェア委員会」では、各園及び他園館における様々な取組について情報共有を行った。また、WAZA2023アニマルウェルフェア・ゴール（世界動物園水族館協会2023年動物福祉目標）に向けた（公社）日本動物園水族館協会の取組の一つである「アニマルウェルフェア評価」について、11月に葛西臨海水族園及び井の頭自然文化園がJAZAによる監査を受けた。令和5年度に受査した上野及び多摩と合わせ4園全てにおいて監査が終了し、4園ともアニマルウェルフェア評価結果証明書を受理した。

【野生生物の保全】

都立動物園・水族園では、保全活動を「野生生物保全プロジェクト」として整理し、令和6年度から、生息域内保全、外部機関との連携、調査・研究、普及啓発の4つのアプローチにより取組を推進している。生息域内では、都内でアカハライモリの生息状況調査や繁殖環境の整備を継続した。外部機関との連携では、環境省との連携により、トキの放鳥計画への協力やオガサワラカワラヒワの飼育下繁殖に取り組んだほか、国際的な連携として、ブータン王国におけるシロハラサギ保全活動への技術支援を行った。調査・研究として、ミヤコカナヘビの生態研究やトキの栄養学的調査を基にした飼料開発を大学等と連携して進め、さらに保全・栄養シンポジウム「希少鳥類の保全と栄養」を（公社）日本動物園水族館協会と共催するなど、普及啓発にも注力した。野生生物保全センターでは、希少種の繁殖生理や遺伝的多様性の調査、精液の凍結保存、栄養改善研究など、基礎的な研究も進めた。

「第2次ブースト計画」では124種を対象に保全活動を推進し、2頭目のコビトカバが自然繁殖するなど、37種（保全プロジェクト対象種を含めると39種）の繁殖に成功した。「東京動物園協会野生生物保全基金」では、野生生物の保全に取り組む個人・団体の支援を目的とした助成対象活動を公募し、助成金の交付を行うことにより、固有事業としての保全活動を推進した。

【教育普及】

教育普及センターを中心に4園の連携を一層強化し、多様な来園者を対象に多彩な教育普及活動を展開した。キーパーズトークやスポットガイドなど来園者が気軽に参加し、楽しく学べる定例の園内プログラムを強化するとともに、事前募集型のプログラムでは小学生向け・中高生向け・親子向けなど対象を変えて、園内やフィールドでの生物観察を通して体験的に学ぶ場を提供した。また、講演会やシンポジウムなど、オンラインの活用も継続し、来園できない方も含め多くの方が参加できるよう配慮した。動物介在教育プログラムについては、モルモットのふれあい活動におけるストレス評価や利用者評価を継続し、アニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮して実施した。

生物多様性や地球環境保全の重要性を伝える取組は、主に国際的な記念日にあわせて実施するとともに、外部出展やSNSを利用し、保全の取組をより多くの方に伝えられるよう努めた。また参加者が「できること」を自ら考え、学ぶことのできるワークショップの実施にも取り組んだ。

誰もが楽しく学べる動物園水族園を実現するため、障害のあるこどもとご家族を招待する「のんびり楽しむ動物園水族園」をさまざまな取組の試行の場と位置づけ、カームダウンスペースやセンサリーマップ、やさしい日本語を活用したガイドなどを実施した。さらに、それらの取組のうちセンサリーマップなど一部を常設化した。

学校教育との連携強化については、引き続き教員を対象とした各種プログラム、児童や生徒等を対象

とした学習プログラム、学習補助教材の貸出し・提供等を行った。教科書研究や学校現場の状況を把握するための教員ヒアリングを継続し、理科教育学会などにも出席することで教員とのネットワークを強化し、協働での授業開発やパッケージ教材などの教材開発にも取り組んだ。

【利用者サービス】

利用者の多様なニーズにきめ細かく対応するため、入園券購入におけるキャッシュレス対応を引き続き推進した。また、令和3年6月から運用を開始した上野動物園内の混雑状況を公式ウェブサイト上で知らせる「上野動物園混雑マップ」の対象エリアをさらに拡充し、13か所のエリアで混雑状況を確認できるようにしたことで、利便性が向上した。

若手職員を中心に構成するサービス向上委員会は、これまでの取組をもとに、活動をさらに発展させるべく、事業名称を「Proactive Marketing Challenge (PMC)」に変更した。若手職員ならではのアイデアを活かし、外部有識者の意見も取り入れながらサービス向上策の検討を行った。上野動物園では、日本人来園者と外国人来園者の双方が快適に過ごすための施策を実施し、葛西臨海水族園では、冬の閑散期における来園者増加施策を実施した。

4園周遊キャンペーンでは、はじめて実施した謎解きイベント「都立動物園・水族園 謎めぐり」により、既存のファンに加え新たな層の取り込みに成功した。

当協会の公式Instagramでは、各園の情報発信を行ったほか、広告機能やストーリーズ投稿を活用した各園のPRを実施し、積極的な情報発信に努めた。

収益部門においては、各園の展示や各種イベントと連携し、当協会独自のギフト商品やフードメニューの開発・販売を行った結果、売上高は昨年をさらに上回る結果となった。また、環境保護の取組の一環としてギフト商品ではFSC認証紙やオーガニックコットンを使用した商品を販売した。

フードメニューでは、食文化の継承や地域経済の活性化に資するため、地産地消のメニュー開発、提供を継続して行った。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

震災・テロ対策に関する職員の防災意識と知識向上のための防災マニュアル「東京Zoo防災」については、新規採用職員への配布及び研修を行うとともに、マニュアルの内容に基づき、全職員を対象にeラーニングを実施した。また、総務部及び各園にて震災時における初動対応訓練を行ったほか、警察・消防等の関係機関との連携のもと、4園でテロ対策訓練を開催し、基本的な対応手順について確認した。令和7年12月に多摩動物公園で発生した「タイリクオオカミ脱出事故」で得た知見を活かし、上野動物園では、サイが脱出した想定で「猛獣脱出対策訓練」を実施し、万が一に備えた連絡ルート・手順の確認や備品のチェックとあわせて報道対応の訓練も行った。

令和7年9月、多摩動物公園でヒマラヤタール舎の倒木により園路が通行止めとなる事故が発生した。来園者や動物、職員への被害はなかったが、4園で樹木の再点検を行い、倒木事故の再発防止に努めた。

施設管理については日常の巡回点検や定期的な樹木点検等により、不具合を早期に発見し、迅速に対応することで安全で快適な観覧環境を維持した。また、園内での情報共有を通じて、事故を未然に防ぐための施設補修等を適切に実施した。

台風、集中豪雨、大雪等の自然災害に対しては、気象災害対策計画や雪害対策計画に基づき、迅速に緊急点検を実施し、不具合箇所や落枝等の早期発見・対応により、入園者への影響を未然に防いだ。

高病原性鳥インフルエンザ対策は、ハード面・ソフト面双方からの対策強化を図った。令和7年度は4園でそれぞれ「高病原性鳥インフルエンザ対策机上訓練」を実施し、園内で陽性事例が発生した場合に備えて、万全の体制を整えた。

2. 恩賜上野動物園

【動物の飼育・展示】

ジャイアントパンダは、令和3年6月23日に誕生した「シャオシャオ（オス）」及び「レイレイ（メス）」について、東京都と中国野生動物保護協会との協定に基づき、令和8年1月27日に返還を実施した。返還に先立ち令和8年1月22日から27日にかけて中国の専門家が来日し、返還に向けた意見交換や技術指導を受けたほか、当園からも職員3名が返還先の中国野生動物保護協会を訪問し、飼育管理の引継ぎや獣医学的知見の共有を行った。

東園では、上野動物園開園100周年記念事業として整備され、昭和59年の完成から40年を迎えたバードハウス及びバードケージについて、老朽化に伴う建て替え工事のため展示を終了した。バードハウスは6月15日、バードケージは6月25日にそれぞれ展示を終えた。飼育動物では、7月2日にスマトラトラ「ミンピ（メス）」と「ブラン（オス）」の間に2頭の子が誕生した。また、（公社）日本動物園水族館協会のゴリラ管理計画に基づき、10月8日にニシローランドゴリラの「モモカ（メス）」を千葉市動物公園へ移動させたほか、10月27日に京都市動物園から「ゲンタロウ（オス）」、11月4日に名古屋市東山動物園から「アニー（メス）」を受け入れた。

西園では、平成14年から不忍池で放飼を行っていたモモイロペリカンについて、近年の高病原性鳥インフルエンザの全国的発生を受け感染予防上の課題が生じていたことから、アニマルウェルフェア（動物福祉）の観点から広い環境での飼育を実現するため、6月4日に多摩動物公園へ移動した。モモイロペリカンについては、1920年の初来園以来、戦時中の一時中断を除き飼育を継続してきたが、この移動をもって本園での飼育は終了した。また、12月25日には、コビトカバ「モミジ（メス）」と繁殖用貸与により来園した「モトモト（オス）」との間にメスの子1頭が誕生した。

両生爬虫類館では、11月18日から12月27日にかけて、カメの特徴や体のつくり、環境を取り巻く課題を紹介する企画展「カメカメエブリバディ」を開催した。

子ども動物園すてっぷでは、7月28日にブタ（アグー）が死亡し展示を終了した一方、新たにニワトリ（ヒナイドリ、チャボ）の展示を開始した。

【野生生物の保全】

ライチョウは、環境省保護増殖事業の域外保全事業計画に基づき、生息域外保全における保険集団維持及び繁殖補助技術開発園館として取組を進めた。令和6年度に引き続き乗鞍岳の野生個体から採取された精液を用いた人工授精を実施したほか、精液輸送試験等の技術検証を行い、飼育管理検討会議にて情報共有を行った。

ルリカケスは、令和8年3月末現在、14羽を飼育している。令和7年5月17日には、日本の鳥Ⅰで自然繁殖により1羽が孵化・成育した。また、（公社）日本動物園水族館協会の種管理計画に基づき、令和7年4月30日にアマミノクロウサギミュージアム Quru Guruへ2羽、同年10月6日に井の頭自然文化園へ1羽、同年10月19日に埼玉県こども動物自然公園へ1羽を搬出した。さらに、令和8年2月27日には、奄美大島で捕獲された2羽の雛を繁殖用個体として導入した。

オガサワラカワラヒワは、令和7年3月18日に域外保全活動として父島から1ペアを導入し飼育を開始し、7月14日にこのペアから孵化したヒナの巣立ちを確認した。

アカガシラカラスバトは、3月末日現在35羽を飼育している。光環境など飼育環境要因の調査等を日本獣医生命科学大学との共同研究で継続実施した。

ミヤコカナヘビは、野生復帰を目指した繁殖のため令和6年7月21日に導入した個体が順調に繁殖しており、本種に関する共同研究は、当協会の野生生物保全センター及び京都大学理学研究科動物行動学研究室、(一財)自然環境研究センターで実施している。

【教育普及】

年間を通じて、公式X及び公式YouTubeチャンネル等によるオンライン発信を継続し、飼育動物の近況や季節に応じた話題を提供した。「#UENOZOOニュース」「#朝の上野動物園」「#オンラインで動物観察」などの定期発信に加え、コビトカバの成長記録など、飼育現場ならではの視点を取り入れて投稿した。ジャイアントパンダの観覧が予約・抽選制となった際には、定期的にパンダの様子を配信し、公式ウェブサイトの特設サイトを設けることで、来園できない人やパンダを見られない人にも情報を提供した。

企画イベントでは、春季に「さよならサル山」関連企画を実施し、長年親しまれたサル山の歴史をパネル展示や飼育係によるガイドで紹介したほか、解体したサル山の一部を展示した際、サル山の歴史を示した案内看板を作成した。バードハウスの閉館に伴い、企画展「ありがとう、バードハウス展」を開催した。3月と12月に誕生したコビトカバの子について、それぞれオンライン投票による命名企画を行うとともに、展示開始時には、こどもレーンを設置し、こども達が観覧しやすい環境を作った。世界トラの日、世界ゾウの日、世界ゴリラの日などの記念日に合わせたオンライン発信や特別ガイドを実施した。新たにセルフガイド形式の「ビンゴdeかんさつ」を開始し、ビンゴを通して観覧の視点を提供する企画を行った。ビンゴ用紙に動物を守るためにできることを記載することで、保全の重要性を伝え、参加者の行動変容を促した。

夏から秋にかけては、戦後80年企画「動物園からつなぐ平和のバトン」を展開し、デジタルスタンプラリー、パネル展示、絵本の読み聞かせなど多様な切り口で園内の歴史や当時の動物の状況を紹介した。あわせて、地域事業との協働として、国立科学博物館や東京国立博物館との連携企画や、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会との連携事業を実施した。また、「東京2025世界陸上」に伴うスタンプラリーの実施に協力した。加えて、「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」の開催に伴い、東京都と連携して日本手話言語の通訳つき動物ガイドを実施した。

秋では初めての夜間開園となる「秋の夜の動物園」を実施し、飼育係によるスペシャルトーク、動物解説員による学びの企画、ナイトビバリウムなど、夜間ならではの展示や体験を提供した。

冬季には新年イベントとして在来馬のパネル展やフォトスポットを設置し、干支にちなんだ特別ガイドも実施した。

ジャイアントパンダ返還に伴う来園者増加で長時間の待ち時間が発生したことを受け、若手職員がPTを立ち上げ、「待ち時間にパンダとひととき」企画を実施した。待ち時間を楽しく過ごしてもらうために「パンダうちわ」や「パンダサンバイザー」を配布したほか、特設サイトを作成し、飼育係のお話やジャイアントパンダの情報を提供した。ジャイアントパンダ返還後には、観覧通路を期間限定で再開放し、飼育の工夫を紹介するパネル展示や15年間のジャイアントパンダプロジェクトを総括する動画の放映を行った。

さらに、世界湿地の日（2月2日）にちなみ、ボランティアと協働で不忍池をフィールドとしたバードウォッチングを実施した。

小・中学生を対象とした「うへのZOOスクール」や教員向けセミナー、視覚障害児向けプログラムなど、年齢やニーズに応じた多様な学習機会を提供した。ドリームイブニングやジャイアントパンダ講演会では、参加者の要望もふまえて、手話通訳者を配置するなど、合理的配慮を伴う対応に努めた。

年度末には世界野生生物の日企画、「買って・知って まもるシェ！」を実施し、生息地で野生生物の保全を行う団体を誘致し、各地で行われている保全活動や野生動物の現状について紹介した。さらに、保全団体と飼育職員のトークイベントを通して、野生生物を守るためには、域内と域外が共同で活動することが重要であることを、来園者に伝えた。

子ども動物園すてっぷでは、わくわくベースで一般向けの体験プログラム「モルモットとなかよし」とはじめてルームにおける「おたのしみ会」を定例イベントとして開催した。「モルモットとなかよし」は土日祝を除いた開園日（年始やイベント開催日、臨時休園日は除く）に176日間実施し、2,617組6,380名が参加した。「おたのしみ会」は土日の午後に96回開催した。東京動物園ボランティアーズとともにぬりえや絵本などを楽しむイベントに加え、四半期ごとにテーマがかわるハンズオンやフォトスポット、のぞき窓からみる標本や生体を展示し、539組1,614名が参加した。

台東区内の小学校との地域連携による「不忍池環境学習プログラム」は、鵜の池に生息するカワウにスポットをあて、レクチャーと望遠鏡を使った観察を組み合わせたプログラムとして行った。

「うえのZOOスクール」では、モルモットについて学ぶ「めざせ！モルモットはかせ」のプログラムを実施した。視覚障害児クラスではモルモットだけでなくウサギやパンダマウスなど様々な動物を使用して五感による観察を重視した動物介在教育を行い、参加者から高い評価を得た。

【利用者サービス】

ジャイアントパンダ返還前の駆け込み観覧や好調なインバウンド需要、団体の開園時間からの受入を再開したことなどにより、年間入園者数は前年度を上回る338万人を達成した。春季及び秋季の繁忙期においては、各入園門の受入れ体制を強化するとともに開園時間の繰り上げを実施するなど、状況に応じた柔軟な運営により円滑な入園対応を図った。

展示動物の観覧環境の改善では、スマトラトラ及びコビトカバの展示エリアにこども専用レーンを新設し、職員並びに警備員による適切な案内・声掛けを行うことで、来園者サービスの向上に努めた。双子のジャイアントパンダ（シャオシャオ、レイレイ）の中国返還に際しては、観覧希望者の集中が見込まれたことから、検疫期間を踏まえ観覧方法を段階的に変更した。令和7年12月15日の返還に関する報道発表後の翌12月16日から時間帯を区切った観覧を実施し、12月23日からは先着順予約制、さらに令和8年1月14日から最終観覧日である1月25日までは抽選制による観覧とし、混雑緩和及び安全確保を図った。返還日当日の令和8年1月27日は、開園日の日中の出発となったため、園内外の安全確保に努め、円滑な搬出作業をサポートした。

夏季の暑熱対策では、パンダ観覧待機列及びC放飼場の観覧エリアへの日よけテント、メッシュテント及び大型ミスト機を設置した。また、園内の休憩可能箇所や動物の暑熱対策を紹介する「ひんやりZOOスポットでひと涼み」を作成し、パネル掲示及びゾーンネットを通じた情報発信を行った。

来園者サービスの充実として、令和7年9月に総合案内所前に屋外型授乳室を1基設置した。さらに、令和8年3月17日から寛永寺五重塔の観覧エリアが一部変更（寛永寺側からの自由観覧）となったことに伴い、巡回立哨警備員を配置し安全確保に努めた。

収益事業では、利用者満足度向上のため、季節や園内イベントに合わせた店舗展開を行うとともに、飼育展示係や教育普及係の協力を得て「伝える」取組を拡充した。5月には、コビトカバの子（コブシ）の誕生と公開を記念したメニューの提供や「コビトカバの親子カード」を条件付きで期間限定配布し、コビトカバについて知っていただく取組を実施した。また、「世界ゾウの日」に合わせ、環境に配慮した素材を用いた商品を展開し、野生生物や環境保全のために私たちができることをテーマにした店頭掲

示を8月に実施した。そのほか、10月には「世界キツネザルの日」に合わせ、寄付金付きのマダガスカル産バニラビーンズを使用したバニラアイスクリームの販売し、11月からは「コウノトリを育むお米」でのメニュー提供やお米の販売を実施した。さらに、令和8年2月からは小笠原村の地産商品の販売を行うなど、域内環境を伝える取組を実施した。

秋の夜間開園「秋の夜のどうぶつえん」では、特別メニューの提供やメインビジュアルを用いた商品を販売した。双子のジャイアントパンダ（シャオシャオ、レイレイ）関連商品としては「4歳記念商品」を令和7年6月23日の誕生日に17品発売し、その後も令和8年1月27日の返還に向けて順次、「Thank you Xiao Xiao&Lei Lei」商品を15品展開した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

危機管理対策では、高病原性鳥インフルエンザ対策として一部鳥類の展示中止や展示舎の変更、野鳥から飼育鳥類への感染を防ぐための防鳥ネットの設置を実施した。また、園内での発生を想定した机上訓練や、開園中に猛獣が脱出した場合を想定した猛獣脱出対策訓練など、さまざまな取組を実施した。

震災対策では、警察・消防の協力のもと初動対応訓練や無差別殺傷事案対応訓練を実施するとともに、安否確認、職員参集、無線運用等の各種訓練を行った。また、発災時における園内滞留者の対応や、飼料の調達対応を検討する震災対策机上訓練を実施した。

その他、近年の猛暑への対応として、来園者・動物・職員それぞれに対する各種対策を実施した。

園内維持管理では、省エネ対策として園内施設のLED化の更新を推進するとともに、園内樹木の枝処理や剪定作業を実施したほか、鳥インフルエンザ及び害獣対策のひとつとしてハシビロコウ舎において害獣防止対策ネットへの張替えを行った。

また、利用者の快適性の向上と安全確保のため、ゴリラ・トラのすむ森の観覧通路を一部アスファルト舗装にしたほか、西園・ボート池側園路において園内で発生した竹の廃棄物を再利用したチップ舗装を行った。加えて、老朽化した園内の野外卓についても補修した。

そのほか、施設維持管理の一環として、ゴリラ舎ろ過ポンプ・石門前加圧ポンプ等の補修を行った。

3. 多摩動物公園

【動物の飼育・展示】

希少野生動物をはじめとする様々な動物の飼育展示・繁殖に努めており、38年連続でのニホンコウノトリの孵化を始め、ボルネオオランウータン、チンパンジー、イヌワシ、ヨーロッパフラミンゴ、ショウジョウトキなど、様々な種の繁殖に成功した。ボルネオオランウータンについては2頭のメスがそれぞれオスの子とメスの子を出産している。一方6月にシフゾウが死亡したことにより、多摩動物公園でのシフゾウの飼育はなくなった。そのほか、ボルネオオランウータン、ユキヒョウ、レッサーパンダなどが死亡している。

新たな繁殖・展示を目指すため、バトゥ・シークレット動物園（インドネシア）からマレーバクのメス、ソウル大公園（韓国）からユーラシアカワウソのオスとメス（韓国）を輸入した。国内の動物移動については、動物園からのチンパンジー、サーバル、オーストラリアガマグチヨタカ、モモイロペリカン搬入、傷病個体のアオバトの受入のほか、ユキヒョウやターキン、シマオイワワラビー、クロツラヘラサギの他施設への搬出を実施した。ニホンコウノトリについては国内の複数の施設へ搬出したほか、野田市から借り受けているメスと多摩動物公園のオスでペアを形成したのち当該ペアを野田市へ搬出している。

昆虫園本館では、小笠原諸島が世界自然遺産に指定されてから10年となる令和3年6月から、小笠原諸島の固有種であるアナカタマイマイを展示している。小笠原陸産貝類や小笠原の自然環境の保護について更なる普及啓発の強化のため、11月からボランティアによるスポットガイドを開始した。昆虫生態園右ウイング「里山のいきもの」コーナーの「水辺の展示」水槽では、アメンボ類などの身近な水生昆虫の展示を開始した。

施設関連では、アジアの山岳のゴールデンターキンの運動場整備工事により、運動場の地面が改修され、水はけが改善された。アジアの平原オオカミ舎については、令和7年度中に小放飼場の脱出対策の改修工事を行い、動物愛護相談センターによる現場確認ののち、使用を再開した。大放飼場についても次年度以降改修予定である。北園サバンナエリアは、柵や外構などの工事が一部残っているが、放飼場の改修が終了したため、モモイロペリカンやシロオリックス、グレビーシマウマの展示を順次開始し、混合展示が復活した。

東京産両生類の保全対象種(当時)への指定に伴い整備された非公開施設のカエル飼育用プレハブ(平成21年度完成)については、老朽化した給排水配管の更新工事を実施した。また昆虫園では、開園50周年記念事業(平成20年)の一環として策定された「身近な生き物復興計画」に基づき、園内の湧水を利用した「ホテルの流れ」でのゲンジボタルの定着を目指している。事業開始から20年ほどが経過した雑木林の若返りを図るため、環境管理作業の一環として高木4本(エゴノキ、エノキ、スギ)の伐採を実施した。

特記すべき事項として、12月28日のタイリクオオカミの園内脱出が挙げられる。開園時間中に放飼場の植栽を伝うなどして擁壁を飛び越えたメス1頭が観覧用通路へ脱出し、4時間後に園内で捕獲された。来園者はもとより関係各位に多大なる迷惑と心配をかけた出来事であり、必要な脱出防止対策を実施した他、園内の他の飼育展示施設においても臨時点検を実施し、再発防止策を徹底した。

【野生生物の保全】

環境省の保護増殖事業に基づき佐渡トキ保護センターからの分散飼育を行っているトキは、3ペアか

ら計 6 羽が育成した。そのうち 3 羽は 7 年ぶりに技術継承のため人工育雛を実施した。10 月には佐渡トキ保護センターへ移送し、来年度以降の放鳥候補となる予定である。多摩動物公園では、育成したトキを平成 20 年から佐渡トキ保護センターへ移送しており、令和 7 年度までで累計 104 羽となった。

クロツラヘラサギでは、令和 7 年に来園した義足の傷病保護個体のアニマルウェルフェア向上のため東洋装具医療器具製作所と共同研究を結び、安定した義足の開発を目指している。

アカガシラカラスバトでは、平成 30 年以降自然繁殖が順調で遺伝的多様性を高めるため、野生からの保護個体を優先した繁殖に取り組んでいる。令和 7 年度に令和元年度、令和 4 年度に来園した保護個体の繁殖に成功し、令和 7 年度末までに園内で飼育している保護個体は全て子孫を残した。

ニホンコウノトリでは 2 羽の育成に成功した。他に野田市からペア形成を依頼され、借り受けていたメス個体と当園オス個体のペアリングを行い、成立したペアを 10 月に同市へ搬出した。有精卵移動では 4 月に鴻巣市へ 3 卵を移動し、現地のペアに託し、孵化したが、育成しなかった。原因究明と改善策の検討を経て翌シーズンにあたる令和 8 年 3 月に再実施した。また関東近辺での野外コウノトリ足環装着作業へ職員を 6 か所へ派遣し、域内外保全の両面において、コウノトリの繁殖・保全に大きく寄与した年となった。

【教育普及】

キーパーズトークや動物解説員によるガイドツアー、体験プログラム「おしえて！モルモット博士！」などの定例イベントを、年間を通じて実施した。一部の学校団体向けプログラム等では、遠方からの参加が可能であるオンラインによる教育普及活動を行った。ガイドツアーでは、長時間の参加が難しい夏季に合わせ「15 分ガイド」を新たに開始した。秋以降も通常のツアーと並行し、気軽に参加できるイベントとして継続実施している。

今年度の教育普及活動において特筆すべき点を 3 つ挙げる。

① 周年事業の実施

平成 17 年にオランウータンの新施設が完成し「スカイウォーク」展示が始まってから 20 周年を迎えることを記念して、「スカイウォーク 20 周年記念講演会」を開催した。スカイウォークの歴史や特徴のみでなく、オランウータンの生息地であるボルネオの現状、パーム油問題などの環境保全に関する情報を効果的に伝え、参加者の意識向上に貢献した。

② 企画展の充実

年間を通じて大小様々な企画展を実施した。9 月の「秋の鳴く虫展」では、テーマを「五感で楽しむ感じる自然の音色」とし、暗くした会場でスズムシやコオロギ等の生体を展示し、鳴き声を聞いてもらった。虫たちが鳴く仕組みを模した楽器に実際に触れられるような新たな工夫も行った。令和 8 年の干支がウマ（午）であることから、「もう、このウマ 知ってる？」と題して新年に行う干支の企画展を開催した。現存する唯一の野生馬であるモウコノウマと、人と共に歩んできた家畜馬の、それぞれの特徴やくらしの違いを解説パネルや動画によって紹介した。

③ 恒例イベントのブラッシュアップ

企画展と同様に、毎年恒例で実施するイベントはその時々状況の変化にあわせ内容の見直しを図り、ブラッシュアップしている。毎年 4 月の「飼育の日イベント」は、課を跨いでの PT を組み、テーマ選定からイベントの組み立てなど、数か月をかけて準備を進めて開催している。今年度は「飼育係が 50 の質問に答えてみた！」をテーマに、よく寄せられる来園者からの質問に、トークやパネル等を使って飼育係から回答した。例年秋に実施している小学生向け体験イベント「オータムスクール」は、コロナ

禍でのオンライン開催、コロナ後の座学・観察中心の内容を経て、今年度は高学年向けのプログラムにおいてアジアゾウ舎での飼育体験を復活させた。開園以来継続している「こども写生画コンクール」は、猛暑対策として令和6年度から開催時期を秋に変更している。今年度は入賞作品展の会場を「れくちやーる一む」とし、壁面やパネルを活用し見やすく展示した。照明の効果もあり、来場者がじっくりと作品を鑑賞する様子が見られた。

そのほか、令和4年度から公式ウェブサイト上で公開している幼児向けオンラインコンテンツ「Kids and Zoo (キッズ アンド ズー)」は、新たにワークシート2点をリリースした。また、月刊の動物見どころ情報紙「TAMA NEWS」を発行した。

外部機関との連携としては、アフリカ各国大使館等と連携し第11回都立動物園アフリカフェアを実施したほか、都環境局の企画「デジタルでみる東京自然いきもの展」への協力、日本クマネットワークと共催のツキノワグマ普及啓発イベント等を行った。

【利用者サービス】

春と秋の繁忙期には正門の受入態勢を整え、開園時間の繰り上げを行うなど柔軟に対応した。また、動物の誕生などにより展示場前の混雑が予想される場合には、警備員の巡回強化等を行い、利用者サービスの向上に努めた。

多様な来園者を迎えるための取組として、案内接客スタッフを対象とした「英語研修」「手話講習」等を実施した。

12月28日のタイリクオオカミ脱出の際には来園者の安全面を考慮し、直ちに園内の建物に誘導するとともに、入園を一時停止、臨時休園とした。また、当日来園者には入園料及びライオンバス乗車料の返金対応を行った。

収益部門では、4月に「飼育の日」に合わせて飼育係が監修したオリジナルドリンクや、11月からは「コウノトリを育むお米」でのメニュー提供やお米の販売を実施した。6月の「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」においては、参加者へのサービス向上を図るため、初めてライオンバスの運行を行った。また、起伏や坂が多い園内の利便性向上施策として、3月から電動カートの貸出を開始した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

令和3年度から急速に拡大したナラ枯れ被害の拡大対策として、コナラの健全木にあらかじめナラ枯れ防止剤を樹幹注入し、新規ナラ枯れ感染を予防した。また、ナラ枯れ被害に遭った樹木のほか、樹木点検の結果に基づき、危険と判断された樹木の伐採や剪定作業を積極的に実施し、来園者の安全・安心の確保につなげた。

また、七生公園のり面補修や園路・広場で生じた不陸箇所の調整作業を行うとともに、なかよし広場やさくら広場など園内各広場の老朽化した野外卓の補修・更新を実施し、来園者に安全かつ快適な環境を提供した。

危機管理対策としては、テロ対策訓練を7月に実施した。園内で事件が発生した際の情報共有体制の確認及び警察への速やかな通報、サスマタを使った実技研修を通じて来園者の安全確保の流れを確認した。5月にはシャトルバス非常時対応訓練、1月にはライオンバス非常時対応訓練を行い、乗客の安全な誘導方法等の対応手順を確認した。2月には震災対策初動対応訓練を実施し、来園者避難誘導及び傷病者搬送等の対応と併せ、緊急時の速やかな対策本部の立上げと本部運営を訓練した。

また、自衛消防隊は毎月訓練を実施し、放水訓練及び各消火栓の保守点検を行ったことに加え、9月には自衛消防活動審査会へ参加し、隊員の技術及び防災行動力の向上に努めた。

4. 葛西臨海水族園

【動物の飼育・展示】

大洋の航海者エリアの「大洋の航海者マグロ」水槽では、8月にハガツオを50尾追加し、安定した群れ展示を作り上げた。

江戸川区の特産である金魚を展示している水槽を上から金魚を観察できるようにリニューアルし、レストランにおいて4月より展示を再開した。

令和5年に展示変更した「サンゴ礁の海」水槽は、照明機器やプロテインスキマーなどの設備を追加し、生物では、10月に100個体以上のサンゴを追加するとともに、スズメダイの仲間やハナダイの仲間などの魚類を1,000尾以上追加して華やかな展示へと改善した。

小笠原母島漁協から借用しているアオウミガメ2頭が大きく成長したため7月に母島へ返却し、6～7月生まれの子を2頭借用し11月から東京の海エリア「小笠原Ⅳ」水槽で展示を開始した。

1月に水族園初展示となるカザリオワンクラゲを「浮遊生物」コーナーで展示した。

2月に「海藻の林」水槽の照明などを改修し、これまで展示してきたジャイアントケルプを中心としたアメリカ西岸の生物からアラメやカジメなどを中心とした日本産褐藻類の展示へと変更した。

【野生生物の保全】

保全活動として、4園共同でアカハライモリやミナミメダカの調査を継続的に行っている。

アカハライモリの保全活動では、6月と12月にフィールド調査を実施し、あわせて、引き続きタグリーダーアンテナを用いた陸上個体探索を行った。また、地元小学校の5年生を対象に授業を4回実施し、地元中学校では全学年を対象に9月に授業を実施した。さらに、アカハライモリの取組については、8月に第37回建設局技術業務体験発表会で発表した。

ミナミメダカでは、一時飼育数の減少した葛飾区産個体群の飼育数が約300尾まで増えて安定した飼育を行っている。また、野生メダカの生息に関する情報が2件寄せられ、1件は、すでに調査を実施済みの場所で、遺伝子検査において他所からの混入が認められ、残りの1件については、情報提供者からの連絡が途絶えたため、調査は未実施で終わった。都立農業高等学校神代農場で飼育を開始している調布市原産個体群は順調に飼育がおこなわれ、その一部が普及啓発目的で都立神代植物公園植物多様性センターの施設内に移動し展示が開始された。展示水槽に来園者用に「メダカの困惑」リーフレットを設置し配布を開始した。

トビハゼ調査では、当園が事務局となり、東京湾内で調査研究を行っている8施設による「トビハゼ保全施設連絡会」を9月に開催した。フィールド調査では、7月に巣穴調査を実施し、10月に稚魚調査を実施した。また10月に予定していたトビハゼ保全施設連絡会の協力による観察会「トビハゼの調査地を訪ねる」は荒天により中止した。生息域外保全では、展示水槽内での産卵・ふ化に成功し、7月から8月にかけて22回約3300尾の仔魚の浮上を確認した。

東京産両生類の保全活動では、アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、ムカシツチガエル、アズマヒキガエルの産卵に成功し、卵の育成については、4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成をしている。

ゼニタナゴの保全では、(公社)日本動物園水族館協会が進める希少淡水魚の保全活動に協力した。4月に仔魚の浮出を確認し、7月までにこれまで最高の800尾を育成することができた。

小笠原陸産貝類の保全では、環境省が進める小笠原陸産貝類保護増殖事業計画に参画し、小笠原陸産貝類ワーキンググループへの参加と4園のとりまとめを行うとともに、小笠原諸島における個体群再生

に協力した。水族園では、環境省の小笠原世界遺産センターより新たに導入したキノボリカタマイマイを計画的に繁殖させた。

ウミガラスの保全では、環境省が進めるウミガラス保護増殖事業計画に参画し、4月に繁殖期モニタリング調査において機材設置などを実施した。12月には、ウミガラス保護増殖検討会に職員が検討委員として参加し、生息域内保全に協力している。

小笠原諸島で例年行っているユウゼン調査は、10月に兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査を、同じく10月に父島周辺海域の調査ステーションのうち3地点で生息密度と環境要因を調べるためのトランセクト調査及び兄島の調査区内で個体識別のための潜水調査を行った。ユウゼンの生息域外保全の取組としては、ペアの形成及び産卵・ふ化まで確認した。

また、1月に、第70回水族館技術者研究会開催記念講演会で「ユウゼンの海～小笠原のユウゼンをおいける～」を発表した。

【教育普及】

令和10年の新しい葛西臨海水族園のオープンに向け、11月にさまざまなイベントを開催した。「おさかなプロジェクト」としては、工事エリアに設置されている仮囲いに貼る「夢のおさかな」を作成する「夢いっぱいのおさかなアートワークショップ」、新水族園で展示する生き物を決める「みんなで決めよう！新しい水族園の生き物たち」、新水族園のサンゴ礁水槽で展示するサンゴをこどもたちと育てていく「サンゴプロジェクト」の一環として、「サンゴの苗を作ってみよう」等を行った。

年間を通じては、体験型プログラムや講演会、記念日にあわせたイベント等、多様な教育普及活動を行った。また、公式XやYouTubeチャンネルを活用し、積極的な情報発信に取り組んだ。

毎年継続しているイベントでは、7月に障害のあるこどもとその家族をご招待する「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」を実施した。今年度はセンサリーマップを作成し、事前に参加者に送付することで、安心して参加できる環境を整えた。

8月には、お盆期間中の指定日に開園時間を3時間延長し、「水族園で夕涼み」と題して「園長・副園長の夕涼みトーク」「江戸川区発！和太鼓の演奏」「氷彫刻の実演」など、夕暮れの水族園を楽しめる内容とした。

10月は葛西臨海水族園の開園記念日イベント「ALL ABOUT MAGURO」を実施し、マグロと他の魚を比べて学ぶ「くらべるマグロシート」の配布や情報資料室で「マグロのぞき」と題してマグログッズを展示したほか、スペシャルガイドツアー「マグロ裏側探検」、「マグロウルトラクイズ」、「マグロをもっと知ろう！マグロラボ」などを実施した。さらに、新たな取組として、国立研究開発法人 水産研究・教育機構の協力を受け「マグロくんのちょっと気になる！『漁業編』『水産エコラベル編』」の2本の動画を制作し、水族園の公式Youtubeチャンネルにて配信を行った。

お正月は、新年イベント「水族園のお正月2026」を実施し、水族園の展示生物をテーマにしたおみくじ「開運・かさりんみくじ」や「おめでたい生き物クイズシート」を来園者に配布した。「新春かさりん寄席」では職員が高座に上がり、おめでたい生き物や各係の仕事について講談した。

2月には「Deep of Wonder——不思議な深海の生き物たち 2026」と題し、深海の魅力を伝える各種プログラムを開催した。ブース形式で深海の世界を紹介する「深海ラボ」や国立研究開発法人 水産研究・教育機構の協力を得た「深海トークショー」を対面・オンラインのハイブリット形式で実施し、3月には、小学生を対象にした深海ワークショップ「さわって発見！深海魚のひみつ」を行った。

「西なぎさ」の自然を活用したこども向けの体験型プログラムとして、幼児向けの「進め！海のいき

ものたち」、小学1・2年生向け「いきものはじめ」、小学3・4年生向けの「海のアソビや」、小学5・6年生向けの「集まれ！汐っ子たち」をそれぞれ実施した。また、例年開催している「東京の海を知る」は、おさかなプロジェクト合同プログラム「ラムサール条約登録湿地の人工干潟を訪ねる」として、小学生とその保護者を対象に行った。

高校生・大学生向けの「海の学び舎」は「貝類を知り、世界を知る」と題して3月に対面・オンラインのハイブリッド形式で実施した。

学校との連携では、実地での団体プログラムを未就学児から大学生まで合計274件16,078名に対して実施、オンラインでの遠隔団体プログラムも、13件1,177名を受け入れた。博物館実習は12名を受け入れた。

外部との連携企画として、パートナーシップ協定を結んでいる北海道羽幌町の北海道海鳥センターで7月に開催された海鳥フェスティバルでは、遠隔操作ロボット体験を実施し、参加者はロボットを操作して「海鳥の生態」エリアで飼育展示している海鳥の様子を観察した。また1月には、講演会「つどえオロロヘン！」を共催で開催した。

その他、一般向け講演会として、世界湿地の日にあわせた身近な水辺保全講演会「東京湾のアマモ場再生の来し方と行く先」を行った。

移動水族館事業は、障害等のために来園することが難しい特別支援学校や社会福祉施設などの利用者を対象に、合計55回9,173名に実施した。

【利用者サービス】

多様な来園者を迎えるため、全ての来園者が楽しめる場を目指し、アクセシビリティの向上を目的とした取組を実施した。案内カウンターでは、会話を可視化する透明ディスプレイを導入してユニバーサルコミュニケーションの促進を図ったほか、来園者の多様なニーズに対応し、感覚過敏のある方々も安心して過ごせるように「センサリーグッズ」の貸出を開始し、3月には、園内の音や光などの刺激をできるだけおさえて開園する「クワイエットアワー」を試行した。また、設備面では、感覚過敏や刺激を感じやすい来園者が安心して過ごせるようカームダウンスペースを設置するとともに、ベビーケアルームを増設し、乳児連れでも利用しやすい環境を整備した。さらに、案内接客スタッフのホスピタリティ向上を目的として、外国人来園者への対応力強化のために「英会話講習」を年12回実施したほか、障害者への理解を深め、適切なサポート方法を学ぶ「ユニバーサルマナー研修」を実施した。

夏季における園内サービスとして、無料休憩所において、遮熱・遮光を目的としたつる性植物（西洋アサガオやトケイソウ）による緑陰の創出を継続したほか、輻射熱対策としてミスト扇風機の導入（正門、レストハウス、ペンギンテラス）や館内に冷風機の設置など、涼感の演出による入園者向けサービスを継続実施した。

収益部門では、環境に配慮した取組を積極的に行い、再生プラスチックや海洋ごみを活用した商品の販売や地産地消を推進するとともに、洗剤やゴミ袋を環境保護に配慮した製品に切り替えた。ギフトショップでは、海鳥の保全を広く伝えるため、葛西臨海水族園とパートナーシップ協定を締結している北海道羽幌町に生息する海鳥をデザインした手ぬぐいを販売した。レストランでは、生き物の魅力を知ってもらう取組として、夏季には魚の性転換をテーマにしたドリンクメニュー「キンギョハナダイのトロピカルレッド」を販売した。冬季にはメンダコをモチーフにしたデザートを販売し、SNSで話題になるなど、来園のきっかけづくりにつながる取組を実施した。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

経年劣化による機器故障の補修や配管類の破損部の修繕を行うとともに、予防保全として不具合発生前に機器の改修や排水処理所の躯体補修を実施した。さらに、快適性向上のため、屋外路面の補修、直営によるベンチ塗装など、約190件の工事や修繕などを実施し、施設の適切な運用に努めた。また、今後の維持管理の効率化を目指し、DXを活用した点検等の試行を行った。

園内樹木植栽は、公園などで発生した倒木等を踏まえ、臨時の樹木点検を行ったほか、引き続き樹形を考慮しながら剪定などを行い、健全な生育と自然環境の創出、保全を行った。

危機管理対策としては、大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定の締結先である新潟市水族館マリニア日本海、名古屋港水族館と有事に備えて、危機管理体制の確認、備蓄品リストの交換を行った。12月には、大地震発生後の津波警報発令を想定した初動対応訓練を実施した。訓練時の避難誘導アナウンスは海外からの来園者も想定し、日本語に加え英語によるアナウンスも行った。また、実地訓練後に発災9時間後の状況を想定した机上訓練を行い、各部署での対応を共有した。

テロ対策に関する職員の意識及び対応力の向上を目的として、葛西警察署及び警視庁、隣接する公園と連携したテロ対処合同訓練を実施した。警察指導のもとサスマタの実技講習及び爆発物に関する講習会を実施したほか、テロ予告後に不審物を園内で発見した際の対応について訓練を通して確認した。

感染症防止対策として、手指消毒液を園内各所に設置したほか、高病原性鳥インフルエンザ対策として、一般来園者が利用するゲート棟及び関係者通用口への消毒マットの設置や入場車両への消毒液噴霧、野鳥飛来防止のため園内池の落水など様々な取組を実施した。また、高病原性鳥インフルエンザに罹患した飼育個体発生時の備えとして机上訓練を行い、具体的な対応手順を確認した。

5. 井の頭自然文化園

【動物の飼育・展示】

動物園（本園）ではカピバラの放飼場を整備したのち、那須どうぶつ王国からオス1頭を6月2日に搬入し、1年半ぶりに展示を再開した。10月6日には上野動物園よりルリカケスのオス1羽を移管し、従来飼育していたメスと同居させ、ペアでの展示とした。また、ホンダヌキのメス1頭を松本市アルプス公園から12月に搬入し、展示を再開した。

本年度もコシジロヤマドリ的人工繁殖に取り組み、5月19日にオス1羽を育成して展示することができた。ニホンカモシカは令和4年度から4年連続で繁殖に成功し、7月10日にオス1頭が誕生した。また、昨年度生まれのオス1頭は11月に盛岡市動物公園ZOOM0へ搬出した。

国内のヤクシカ個体群維持のため、当園のヤクシカメス2頭を沖縄こどもの国へ搬出し、小諸市動物園と松本市アルプス公園からメスを各1頭搬入して、新たな繁殖群を構築した。3月にはフェネックで交尾が見られ、超音波診断により妊娠と判定された。また、アムールヤマネコでも妊娠の兆候が見られた。

水生物園（分園）では、水鳥類の繁殖に取り組み、オシドリ5羽、オカヨシガモ5羽、コールダック3羽（人工育雛）、ヒドリガモ5羽（人工育雛）、サカツラガン2羽を育成した。

害獣による食害事故が発生したコールダック舎は、全面金網に改修工事を行い、3月よりコールダックの展示を再開した。

水生物館では、都内産両生類や、ゲンゴロウ、タガメなどの水生昆虫の繁殖に取り組み、多数の繁殖仔を得ることができた。特設展示では、水生物館の建物が竣工50周年を迎えたことに合わせた記念特設展示「水生物館のあゆみ」や「川ガキ、しってる？～水辺で遊ぶこどもたち～村山嘉昭写真展」のほか、常設展示エリアを活用した「しずくのたび」など、3回の特設展示を実施した。

【野生生物の保全】

当園は、環境省と（公社）日本動物園水族館協会が共同で進める「ツシマヤマネコの保護増殖事業」に参画し、アムールヤマネコでの人工授精の成功を受け、同事業において「人工繁殖推進施設」と位置付けられている。アムールヤマネコにおいて人工授精技術の開発を継続しており、本年度は課題であった子宮頸管を内視鏡で通過することができた。

平成29年度から小笠原諸島父島に生息する陸産貝類（カタツムリ類）の絶滅危惧種であるカタマイマイの生息域外保全を開始し、平成30年6月に初めて産卵を確認して以降、累代繁殖を続けている。今年度はカタマイマイ類の野生復帰個体の補強を目的とした、本土繁殖個体の父島への移動の実現を目標に、リスクの確認を行い、リスクの回避を実現させる取組を始めた。

また、（公社）日本動物園水族館協会と環境省との間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づくトゲネズミ類の生息域外保全等推進事業に協力し、令和2年7月にアマミトゲネズミのオス6頭、メス4頭を受け入れて飼育を開始した（非公開）。同事業において策定した「令和7年度アマミトゲネズミ移動・繁殖計画」に基づき、各協力園館との個体移動を行った。令和6年度末より当園で初の展示を開始し、今後もペアリングを進め繁殖を目指していく。

域内保全活動として、井の頭、葛西、上野の3園と野生生物保全センターが共同でアカハライモリの調査を継続的に行っている。5月と12月の2回にわたり本活動のワークショップを行い、「50年後に東京でアカハライモリを身近な生きものとする」というビジョンが設定された。このビジョンの達成のため

めの課題抽出、具体的なアクションプランが策定された。

6月と12月の年2回調査を実施し、個体数の推定や新規個体の確認、マイクロチップの挿入など生息状況のモニタリングを行った。陸上個体の探索では、1個体のみの確認に留まり、陸上での生態解明には依然として課題が残っている。

淡水魚類については、(公社)日本動物園水族館協会の種保存事業に協力し、ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、シナイモツゴの域外保全に取り組んでいる。

東京産両生類では、7年ぶりに繁殖したトウキョウダルマガエルのほか、アカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエル、ムカシツチガエルで産卵が見られた。育成については4園で構成する東京産両生類ワーキンググループの繁殖計画に従い、計画的な育成に取り組んでいる。

【教育普及】

① 定例イベント

展示動物の見どころや生態を伝える「動物解説員のガイドツアー」、飼育係が担当動物について解説する「飼育係のいきものガイド」、彫刻園学芸員による「彫刻園ギャラリートーク」（6月から再開）、身近ないきものを探して観察する「いきもの広場であそぼう!」、東京動物園ボランティアーズによるガイドなどを実施した。

② 飼育動物やフィールドを活用した特別プログラム

セミやタネを採って観察する「身近ないきもの探検」を2回、展示動物や井の頭池の野鳥を観察する「文化園いきものクラブ」を5回開催した。9月に友の会ジュニア会員向けに観察プログラム「井の頭池いきものたんけん」、10月には友の会会員向けに「我孫子市鳥の博物館と野鳥観察ツアー」を開催した。

③ 資料館の特設展

アマミトゲネズミの一般公開にあわせて3月から6月まで特設展「アマミトゲネズミがやってきた!～奄美の森のちいさないきもの～」を開催した。7月から8月まで写真展「ZOO IS THE PEACE ―井の頭自然文化園と戦争の時代―」を開催し、戦後80年の節目として、戦中・戦後の当園の歴史を写真で振り返るパネル展示を行った。

④ 水生物館の特設展

4月から11月まで水生物館特設展示「しずくのたび」を開催し、しずくと一緒に水辺の上流から下流へと展示水槽をめぐるストーリー仕立ての展示を行った。5月から6月、9月から翌年1月の二期に分けて、現・水生物館竣工50周年記念特設展示「水生物館のあゆみ」を開催し水生物館の歴史を紹介した。7月から8月まで水生物館特設展示「川ガキ、しってる?～水辺で遊ぶ子どもたち～村山嘉昭写真展」を開催した。

⑤ ヤマネコ祭

10月に「ヤマネコ祭2025～島にすむ生きものたち」を開催した。対馬、小笠原諸島、奄美大島、西表島の島嶼部で野生動物の保全に取り組む10団体が普及啓発活動を行った。

⑥ 講演会

6月にアマミトゲネズミ保全講演会「アマミトゲネズミを知ろう～奄美の森でおきていること」、10月にヤマネコ保全講演会「対馬と西表島のヤマネコたち―飼育・調査からつむぐ」、3月に世界湿地の日イベントとして身近な水辺保全講演会「ハクチョウと旅するスワンププロジェクト ―知る、考える、

水鳥のくらし」を開催した。

⑦ 地域連携企画

地域連携活動として、8月に武蔵野市エコレポートワークショップに参加、9月に「第33回三鷹国際交流フェスティバル」に出展、12月に三鷹ネットワーク大学で講演を行うなど地域住民への動物園事業の周知に努めた。また、11月に吉祥寺駅周辺の3店舗の絵本屋と協力して「吉祥寺絵本屋さんめぐり」を開催した。

⑧ 彫刻園

4月から8月まで、彫刻家北村西望の動物彫刻を紹介する彫刻園企画展「西望アニマルズ」を開催した。また開園記念イベントや夜間開園、新年イベントで彫刻館学芸員によるトークイベントやガイドツアーも実施した。1月から2月には武蔵野美術大学芸術文化学科とのコラボレーション企画「ちょうこくのたまご」を開催し、各種ワークショップを共同開催した。9月から翌年の4月まで彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.9「アヤ井アキコ 絵本『こうもり』原画展」を開催した。制作の様子やコウモリの生態を紹介するサテライト展示「絵本『こうもり』ができるまで」を資料館で開催し、関連のイベントも開催した。また2月からボランティアによる平和祈念像ガイドを開始した。

⑨ セルフガイドプログラム

9月～11月にかけて怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇—井之頭百物語・終（じゅう）」を開催し、怪談スタンプラリーは第10弾で終了した。1月には文化園干支クイズラリー「かけぬけろ！おはなしめいろ うまラリー」を開催し、多くの方に利用いただいた。

【利用者サービス】

最繁忙期であるゴールデンウィーク期間中の利用促進及び混雑緩和を図るため、公式ウェブサイトを通じて、期間中の開園スケジュールや見どころ、オンラインチケットの利用促進等に関する情報発信を行った。

6月に障害のあるこどもとその家族を招待する「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」を開催し、キーパーズトークや標本を使ったガイドコーナーに初めて手話通訳を導入した。カームダウンスペースも設置し、参加者が安心して園内をめぐるためのセンサリーマップを制作した。11月からセンサリーマップを東京ゾーネットに掲載し、園内配布を開始した。

11月8日、9日には、恒例の秋の開園3時間延長イベント「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催し、夜ならではの動物ガイドのほか、コンサートや彫刻・影絵のライトアップなど、園全体の雰囲気を楽しんでもらえるよう催しの充実を図った。イベント周知のため、令和6年度に続き吉祥寺駅構内大型サイネージに加え、新たに通路柱12面のサイネージへも広告を掲出した。地域情報紙やまち案内所など出稿媒体も増やし、近隣地域への宣伝を強化するとともにInstagram等のSNSを活用した情報発信も継続して行った。多くの来園者が夜間開園を目的に来園し、16時以降の延長時間帯における入園率は前年比9.8%増となった。来園者アンケートでは、98.5%の方から「満足」の回答を得た。

接遇力向上を目的として、案内接遇スタッフを対象に各種研修を実施した。英会話研修では、ネイティブスピーカー講師によるディスカッション形式の研修を年7回実施した。ビジネスマナー研修では接遇の専門講師を迎え、「お客様対応力向上」をテーマに、事例研究やロールプレイを通じて来園者のさまざまな状況に即した対応力への理解を深めた。

ギフト&フードショップ「こもれび」とフードショップ「はな子カフェ」では、当園らしいデザインを活かしたオリジナル商品を展開した。フード商品では、飼育展示係が監修した動物モチーフのメニュー

や季節に応じたオリジナルメニューを積極的に導入し、訪れる楽しさを提供した。さらに、園のイベントと連携し、ヤマネコ祭りでは対馬銘菓「かすまき」と「対馬紅茶」のセットを、夜間イベントではオリジナルステッカーを販売した。そのほか、ゴールデンウィークには正門前広場で仕入れ弁当の販売、春休みには「はな子カフェ」横でキッチンカーの営業を行うなど、来園者の状況に応じた柔軟かつ効率的な店舗運営を行った。

案内・誘導機能の向上を図るため、サインの更新及び新設を行った。平成19年度から数年の間に設置された園周辺の誘導サイン（7か所）は、貼り替えを行い、専属デザイナーによる文化園らしい、より魅力的で分かりやすいものにリニューアルした。園内においても施設案内サイン（10か所）を更新し、英語表記を追加するとともに、彫刻園への利用促進を目的とした誘導サインを新設した（1か所）。

観覧環境の改善として、分園の水辺の小道を土舗装に改修及び小道上にあった樹木の切り株を生かした植栽に改修した。また彫刻館前床面タイルや分園ハクチョウデッキ床面タイルの破損箇所を新規タイルへ張り替え、本園及び分園各所の水たまりや段差、根上がり無くし快適な観覧環境を造成した。また、ツシマヤマネコ舎やマイマイ舎前の植栽を各生物の生息環境を再現した植物種に改修し、動物展示との一体感を創出した。

来園者に安心して休んでいただけるように、ベンチや野外卓を点検し、不具合箇所は適宜補修したほか、3月に25基のベンチの座板等の更新を行った。

花木の植栽管理として、桜、藤、シャクナゲ、椿、山野草など、季節を彩る花の充実を図り、来園者に楽しんでいただけるように日々の管理を行った。さらに園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」及び「花ごよみ動画」を配信して文化園の魅力発信に努めた。また、3月に「植物担当職員によるツバキガイド」を実施し、園内の椿の見どころを紹介した。

年末・年始の飾りつけや、雪吊の製作、園内の植物素材を用いた時節の飾りつけなどを行ったほか、1月には「農園芸職員とめぐる正月飾りと冬支度」を実施し、園内正月飾り等を紹介し来園者に楽しんでいただいた。

【施設管理や危機管理体制の整備による安全・安心の確保】

来園者及び園外周沿道の歩行者、通行車両の安全・安心確保のため、日々の巡回点検により支障枝・腐朽枝等を早期に発見し処理に努めるほか、大径樹木については高所作業車による支障枝等の撤去作業を実施した。また、園内全域の樹木点検を実施して樹木の状態を把握し、状態の悪い樹木に対して樹木医による点検や機器診断等を実施し、処置方法を検討するなど管理を行い安全・安心の確保に努めた。

危機管理対策では、平常時からの準備強化と、非常時に落ち着いて行動できる体制づくりの重要性を再認識することを目的に、各種訓練を実施した。12月には、武蔵野警察署及び三鷹警察署と連携し、テロ対策訓練を実施。不審者が刃物と不審物を所持して園内に現れるという想定のもと、不審者の確認、速やかな110番通報、来園者の避難誘導、サスマタの使用など、一連の対応を実践形式で確認した。実技を通じてサスマタの扱い方や安全な距離の取り方を習得するとともに、通報手順の理解、持ち場間の連携、放送による情報共有など、多面的な訓練を行った。また2月には、地震発生時の初動対応力向上を目的とした震災対策初動対応訓練を実施。園内全エリアを対象に、無線の運用確認、避難誘導、安否確認、施設被害箇所のチェック体制を実地で検証したほか、来園者への声かけ、傷病者搬送、閉じ込められた来園者の救助など、状況に応じた実践的対応も行った。さらに、事業継続を目的とした机上訓練も併せて実施し、災害時における本部運営、情報伝達、備品管理の課題を整理した。

Ⅱ. 事業実績

〔１〕飼育・展示事業

１. 展示動物の収集・管理

（１）動物収集業務

国内外の飼育動物の情報収集に努め、動物交換、贈与、共同繁殖のための動物貸借（BL：ブリーディングローン）等により動物の導入を積極的に行った。

【主な収集動物】

園 名	種 名	数量	区分	摘 要
上 野	コツメカワウソ	2	贈与	那須どうぶつ王国
	ニシローランドゴリラ	2	借受	京都市動物園、東山動植物園
	ライチョウ	1	借受	富山市ファミリーパーク
	ルリカケス	2	その他	鹿児島県龍郷町にて捕獲
	フトアゴヒゲトカゲ	2	贈与	鳥羽水族館
多 摩	マレーバク	1	交換	インドネシア・Batu secret zoo
	チンパンジー	1	借受	安佐動物公園
	グレビーシマウマ	2	借受	京都市動物園、富山市ファミリーパーク
	ユーラシアカワウソ	2	贈与	韓国・ソウル大公園（ソウル動物園）
	シロオリックス	1	贈与	羽村市動物公園
葛 西	オウサマペンギン	1	借受	長崎ペンギン水族館
	メガネモチノウオ	3	購入	伊豆中央ホールディングス(株)他
	キクメイシ	22	その他	鹿児島県西之表市にて採集
	ハガツオ	50	購入	池上水産
	サケビクニン	10	交換	登別マリニパークニクス
井の頭	カピバラ	1	贈与	那須どうぶつ王国
	アカエリヒレアシシギ	1	その他	東京都環境局
	ヤクシカ	1	贈与	小諸市動物園
	キュウシュウノウサギ	1	贈与	安佐動物公園
	フェネック	1	贈与	ふくしま海洋科学館

（２）動物管理業務

動物台帳の管理を適正に行ったほか、国内外における希少種血統登録への参画や約100カ国で1,200以上の動物園水族館等が加盟するSpecies360（旧称：国際種情報システム機構）の会員として、動物情報管理システム（ZIMS）を用いて世界中の園館と動物情報を共有する等、適切な個体群管理に取り組んでいる。

【展示動物飼育数】（令和8年3月31日現在）

園名	類	目	科	種	点	備 考
上 野	哺 乳 類	16	51	84	1,036	
	鳥 類	20	42	93	469	
	は 虫 類	4	28	64	248	
	両 生 類	2	13	23	369	
	魚 類	7	7	7	119	
	無 脊 椎 動 物	5	5	6	342	
	計	54	146	277	2,583	
多 摩	哺 乳 類	10	27	53	488	
	鳥 類	16	22	72	833	
	は 虫 類	1	3	4	28	
	両 生 類	2	5	7	72	
	魚 類	1	1	3	4	
	無 脊 椎 動 物	20	50	95	16,753	シロアリ目及びハチ目の社会性昆虫2科2種6群含む
	計	50	108	234	18,178	
葛 西	哺 乳 類	0	0	0	0	
	鳥 類	2	2	6	244	
	は 虫 類	1	1	2	10	
	両 生 類	2	5	6	254	
	魚 類	23	114	466	14,721	
	無 脊 椎 動 物	74	190	539	29,406	
	計	102	312	1,019	44,635	
井 の 頭	哺 乳 類	6	15	31	366	
	鳥 類	13	24	61	264	
	は 虫 類	2	6	9	31	
	両 生 類	2	7	10	468	
	魚 類	7	11	33	1,666	
	無 脊 椎 動 物	7	13	14	478	
	計	37	76	158	3,273	
合 計					68,669	

2. 飼育展示・調査研究

(1) 日常飼育業務

動物の健康と飼育環境管理を適正に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により動物の特性を引き出すための展示改善やエンリッチメントを積極的に行った。

① 主な繁殖動物

園名	動物名	出産・孵化数				備考
		オス	メス	不明	計	
上野	シロテテナガザル		1		1	
	コビトカバ		1		1	
	スマトラトラ	1	1		2	
	オガサワラカワラヒワ			2	2	
	ルリカケス			1	1	
多摩	ボルネオオランウータン	1	1		2	
	チンパンジー	1			1	
	イヌワシ			1	1	
	ショウジョウトキ			5	5	
	サキシマカナヘビ			9	9	3死亡
葛西	ミナミイワトビペンギン	2	1	3	6	3死亡
	フェアリーペンギン		2	1	3	2死亡
	ウミガラス	2			2	
	エトピリカ			2	2	2死亡
	ゼニタナゴ			800	800	
井の頭	ニホンカモシカ	1			1	
	テンジクネズミ	21	18		39	2死亡
	ニホンリス	33	30	10	73	36死亡
	ヒドリガモ	4	1		5	2死亡
	オシドリ	2	4		6	1死亡

② 主な展示改善

園 名	主な展示改善の件名	内 容
上 野 動 物 園 合計19件	アジアゾウの同居	令和2年のアルン♂誕生以降、関係悪化により分離飼育となっていたスーリヤとウタイの再同居に成功し、メス2頭展示を再開した。これにより、オスは単独、メスは複数頭の群れで生活をする生態に沿った展示をすることができた。
	ゴリラの展示パネル更新	ゴリラ展示場付近に解説サインを設置。来園者調査の結果等を踏まえて改良した。生態の解説や現地の問題などに理解を促した。
	スマートフォン回収箱の常設	昨年度世界ゴリラの日に設置していたスマートフォン回収箱を常設化した。3月までに84台回収し、認定NP0法人テラ・ルネッサンスへ送付。
多 摩 動 物 公 園 合計11件	サバンナエリアの混合展示再開	飼育エリアの工事終了に伴い、動物の引越しと新規個体導入を行い、キリン・グレビーシマウマ・シロオリックス・モモイロペリカンの混合展示を再開した（4種展示再開は高病原性鳥インフルエンザ対策の関係で令和8年4月から）。
	タヌキのため糞展示	夜行性で日中の観察が難しいタヌキに関心を持ってもらえるよう、同じ場所に繰り返し糞をするタヌキの習性を活かして「ため糞場」を展示し、解説ラベルを掲示した。
	アナカタマイマイの解説強化	常設の生体展示に近似種や天敵に捕食されている様子を模したフィギュアを併設し、生態・すみわけ（進化）・外来種問題（保全）についての解説を強化した。
葛 西 臨 海 水 族 園 合計14件	葛西周辺のカニ（干潟）水槽の加温	ヒーターを設置し水槽内を加温したことで、以前に比べ気温の低い日でもチゴガニが活動的になり観察しやすくなった。
	金魚水槽の更新	江戸川区特産である金魚の展示水槽を上から観察できる水槽にリニューアルした。
	海鳥と魚類の同居展示	水槽内に魚類を追加搬入し、鳥類と魚類の同居展示を来園者が観察しやすいようにした。
井の頭自然文化園 合計8件	水生物館の解説サインの増設	大型エントランスボードや解説サインを増設し、湧き水によってもたらされる水辺の環境と生きものの関わりについて、来園者に情報提供を行った。特設展示として開始し、その後常設展示とした。

園 名	主な展示改善の件名	内 容
	カワウソの解説サインの設置	カワウソの一日の行動を説明した解説サインを設置し、夜行性で日中にあまり活動しないカワウソ本来の暮らしを来園者に伝える展示とした。
	マーラの解説サインの掲示	来園者の発話調査をもとに「マーラと見た目が似ている動物との共通点」を紹介する解説パネルを設置した。その結果、来園者がパネルを見ながら会話する様子がみられ、観察や展示への関心が高まった。

③ 主なエンリッチメント

園 名	主なエンリッチメントの件名	内 容
上 野 動 物 園 合計146件	ゴリラのフィーダー作成	野生ゴリラのシロアリ採食行動を引き出すフィーダー：野生のゴリラはシロアリの巣を破壊し、破片を片手で振ってもう片方の手で落ちてきたシロアリを受けて食べる。これと同じ行動を引き出すフィーダーを作成したことで、同様の行動が引き出され、採食時間の延長にも貢献した。
	スマトラトラへの鹿肉給与	採食エンリッチメント（毛皮付き鹿肉） 成型肉 2 kg を与えたときの採食時間が 10 分弱なのに対して、同量の鹿肉を与えた場合には採食時間が約 20 分増加した。採食行動としては、「毛皮を口で剥ぐ」「前肢で鹿肉を押さえる」「骨から肉を噛みちぎる」などが確認され、レパートリーが増加した。
	コビトカバのあかざれ予防	肢にできるあかざれを予防して福祉を向上させる目的で、プールの水温調節の時期に、空気加湿や皮膚の保湿・血行促進のためのマッサージを実施した。
	アジアゾウの室内吊り下げフィーダー、ゴリラへのタマリンド給与、アメリカバクの竹フィーダー、ミナミコアリクイの組み木への餌台増設、アビシニアコロブスへの季節の枝葉給与 など	
多 摩 動 物 公 園 合計135件	ターキンへのエンリッチメント器具の設置	ゴールデンターキンの展示場に体を擦り付けられるエンリッチメント器具を設置。角や体を擦るなど様々な刺激を与えることができた。
	老齢ケナガワラルーの移動補助	大きな段差を降りるのが困難になった老齢個体のために、補助の段を作成した。

園 名	主なエンリッチメント の件名	内 容
	アフリカゾウのフィーダー作成	餌を入れたブイフィーダーを天井上部の電磁石にくっつけ、タイマーを使って特定の時間にフィーダーが落ちるよう細工し、夜間でも給餌ができるようにした。電磁石とフィーダーを複数用意することで時間をずらして給餌することもでき、常同行動の減少に繋がった。
	ヤギのフィーダー設置、鳥インフルエンザ対策期間中のエミュー・モモイロペリカンの屋外放飼エリア作成、トナカイの暑さ対策、グレビーシマウマの給餌内容見直し など	
葛 西 臨 海 水 族 園 合計13件	ペンギンの屋外放飼	ミナミイワトビペンギンの行動解析結果を基に、夏季の屋内収容中でも一時的に放飼し、運動量の増加につなげた。
	海藻の林の環境改善	日本産褐藻類が飼育できるように照明の変更及び水流装置を設置した。
	サンゴ礁の海の環境改善	サンゴに適した飼育環境に近づけるために照明の変更及び水流装置を設置した。
	海鳥・ペンギンへの給餌品目増加、ペンギン屋内施設への擬岩設置 など	
井の頭自然文化園 合計30件	アカゲザルの消防ホースハンモック設置	休憩場所としての利用や給餌方法の幅を広げるために設置した。遊具として利用し遊びのマンネリ化を軽減した。
	ヤマネコキャットウォーク	ヤマザキ看護大の研究協力にて、放飼場に木製キャットウォークを設置し、ツシマヤマネコの傷病個体に対する効果を検証した。
	テンにヘチマの使用	自傷行為や常同行動が軽減した。
	飛翔不可ゴイサギの枝木スロープ、ヤクシカ寒さ対策の寝床設置、ニホンアナグマへの丸太搬入、サル山へのかじり枝給与 など	

(2) 研究成果の発表

動物園で得られた野生生物や教育普及活動に関する情報や研究成果等について、研究会等で積極的に発信した。

① 上野動物園（合計29件）

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
飼育下アイアイ (<i>Daubentonia madagascariensis</i>) の行動的保定による採血のためのハズバンダリートレーニング	木岡真一	日本野生動物医学学会誌 Vol. 31 No. 1

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
ケープペンギンに対するアトバ コン/プログアニルを用いた鳥 マラリアの新しい予防方法の検 証	荒巻玲	第 33 回ペンギン会議全国大会・ 第 23 回ペンギン飼育技術研究会 (口頭)
上野動物園両生爬虫類館での生 餌の使用にあたって	山本芽依、川崎繭	2025 年度 関東東北北海道ブ ロック動物園水族館合同技術者 研究会プログラム (口頭)
データの定量化によるヒメハリ テンレックの繁殖改善	鈴木潤也、坂下涼子	第 73 回動物園技術者研究会 (口 頭)
第 2 回動物福祉研究部シンポジ ウム報告：環境エンリッチメン トの実践と評価	<u>山梨裕美(京都市動物園、</u> <u>SHAPE-Japan)、</u> <u>柏木伸幸 (か</u> <u>ごしま水族館)、</u> <u>伴和幸(豊橋</u> <u>総合動植物公園、SHAPE-</u> <u>Japan)、</u> <u>安西航(広島市安佐</u> <u>動物公園)、</u> <u>加古智哉(名古屋</u> <u>港水族館)、</u> <u>川瀬啓祐(日立市</u> <u>かみね動物園)、</u> <u>萩原慎太郎</u> <u>(福山市立動物園、SHAPE-</u> <u>Japan)、</u> <u>橋本直子(京都大</u> <u>学)、</u> <u>木岡真一、</u> <u>岡部光太(京</u> <u>都市動物園、SHAPE-Japan)、</u> <u>中山侑(千葉市動物公園、</u> <u>SHAPE-Japan)、</u> <u>井出貴彦、小</u> <u>泉まなか(天王寺動物園)、</u> <u>一方井祐子(金沢大学)、</u> <u>大谷祐</u> <u>紀(成城大学)</u>	動物園水族館雑誌 第 68 巻 第 1 号
野生動物のペット取引を考える ための教材作成とその評価	<u>山梨裕美(京都市動物園)、</u> <u>東</u> <u>芝香織 (イラストレー</u> <u>ター)、</u> <u>赤見理恵 (日本モン</u> <u>キーセンター)、</u> <u>浅川陽子</u> <u>(WWFジャパン)、</u> <u>木岡真一、</u> <u>中山侑(千葉市動物公園)、</u> <u>伴</u> <u>和幸 (豊橋総合動植物公</u> <u>園)、</u> <u>戸澤あきつ (帝京科学</u> <u>大学)、</u> <u>工藤宏美 (京都大学</u> <u>野生動物研究センター)、</u> <u>本</u> <u>田直也 (一般社団法人野生生</u> <u>物生息域外保全センター)、</u> <u>徳山奈帆子 (中央大学)</u>	SAGA27 (ポスター)

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
アジアゾウの母子分離と成獣の関係再構築について	鈴木莉理芳	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
アジアゾウ成獣メスの関係再構築について	島田優也	第34回ゾウ会議（口頭）
仮設舎で飼育しているニホンザル群れのQOL維持について	高畑向葵	第32回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
キリンの削蹄のための麻酔を行った一例	生井澤初枝、荒巻玲	第13回キリン研究会（口頭）
ワオキツネザルの給餌内容の変更について	吉田隼	第73回動物園技術者研究会（口頭）
島に持ち込まない 持ち出させないために	高橋幸裕	東京都とガラパゴス諸島チャールズ・ダーウィン財団連携協定締結 5 周年記念講演会「世界遺産小笠原、ガラパゴスとつながる」（口頭）
オガサワラカワラヒワ 動物園における域外保全の取り組み	高橋幸裕	日本鳥学会2025年度大会（口頭）
オガサワラカワラヒワ 島嶼からの航路を用いた個体輸送、内地の動物園における飼育繁殖経過報告	高橋幸裕、岩崎亜美、奥谷秋華、吉村映里、栗原拓也、小川美紀、平野雄三、谷口敦、坪井あきは、藤岡紘	第31回日本野生動物医学会（口頭）
オガサワラカワラヒワの飼育繁殖における取組みについて	高橋幸裕、小川美紀、奥谷秋華、岩崎亜美、菅野友夏、宮田桂子、乾愛香	第73回動物園技術者研究会（口頭）
乗鞍岳に生息するニホンライチョウからの採精の試みについて	<u>田坂樹里、石井裕之（横浜市繁殖センター）、杉本悠真、栗原拓也、高橋幸裕、小川美紀、奥谷秋華、江原雄輝、中茉莉子、秋葉由紀（富山市ファミリーパーク）</u>	第73回動物園技術者研究会（口頭）
飼育下のオオアrikuiにおける常同行動の実態と発生要因	<u>中山侑（東京農工大学、千葉市動物公園）、木村 隆司、前田亮輔（江戸川区自然動物園）、中根建宜（静岡市立日本平動物園）、武田梓（名古屋市東山動物園）、前外間利奈（沖縄こどもの国）、小針大助（東京農工大学、茨城大学）</u>	第 24 回種保存会議（ポスター）

タイトル・演題	発表者・ 著者	発表場所又は掲載雑誌等
ガムの給餌割合が飼育下スローリス類 (<i>Nycticebus</i> spp.) の採食量、消化率および行動に及ぼす影響	<u>筈谷友香 (岐阜大学)、高橋勇太 (日本平動物園)、森久保秀、中山侑 (東邦大学、千葉市動物公園)、濱田昌平 (千葉市動物公園)、八代田真人 (岐阜大学)</u>	動物の行動と管理学会2025年度大会 (口頭)
ルリカケスの孵卵及び人工育雛の技術開発	奥谷秋華	第73回動物園技術者研究会 (口頭)
ルリカケスの生息域外保全と人工育雛	奥谷秋華	保全・栄養シンポジウム (口頭)
エトルフィン使用報告 (キリン)	平野雄三	第37回大型動物麻酔研究会 (口頭)
Giraffe anesthesia at Ueno zoo	平野雄三	2025Taiwan Giraffe Care Workshop (口頭)
高齢馬のQOL維持の一例紹介	小澤詩歩	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会 (口頭)
古賀初代園長とZOO IS THE PEACEについて	東條裕子	戦後80年“ZOO IS THE PEACE”シンポジウム (オンライン口頭)
飼育体験プログラムのセオリー評価 ～教育プログラムのデザインの評価実践～	齊當史恵、半澤典子、野中碧	第66回日本動物園水族館教育研究会いわき大会 (口頭)
Use of social media at Ueno Zoo	金沢大樹	33rd SEAZA Conference (口頭)
スマトラトラ繁殖成功への道のり “常識” を見直す	廣瀬格、高岡英正	どうぶつと動物園 2025 年春号 (2025. 4)
コビトカバ“コブシ”の誕生と成長	橋川真弓	どうぶつと動物園 2025 年秋号 (2025. 10)
アジアゾウ“アルン”の独り立ちと“スーリヤ”“ウタイ”の新生活	山口翔平	どうぶつと動物園 2026 年冬号 (2026. 1)

② 多摩動物公園（合計31件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
マダラチョウ亜科昆虫代謝物に含まれる生理活性物質の探索	<u>水村日虹（東京農工大学）、中野美帆（東京農業大学）、田畑邦衛、本田計一（広島大学）、坂本卓磨、天竺桂弘子（東京農工大学）</u>	第10回蚕糸・昆虫機能利用関東地区学術講演会（ポスター）
マダラチョウ亜科昆虫代謝物に含まれる生理活性物質の探索	<u>水村日虹（東京農工大学）、中野美帆（東京農業大学）、坂本卓磨（東京農工大学）、本田計一（広島大学）、伊藤喜之、加藤敏代（東京農工大学）、片田菜美、天竺桂弘子（東京農工大学）</u>	第70回日本応用動物昆虫学会大会（ポスター）
東京都多摩動物公園の陸生異翅亜目	<u>櫻井博、茂木正人（東京海洋大学）、古川紗織、杉田務</u>	Rostria, No. 70, 2025
国内最高齢のオスのアジアゾウのよりよい飼育管理をめざして	高石依里	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
単独飼育アフリカゾウでの飼育管理方法変更による選択肢の増加と問題行動減少について	森翔生	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
アジアゾウ餌用樹木の管理・調達について	石田翼	2025年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同飼育技術者研究会（口頭）
擬卵を用いたヨーロッパフラミンゴの産卵促進について	三松豊	第32回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
ハズバンダリートレーニングを用いたチンパンジーの採血の活用について	南中紅葉	第73回動物園技術者研究会（口頭）
冬季夜間放飼時の舎内温度と湿度について	森翔生	第34回ゾウ会議（ポスター）
Macropod progressive periodontal disease (MPPD) に罹患した飼育下アカカンガルー (<i>Osphranter rufus</i>) におけるマイクロバイオーームとメタボロームの変化	吉本悠人、永田典子、井上亮(摂南大学)、 <u>山本ゆき、永岡謙太郎(東京農工大学)</u>	第31回日本野生動物医学会大会（口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
オジロワシ (<i>Haliaeetus albicilla</i>) における甲状腺腫の一例	戸田光亮、山口歩、佐藤早織、鎌倉佑香、岡亮太郎、太田香織	第31回日本野生動物医学会大会（口頭）
1年間のM99使用報告	佐藤早織	第37回大型動物麻酔研究会プログラム（口頭）
外科的処置に対するアフリカ象の全身麻酔管理	神野信夫、鈴木周二、渡邊たまき（ <u>日本獣医生命科学大学</u> ）、太田香織、戸田光亮、佐藤早織、山口歩、 <u>原康（日本獣医生命科学大学）</u>	第110回日本獣医麻酔外科学会（口頭）
雌インドサイにおける妊娠末期の行動と出産後の発情回帰および離乳にむけた母子行動の変化（第1報）	<u>服部萌花（岐阜大学大学院）</u> 、嵐田彩奈、片柳雅之、井上邦雄、三塚修平、岡田浩輔、岩崎優二郎、 <u>楠田哲士（岐阜大学大学院）</u>	第8回野生動物保全繁殖研究大会（ポスター）
未利用精巣を活用した動物園動物の繁殖機能解析	<u>大澤里穂、清水亮介、岡澤真衣（東京農工大学）</u> 、太田香織、戸田光亮、吉本悠人、佐藤早織、 <u>永岡謙太郎、山本ゆき（東京農工大学）</u>	第31回日本野生動物医学会大会（ポスター）
若齡キリンにおける精巣機能の検討	<u>岡澤真衣、清水亮佑（東京農工大学）</u> 、太田香織、戸田光亮、吉本悠人、佐藤早織、 <u>永岡謙太郎、山本ゆき（東京農工大学）</u>	第118回日本繁殖生物学会（ポスター）
春機発動期前後の雄キリンにおける精子形成能の検討	<u>岡澤真衣、清水亮佑（東京農工大学）</u> 、太田香織、戸田光亮、吉本悠人、佐藤早織、 <u>永岡謙太郎、山本ゆき（東京農工大学）</u>	第168回日本獣医学会学術集会（口頭）
Effects of <i>Clostridium butyricum</i> supplementation on fecal microbiota and metabolites in captive Red kangaroo (<i>Macropus rufus</i>)	吉本悠人、 <u>一戸夏美、Liu Hong（東京農工大学）</u> 、永田典子、 <u>井上亮（摂南大学）</u> 、 <u>山本ゆき、永岡謙太郎（東京農工大学）</u>	Journal of Zoo and Wildlife Medicine Vol. 56, Issue 2, (Jun 2025)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
Changes in the microbiome and metabolome in captive red kangaroos (<i>Osphranter rufus</i>) affected by macropod progressive periodontal disease	吉本悠人、永田典子、 <u>井上亮(摂南大学)</u> 、 <u>山本ゆき</u> 、 <u>永岡謙太郎(東京農工大学)</u>	Australian Veterinary Journal (Jan 2026)
Effect of Immunocastration Using a Gonadotropin-releasing Hormone Vaccine on Mounting Behaviour of Group-housed Male Domestic Quail (<i>Coturnix japonica domestica</i>)	星野智、 <u>中川大輔</u> 、 <u>釜鳴宏枝</u> 、 <u>山田早希</u> 、 <u>櫻井ひかり</u> 、 <u>伊藤英之(京都市動物園)</u>	Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine 30(2) 41-48 (Sep 2025)
ニホンウズラへの抗GnRH抗体誘導抗原製剤投与による血中テストステロン濃度と乗駕行動の抑制効果の検証	<u>中川大輔(京都市動物園)</u> 、 <u>星野智</u> 、 <u>浅井大地</u> 、 <u>荒蒔祐輔</u> 、 <u>釜鳴宏枝</u> 、 <u>山田早希</u> 、 <u>櫻井ひかり(京都市動物園)</u> 、 <u>柳川洋二郎(北海道大学)</u> 、 <u>伊藤英之(京都市動物園)</u>	第8回野生動物保全繁殖研究会(ポスター)
活餌給与に対する来園者の情動は、餌の種類や来園者の年齢によって変わるのか：カワセミを例として	星野智、 <u>山梨裕美</u> 、 <u>西元千夏</u> 、 <u>伊藤二三夫</u> 、 <u>岩橋宣明</u> 、 <u>釜鳴宏枝</u> 、 <u>荒蒔祐輔</u> 、 <u>瀬尾亮太</u> 、 <u>福泉洋樹</u> 、 <u>折戸みゆき(京都市動物園)</u>	動物の行動と管理学会2025年度大会(ポスター)
レッサーパンダに給餌している竹の被食割合及び栄養成分の季節推移	<u>中村あゆみ(日本平動物園)</u> 、 <u>星野智</u> 、 <u>高橋勇太</u> 、 <u>岡村創</u> 、 <u>柿島安博(日本平動物園)</u> 、 <u>八代田真人(岐阜大学)</u>	第72回動物園技術者研究会(ポスター)
動物園におけるfood wasteの飼料価値：ボンネットモンキーおよびトクモンキーを対象とした栄養学的調査	<u>舟橋昂(日本モンキーセンター)</u> 、 <u>星野智</u> 、 <u>星野智紀</u> 、 <u>奥村太基</u> 、 <u>綿貫宏史朗(日本モンキーセンター)</u> 、 <u>八代田真人(岐阜大学)</u>	動物の行動と管理学会2026年度大会(ポスター)
両生爬虫類を対象としたコオロギ飼料の利用状況	<u>長井和洋</u> 、 <u>山下直樹(京都市動物園)</u> 、 <u>星野智</u>	第35回日本動物園水族館両生類爬虫類会議(口頭)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
Gastric T-cell lymphoma in a European wolf (<i>Canis lupus lupus</i>)	<u>齋藤凌、チェンバース ジェームズ</u> (東京大学大学 院)、太田香織、戸田光 亮、吉本悠人、佐藤早 織、 <u>小島一優、内田和幸</u> (東京大学大学院)	The Journal of Veterinary Medical Science (2025 Sep 1)
みんなで守ろう！Action for KOALA！コアラ保全プロジェク トにおけるチャリティイベント の事例報告	田中愛	第66回日本動物園水族館教育研究会 いわき大会（ポスター）
31年ぶりのキリン海外搬出 —空輸による2頭同時輸送の試 み—	清水勲	第24回種保存会議（ポスター）
飼育下におけるモモイロペリカ ンの危機的状況と個体群維持の ための管理方針	山本達也	第24回種保存会議（ポスター）
キリンをインドネシアへ 空輸 移送の舞台裏	清水勲	どうぶつと動物園 2025 年夏号 (2025. 7)
ボルネオオランウータンの「学 び」を支える	山本達也	どうぶつと動物園 2026年冬号 (2026. 1)

③ 葛西臨海水族園（合計14件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
進め！海のいきものたち —観察 をサポートするしかけ—	宮崎寧子	科博サイエンスコミュニケーション・ オンラインセミナー（口頭）
ミナミイワトビペンギン人工繁殖 研究	<u>伊藤このみ、林成幸、冨 澤奈美、小林由和、森本 大介</u> （海遊館）、 <u>村上翔輝</u> (ニフレル)、吉本悠人、 内山幸、齊藤美和、武山 栄治、杉本悠真、野島大 貴、吉澤円、山本達也、 川上壮太郎	令和7年度（公社）日本動物園水族 館協会通常総会 第39回古賀賞受賞記念講演
多摩地区におけるアカハライモリ 保全の取り組みについて	宮崎寧子、堀田桃子	第37回建設局技術業務体験発表会 （口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
前十字靭帯断裂の診断および Medial femoro-tibial suture を実施した慢性跛行のコガタペンギン (<i>Eudyptula minor</i>) の1例	林万里菜、吉本悠人、中村浩司、 <u>本阿彌宗紀</u> 、 <u>天野まど香</u> (東京大学大学院農学生命科学研究科附属動物医療センター)	第31回日本野生動物医学会大会 (口頭)
葛西臨海水族園におけるトビハゼの飼育と繁殖	三森亮介	第25回東京湾シンポジウム (口頭)
都立動物園・水族園での取り組み	高濱由美子	第6回教育普及シンポジウム「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える～」(口頭)
ライトトラップ採集による浮遊期幼生及び浮遊生物の採集について	小川悠介、松村哲、幅祥太、太田智優、 <u>阿部秀樹</u> (<u>阿部秀樹写真事務所</u>)	第11回水族館シンポジウム (口頭)
ミナミイワトビペンギンの人工繁殖研究 これまでとこれから	吉本悠人	海鳥講演会 つどえ オロロヘン!
ユウゼンの海 ～小笠原のユウゼンをおいかける～	河原直明	第70回水族館技術者研究会開催記念講演会 (口頭)
過去22年間の葛西海浜公園西なぎさ (東京都) における魚類相	小川悠介、宮崎寧子、市川啓介、 <u>河野博</u> (<u>長尾自然環境財団</u>)、 <u>丸山啓太</u> (東京海洋大学)	日仏海洋学会 La mer 63巻
過去22年間の都立葛西海浜公園西なぎさ (東京都) における魚類相	小川悠介、宮崎寧子、市川啓介、 <u>河野博</u> (<u>長尾自然環境財団</u>)、 <u>丸山啓太</u> (東京海洋大学学術研究院海洋環境科学部門)	第70回水族館技術者研究会 (口頭)
ふれあい展示「しおだまり」での来園者動態調査	宮崎寧子、田中隼人	第66回日本動物園水族館教育研究会いわき大会 (ポスター)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
科学的根拠に基づいたペンギン類の動物福祉に配慮した適正な飼育施設基準の策定	野島大貴、 <u>山田篤、棚橋悠里（新潟市水族館）、齋藤美和、田崎智（長崎ペンギン水族館）、林成幸（海遊館）、材津陽介（名古屋港水族館）、山上高生（アドベンチャーワールド）、河村早苗（江戸川区自然動物園）、栗原このみ（福岡市動物園）、江崎幸子（神戸どうぶつ王国）、大野晃治（男鹿水族館）、濱夏樹（小樽水族館）、菊地デイル万次郎（東京農業大学）、佐藤信彦、島袋羽衣（明治大学）、新妻靖章（名城大学）</u>	第24回種保存会議（ポスター）
Study on hydrodynamic forces generated by feet in penguin swimming based on 3D motion analysis and water tunnel experiments	<u>黄世翔（東京科学大）、北原麗、高倉一之進（東工大）、野島大貴、内山幸、齋藤美和、（葛西臨海水族園）、田中博人（東京科学大）</u>	第43回日本ロボット学会学術講演会（口頭）

④ 井の頭自然文化園（合計13件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
アマミトゲネズミ新展示に向けた準備と工夫	野村星矢	第30回関東東北・北海道ブロック動物園技術者研究会（口頭）
飼育下ヒガシクロサイにおける雌の血中性ステロイドホルモン濃度動態に基づく発情期と雄の行動変化の関連	藤岡紘、 <u>楠田哲（岐阜大学）</u>	動物園水族館雑誌 第67巻 第1号
テンは太らないって本当？－飼育下におけるホンドテンの体重の季節変化	大河原陽子	日本哺乳類学会2025年度大会（ポスター）
アオバトの体調不良における飼料の工夫と状態改善について	金子芽依、寺原昭生、吉澤円、坪井あきほ、安藤凜	2025年度 関東東北・北海道ブロック動物園水族館合同飼育技術者研究会（口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
肥大型心筋症に罹患したフェネックの1例	坪井あきは、吉澤円、沼倉真帆、山口真理子	第31回野生動物医学会大会（口頭）
マダニの宿主臭気への応答は宿主特異性で異なる？	<u>河野啓太（農工大学大学院）</u> 、 <u>土井寛大（森林総合研究所）</u> 、 <u>藤岡紘</u> 、 <u>野村星矢</u> 、 <u>小山哲史（農工大学大学院）</u> 、 <u>佐藤俊幸（農工大学大学院）</u>	第34回日本ダニ学会大会（口頭）
オリイオオコウモリで発生した低カルシウム血症について	吉澤円、坪井あきは、伊藤達也、松井由希子	第73回動物園飼育技術研究会（口頭）
マダニは「誰」の匂いに惹かれるのか：複数の宿主動物種の臭気を用いた選好性の比較	<u>河野啓太（農工大学大学院）</u> 、 <u>土井寛大（森林総合研究所）</u> 、 <u>藤岡紘</u> 、 <u>野村星矢</u> 、 <u>小山哲史（農工大学大学院）</u> 、 <u>佐藤俊幸（農工大学大学院）</u>	日本生態学会第73回全国大会（ポスター）
ツシマヤマネコ (<i>Prionailurus bengalensis euptilurus</i>) の舌に発生した腺癌の1例	<u>齋藤秋樺（岡山理科大学）</u> 、 <u>中村進一（岡山理科大学）</u> 、 <u>唐沢瑞樹</u> 、 <u>杉山晶彦（岡山理科大学）</u>	第13回日本獣医病理学専門家協会学術集会（口頭）
ホンダタヌキ (<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>) に発生した播種性ノカルジア症の一例	<u>片桐智輝（東京大学）</u> 、 <u>チェンバーズ ジェームズ（東京大学）</u> 、 <u>伊藤達也</u> 、 <u>松井由希子</u> 、 <u>坪井あきは</u> 、 <u>吉澤円</u> 、 <u>内田 和幸（東京大学）</u>	第13回日本獣医病理学専門家協会学術集会（ポスター）
Elucidating the Cause of a Mass Mortality Event in Japanese Squirrels ～Assessment of Insecticide Residues and Synergistic Neurotoxicity～	<u>Miku Goto, Yared Beyene Yohannes（北海道大学）</u> 、 <u>Yoshinori Ikenaka（北海道大学One Health リサーチセンター）</u> 、 <u>Shouta M. M. Nakayama（北海道大学, ザンビア大学）</u> 、 <u>Mikako Kaneko, Keita Kakisaka, Maki Ito（札幌市円山動物園）</u> 、 <u>Mayumi Ishizuka（北海道大学）</u>	SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 9th World Congress; (ポスター)

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
ニホンリス死亡事故の原因究明 ～殺虫剤蓄積量と複合毒性、代謝能の評価～	<u>後藤美空(北海道大学)</u> , <u>Yared Beyene(日本獣生命科学大学)</u> , <u>池中良徳(北海道大学One Healthリサーチセンター)</u> , <u>中山翔太(北海道大学)</u> , <u>金子美香子</u> , <u>石塚真由美(北海道大学)</u>	第168回日本獣医学会学術集会（口頭）
日本産カイツブリの繁殖と多様な行動	堀田桃子	どうぶつと動物園 2025年春号（2025. 4）

⑤ 総務部（合計12件）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
だれもが文化でつながるオータムセッション2025 セッション1「文化的なケアの実践」	天野未知	自由学園飛鳥館・セッションスピーカー
アクセシビリティってなあに？ 動物園水族館のアクセシビリティを考える	天野未知	第6回教育普及シンポジウム「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える～」（口頭）
動物園水族館の利用しづらさ（バリア）とは？～ドリームナイトの実践をとおして～	馬島洋	第6回教育普及シンポジウム「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える～」（口頭）
都立動物園・水族館での取り組み	高松美香子	第6回教育普及シンポジウム「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える～」（口頭）
動物園の学習資源の利用と教材開発 小学校第4学年「人の体のつくりと運動」での取り組み	馬島 洋、土井優子	日本理科教育学会第75回全国大会（口頭）
ふれあいイベントがモルモットに与えるストレスの眼球温度測定による評価	<u>小倉匡俊</u> 、 <u>竹内大翔(北里大学)</u> 、 <u>小川裕子</u> 、 <u>馬島洋</u>	動物の行動と管理学会2025年度大会（口頭）

タイトル・演題	発表者・著者	発表場所又は掲載雑誌等
モルモットふれあいプログラムのストレス評価実践例	<u>鬼塚優妃</u> （北里大学）、馬島洋、 <u>竹内大翔</u> （北里大学）、小川裕子、浅沼史子、山口真理子、 <u>小倉匡俊</u> （北里大学）	2025年度第7回動物園水族館大学シンポジウム（ポスター）
単独飼育の雄アフリカゾウにおける嗅覚刺激の繁殖生理への影響（経過報告）	高柳真世	野生動物保全繁殖研究会第8回大会（ポスター）
トキ保護増殖事業の長期的支援に向けた飼料開発	伊藤香緒里	保全・栄養シンポジウム（口頭）
みんなで守ろう！Action for KOALA！続けられるチャリティイベントを目指して	田中愛、伊藤香緒里、高津磨子、徳田雪絵、高村里美、香坂美和	第66回日本動物園水族館教育研究会いわき大会（ポスター）
生物多様性保全と動物園・水族館の取組	伊藤香緒里	都市公園第247号 令和7年7月号
トキ類の人工孵化・育雛	木崎恒男	第33回日本飼育技術学会大会（口頭）

※下線は外部研究者

（3）協定及び共同研究

大学や研究機関と協力し、動物学、獣医学等の学術的な見地から共同研究を進めた。

提携先	提携園	協定・研究内容
東京大学博物館	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京大学大学院農学生命科学研究科	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京都立大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
学校法人日本医科大学日本獣医生命科学大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
東京農工大学	東京動物園協会	希少動物の保全、研究及び教育
森林研究・整備機構 森林総合研究所	東京動物園協会	イモリの保全及びその生態学的研究
国立科学博物館	東京動物園協会	動物等の研究

提 携 先	提 携 園	協 定 ・ 研 究 内 容
情報・システム研究機構 国立極地研究所	東京動物園協会	連携・協力に関する協定
岐阜大学応用生物科学部	東京動物園協会	動物園水族館動物に係る研究及び教育
国立研究開発法人水産研 究・教育機構	東京動物園協会	包括連携協定
名古屋市東山総合公園	東京動物園協会	動物園事業の発展及び野生動物保全にかかる連携 と協力に関する協定
(公財) 横浜市緑の協会	東京動物園協会	オカピの飼育繁殖にかかる連携と協力に関する協 定
北海道大学大学院獣医学 研究院繁殖学教室	東京動物園協会	希少野生動物の保全繁殖に関する研究
東京大学大学院農学生命 科学研究科獣医病理学研 究室	東京動物園協会	病理学検査に関する研究
東京農工大学	東京動物園協会	飼育動物及び検疫動物のクラミジア保有状況の PCR による調査
北里大学獣医学部動物資 源科学科動物行動学研究 室	東京動物園協会	モルモットにおけるふれあいストレスの眼球温度 を用いた評価方法の確立
兵庫県立コウノトリの郷 公園	東京動物園協会	シロハラサギの保全に資するサギ類の人工孵化・ 育雛技術の研究
岐阜大学応用生物科学部 (動物繁殖学研究室)	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	希少動物の保全繁殖に係る研究及び教育
日本獣医生命科学大学 動物生産化学教室	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究
北海道大学大学院獣医学 研究院	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した飼 養鳥をヒト用の抗インフルエンザ薬で治療するた めの用量・用法の策定とその普及
東洋装具医療器具製作所	東京動物園協会 野生生物保全セン ター	動物園飼育下動物で利用できる装具の作製
岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室	上野動物園	希少動物の保全繁殖

提 携 先	提 携 園	協定・研究内容
東京農工大学	上野動物園	動物園におけるサシバエの吸血生態に及ぼす動物の影響
京都大学理学研究科	上野動物園	飼育ゴリラの利き手の調査
京都大学大学院理学研究科動物行動学研究室及び自然環境研究センター	上野動物園	域外保全ミヤコカナヘビにおける共同研究
中央大学理工学部	上野動物園	ニホンザルの動物福祉及び行動に関する研究
日本獣医生命科学大学動物生産化学教室	上野動物園	アカガシラカラスバトの域外飼養技術に関する研究－飼育飼料の検討－
中央大学理工学部、明治大学	上野動物園	動物福祉に配慮したアイアイの飼育管理に関する研究
北海道大学	上野動物園	高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した飼育鳥をヒト用の抗インフルエンザ薬で治療するための容量・用法の策定とその普及
独立行政法人天王寺動物園	上野動物園	絶滅危惧種コサンケイの野生個体群復元を目的とした繁殖プログラムの開発と展開
山口大学 日本小動物医療センター	上野動物園	骨肉腫が自然発生した高齢ブタにおけるがん遺伝子の変異の解析
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	上野動物園	大型類人猿の性周期の観察及び妊娠時の健康検査、定期的及び有症時の健康診査
岐阜大学応用生物科学部	多摩動物公園	多摩動物公園における希少動物の保全繁殖に関わる研究及び教育
東京都健康安全研究センター	多摩動物公園	サル類の腸管寄生原虫に関する研究（検査・駆除対策）
横浜市環境創造局繁殖センター	多摩動物公園	希少動物の保全に関わる試験研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	昆虫等の調査・診断に関わる共同研究（オガサワラシジミ）
帝京大学	多摩動物公園	飼育動物の感染症対策
河原 淳	多摩動物公園	トウキョウトガリネズミ繁殖生態研究
日本獣医生命科学大学動物生産化学教室	多摩動物公園	飼育下チンパンジーの栄養管理に関する研究

提 携 先	提 携 園	協定・研究内容
帯広畜産大学、東洋大学、 大阪産業技術研究所	多摩動物公園	飼育下哺乳類の乳汁成分について研究
日本獣医生命科学大学	多摩動物公園	動物園における野生動物の侵入とマダニ寄生リスクの調査
日本獣医生命科学大学	多摩動物公園	飼育下ネコ科動物の腎疾患罹患状況及び死因調査、腎疾患予防を目的とした栄養学的研究
東京農工大学農学部	多摩動物公園	哺乳動物の精子形成メカニズム解明と体外精子生産技術の開発
(公財) 横浜市緑の協会 よこはま動物園ズーラシア	多摩動物公園	北米からのチーター導入による国内飼育個体群の遺伝的多様性の保全、個体群動態等への影響調査
帝京科学大学	多摩動物公園	多摩動物公園及び帝京科学大学の教育活動
麻布大学	多摩動物公園	チーターの雌の発情を誘起する刺激の解明
北海道大学大学院地球環境科学研究院	多摩動物公園	飼育下繁殖の向上と野生復帰の改善に向けた、バクの腸内細菌叢、MHC、におい物質の解析
東京大学大学院	多摩動物公園	ネコ科動物とパピローマウイルスの共振化に関する研究
東洋大学、王子ファーマ株式会社	多摩動物公園	希少動物疾患の長期トレンド分析と新たな知見の創出
北海道大学	多摩動物公園	高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した飼養鳥をヒト用の高インフルエンザ薬で治療するための用量・用法の策定とその普及
東北大学大学院生命科学 研究科	葛西臨海水族園	フンボルトペンギン胚における特徴的四肢形態の発生操作
東邦大学	葛西臨海水族園	ペンギン類における海生適応形質形成機構の解明
電力中央研究所 株式会社イワキ	葛西臨海水族園	大規模水槽向け脱室装置及び小型水槽用脱室モジュールに関する共同研究
株式会社海遊館	葛西臨海水族園	ペンギン類人工繁殖に関する共同研究
日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科水圏 生物病理学研究室	葛西臨海水族園	葛西臨海水族園の飼育する水生生物疾病研究に関する協定
東京農業大学、東京工業 大学、東北大学	葛西臨海水族園	ペンギン科及びウミスズメ科の流体力学に関する研究

提 携 先	提 携 園	協定・研究内容
東京農業大学	葛西臨海水族園	DNA 解析によるペンギン科及びウミスズメ科の遺伝的多様性に関する研究
東京大学及び北里研究所	葛西臨海水族園	水族館飼育魚及び飼育水の環境 DNA モニタリング技術の開発
新潟薬科大学	葛西臨海水族園	飼育下動物における適正な薬物治療に関する研究
日本医科大学	葛西臨海水族園	飼育動物が感染した非結核性抗酸菌 (NTM) の同定と発生環境の調査
岡山理科大学	葛西臨海水族園	好適環境水を用いた魚類の治療方法の確立
岐阜大学	井の頭自然文化園	希少動物の保全繁殖
株式会社共立電照及び 株式会社共ショウ	井の頭自然文化園	水槽用 LED 照明の開発
日本獣医生命科学大学 動物生産科学教室	井の頭自然文化園	誘因候補物質に対するイノシシの行動の観察

(4) 飼育展示・教育普及研究会の開催

園内及び4園相互での情報交換と共有化を積極的に進めるとともに、研究発表等に積極的に参加することによる職員の能力向上を図るため、各園で飼育展示・教育普及担当者による研究会を定期的に開催した。

3. 動物病院業務

飼育職員と連携して病気等の予防策を講じるとともに、異常の早期発見に努め、適切な治療を行った。また、検疫業務、病理解剖、検体の保存等を行った。

(診療件数及び検疫件数)

園 別	年間診療件数		年間検疫件数	
	治療	死亡	種数	頭数
上野動物園	20,117	71	25	92
多摩動物公園	9,019	56	27	68
葛西臨海水族園	3,498	46	3	7
井の頭自然文化園	4,211	208	22	36

〔２〕野生生物保全事業

野生生物保全センターは、都立動物園・水族園における野生生物保全活動の中心として、「野生生物保全プロジェクト」の４つのアプローチ（生息域内保全活動、環境省等の外部機関との連携、調査・研究、普及啓発）を通じて取組を推進した。また、国際会議等へ職員を派遣し、保全活動に関する情報収集も行った。

項 目	内 容
生息域内保全活動	① <50年後にアカハライモリを東京で身近な生き物にする>というビジョンのもと、多摩市の生息地において生息状況及び生態の調査を継続し、生息個体数のモニタリングを実施した。また、地域との連携や環境教育活動も推進した。 ② 多摩動物公園内に生息するアズマヒキガエルが減少傾向にあるため、多摩動物公園とその周辺地域で繁殖場所の整備と生息状況調査を実施した。 ③ アカガシラカラスバト野生個体群の遺伝的多様性を解明するため、小笠原自然文化研究所と連携しミトコンドリアDNAの解析を実施している。
外部機関との連携による保全活動	① これまでに培った高度な飼育繁殖技術を活かし、トキ、コウノトリ、ライチョウなどの野生復帰事業に貢献した。令和７年には、多摩動物公園で繁殖し佐渡トキ保護センターへ移動した個体が累計100羽を超え、継続的な取組がトキ保護増殖事業計画の放鳥計画に大きく貢献した。 ② コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）の構成員、及び事務局として、野生で生まれた雛への足環装着や性別判定などの技術支援を実施した。 ③ 環境省と連携して進めるオガサワラカワラヒワの保全では、現地の飼育繁殖施設への技術的な支援に加え、近縁亜種を対象とした調査研究を行ってきた。令和７年には、前年に父島から上野動物園へ移送した個体の繁殖に世界で初めて成功した。 ④ 環境省が策定した「小笠原陸産貝類保護増殖事業計画」に協力し、系統保存や保険個体群の維持、飼育下繁殖、展示などによる普及啓発に取り組んだ。 ⑤ ブータン王国とその周辺国に生息するシロハラサギの保全をブータン王立自然保護協会（RSPN）と連携し、推進している。令和７年にはRSPNのシロハラサギ飼育繁殖施設職員の技術研修を実施したほか、都立動物園職員を派遣して飼育繁殖に係る技術支援を行った。
調査・研究	① 葛西臨海水族園が葛西海浜公園で20年以上実施してきた生物相調査の総括や、上野動物園における飼育下アイアイの行動的保定による採血に関する世界初の事例が論文として公表され、科学的に大きく貢献した。また、ルリカケスでは孵卵及び人工育雛に成功した事例を（公社）日本動物園水族館協会が発行する飼育ガイドラインに公表し、本種の飼育繁殖技術開発の向上に寄与した。

項 目	内 容
	② ミヤコカナヘビの再導入を見据えた上野動物園と京都大学の共同研究により、野生個体と比較して飼育個体で運動能力の低下が確認され、今後の再導入計画の検討に有益な知見が得られた。
野生生物保全を伝える普及啓発	① ツシマヤマネコの保全に関する普及啓発として井の頭自然文化園で「ヤマネコの日」にちなむ活動を継続して実施している。 ② （公社）日本動物園水族館協会調査研究委員会栄養研究部との共催で、保全・栄養シンポジウム「希少鳥類の保全と栄養」を開催し、希少野生生物の保全における栄養研究の重要性を広く普及した。
国際的な野生生物保全に関する情報収集	海外で開催される会議などにも積極的に参加し、研究発表や情報収集、交流に取り組んだ。（令和7年度は世界動物園水族館協会年次大会、東南アジア動物園協会（SEAZA）会議に参加）

〔3〕教育普及事業

教育普及センターを中心に4園の連携をより一層強化し、多様な来園者を対象に多彩な教育普及活動を展開した。展示生物（実物）を活かした動物園水族館だからこそできる学びを柱に、来園者が生物やそれらがくらす自然に出会い、親しみ、そのしくみを理解し、さらに生物や自然環境の危機的な状況を知り、地球環境保全のために行動することをねらいに、さまざまな取組を行った。

1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開

教育普及センターが中心となり、4園の教育普及担当者との情報共有や課題の抽出・解決策の検討を、定期的な会議や教育普及ワーキングにより行った。今年度は特に公式ウェブサイトのリニューアルに向けての検討、やさしい日本語や合理的配慮などのアクセシビリティ向上のための新たな取組、動物の死を来園者にどのように伝えていくかの検討、外国人来園者の利用状況の共有など、教育普及ワーキングを中心に4園で連携して進めた。連携して行った主な教育普及活動は以下のとおりである。

（1）教育機関との連携体制の充実、強化

① 小学校向け教育普及活動の周知

夏季開催の教員向け「授業に活かせる動物園・水族園講座」の告知とともに、4園の小学校向け遠隔授業やデジタル教材等を紹介するパンフレットを都内・千葉県の一部・新たに神奈川県の一部の小学校、合計1,633件に郵送し、利用促進につなげた。

② 中学校・高校との連携強化

中学校・高校との連携強化のため、「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集チラシを都内・千葉県と神奈川県の一部の中高理科教員宛て及び教育委員会に合計1,460件郵送した。また、レポートの相談窓口を設け、調べ学習をサポートするメール相談を合計19件、学校への出張授業や動物園での実地授業を合計3校10回実施した。

③ 学校教員ヒアリング

幼稚園・小学校・中学校・高校等に出向き、4園の教育普及活動を紹介するとともに学校での動物園・水族館の利用状況や要望をヒアリング（合計10件 小学校4件・中学校4件、特別支援1件・学会1件）し、その結果を4園で共有した。また久我山青光学園とは、視覚障害のある児童向けの教材セットを協働で試作し、実際に利用してもらった。

④ 関係機関との連携、研究会への参加

国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日2024」（7月29日～8月1日）へ参加し、国立科学博物館会場に設けられたブースにて、都立動物園・水族園4園が作成している教員向けの各種冊子や都立動物園・水族園を学校で活用してもらうための資料の配布、授業に役立てられる動画の紹介やスタッフによる口頭説明等を行い、来場した教員と情報交換を行った。また、小学校から高校までの理科教員が集まる日本理科教育学会（全国大会）にブース出展し、4園の取組や教材を紹介し、ネットワークづくりにつなげた。

(2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信、講演会、企画展等

① エコプロ 2025 出展

環境問題解決に向けたビジネス・次世代育成、社会全体の持続可能性を高めることを目指すエコプロにおいて、ブース出展を行った。地球環境保全行動戦略に掲げた目指す姿や目標に沿って、4園の取組を広く紹介した。

実施日：12月10～12日 総ブース来訪者：1,698名

② その他、生物多様性の日等、国際的な記念日にあわせた保全情報の発信 (4) 参照

(3) 誰一人取り残さない、幅広い来園者を対象とした教育普及活動の実施

① のんびり楽しむ動物園水族園ドリームナイト&イブニングの開催

障害をもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動である「のんびり楽しむ動物園 水族園ドリームナイト&イブニング」を4園で開催した。開催をお知らせするチラシを東京都内とその周辺の障害者施設・特別支援学校等に郵送し、広く周知した。応募フォームや公式ウェブサイトでの告知文に合理的配慮に関する記載欄を設け、求めに応じて工夫を行った。

また、当日対応するスタッフ（ボランティアも含む）を対象として、教育普及センターが講師となり、対応の心構えやヒントなどの事前講習を4園それぞれで行った。

4園全てがカームダウンスペースを設け、センサリーマップも作成・公開した。

「(一社)発達障がいファミリーサポートMarble」の協力で、当事者家族にモニターを依頼し、アンケートとヒアリングにより意見を聞き、4園で共有することで今後の改善につなげた。

上野：6月9日（休園日）の昼間から夕方に開催し、事前募集で1,600名の参加があった。

多摩：6月7日の閉園後に開催し、事前募集なしで3,010名の参加があった。

葛西：7月5日の閉園後に開催し、事前募集で703名の参加があった。

井の頭：6月7日の閉園後に開催し、事前募集なしで677名の参加があった。

② ソーシャルストーリーの作成及び公開

上野動物園の団体向プログラム「もっとしりたいモルモット」のソーシャルストーリーを作成し、公式ウェブサイトで公開した。あわせて英語版も作成した。

③ 4園でのセンサリーマップの公開

昨年度の上野動物園につづき、他3園もセンサリーマップを公式ウェブサイトで公開した。「ドリームナイト&イブニング」で試作したマップを、さらに改善し、常時使用できる内容とした。

④ ソーシャルインクルージョン研修の実施

協会で働く全職員を対象とし、ソーシャルインクルージョンの取組推進に向け研修を開催した。

10月10日-11月28日：「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（オンライン：国立アートリサーチセンター主催）

12月26日：テーマ「やさしい日本語」（対面とアーカイブ視聴：外部講師）

⑤ 他施設や当事者へのヒアリング

他施設の先進事例を見学し、企画者や当事者のヒアリングを行った。

7月11日：発達園つむぎ吉祥寺ルームでヒアリングを実施。発達障害支援の取組について意見聴取した。

9月8日：長野県立美術館 触地図「ふれる小さな長野県立美術館」他、特別支援学校向けの取組について視察とヒアリングした。

2月26日：東京国立博物館「あそびば トーハク」視察とヒアリング。親子向けの展示スペースなどソーシャルインクルージョンの取組や、クワイエットスペースの設置などの感覚過敏への対応などについて見学した。

3月3日：葛西臨海水族園でのクワイエットアワー実施の際に、(一社) 発達障がいファミリーサポートMarbleの協力で1名にモニター参加していただき、意見聴取した。

(4) 動物や自然にちなんだ記念日等の特別な日に、4園で共通のテーマでの情報発信、及び教育プログラムの実施

名称	実施日	内 容
飼育の日	4 / 19	4園が4月19日前後に、飼育係の仕事に関連した企画展や体験イベント、飼育スタッフによるスペシャルトークなど、様々な視点から飼育の仕事を紹介する教育プログラムを実施した。
国際生物多様性の日	5 / 22	各園のさまざまな職種のスタッフが、野生生物やその生き物がくらす環境を守るために自分たちができることをXで宣言した。
第11回 都立動物園アフリカフェア	11/15～16	「アフリカフェアにつなげ！飼育係のお話リレー～アフリカの動物の魅力を知ろう～」と題し、アフリカフェア開催前から実施日当日にかけて、各園で飼育しているアフリカの動物たちについて飼育係がトークを行った。
文化財ウィーク	10/25～11/ 3	東京文化財ウィーク期間中に各園で飼育展示している天然記念指定動物を紹介する解説カードの配布や、特別ガイドを行った。
ふれあい動物の日	11/19	ふれあいも含め、より多様なテーマを扱えるよう「教育普及シンポジウム」とし、「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える～」を11月19日に開催した。
世界湿地の日	2 / 2	各園が2月2日の前後に飼育展示種や園内の自然環境を生かし、湿地環境の重要性やそこにくらす生き物たちの魅力を伝える観察会や講演会等を開催した。

(5) オンラインでの学習コンテンツの充実や各種プログラムの開催

オンライン教材「授業が楽しくなる教材集」では、小学校国語の教科書に載っている読み物「どうぶつの赤ちゃん」と学校飼育動物として推奨しているモルモットについてまとめた「モルモットをみよう・しろく・なかよくなろう」の2タイトルを新規に公開した。4園のオンラインプログラムの質の向上のために、教育普及センターが中心となり各園へのサポートや情報共有を行った。8月に上野動物園で対面開催し、不忍池を扱った教員セミナー「身近な水辺で体験！外来生物ってなあに？」では、井の頭池の事例を井の頭自然文化園とオンラインでつなぎ紹介し、参加者から好評を博した。

(6) 「Zoo / Design / Wonder 「生きている」をデザインする」の開催

動物園・水族館の“デザイン”をテーマにした、2024年の井の頭自然文化園での4園連携特設展示「ようこそデザニャーレ 東京どうぶつえんすいぞくえんデザイン室」の第2弾の企画展を、国立新美術館内のミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」で開催した。美術館内のミュージアムショップという場所を活かし、動物園水族館利用者とは異なった興味をもった方々の来場を期待した。また都立動物園・水族館のインハウスデザイナーが手がけたオリジナルグッズの販売もおこなった。

開催期間：令和8年3月18日～令和8年5月11日

(7) 教育普及シンポジウムの開催

昨年まで5年連続でふれあい活動に着目して開催してきたが、6回目の今年度から教育普及活動全般の多様なテーマを扱うシンポジウムに変更した。今回のテーマは「誰もが楽しく学べる動物園・水族館へ～学びの場のアクセシビリティを考える」として、何が利用のバリアとなっているのか考え、どうしたらそれをなくすことができるのかを議論した。

実施日：令和7年11月19日 Zoomによるオンライン開催

参加者：52園館110名

開催園：葛西臨海水族園

内容：

- ・事例紹介① はじめに アクセシビリティってなあに？
- ・事例紹介② 動物園・水族館の利用しづらさ（バリア）とは ドリームナイトの実践をとおして
- ・事例紹介③ 感覚過敏当事者が語るアクセシビリティ（感覚過敏研究所/加藤路瑛）
- ・事例紹介④ クワイエットアワーの取り組みをとおして（埼玉県こども動物自然公園）
- ・事例紹介⑤ 都立動物園・水族館での取り組み ―葛西臨海水族園から中継―
- ・グループに分かれてのディスカッション、まとめ

2. 定例プログラム

(1) 園内プログラム

園内プログラムは、来園者が気軽に参加し、楽しく学べることを目的に各園で実施した。モルモットふれあいプログラムについては、モルモットのストレス評価や利用者評価の結果を踏まえ、モルモットに限らず動物介在教育プログラムについての検討を進めた。井の頭自然文化園では令和8年2月から東京動物園ボランティアーズ（SG）による平和祈念像ガイドを定例化した（毎週火曜）。

園 名	内 容（実施回数・対応人数）
上 野	・動物解説員による動物ガイド（175回 2,759名） ・飼育係のおはなし（457回 13,283名） ・モルモットとなかよし（499回 6,380名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（282回 95,643名）
多 摩	・動物解説員によるガイドツアー（168回 2,185名） ・キーパーズトーク（569回 17,701名） ・おしえて！モルモット博士！（665回 9,396名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（225回 69,214名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）によるスポットガイド（184回 14,661名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）による工作教室（149回 3,931名） ・大学生による昆虫プログラム「zoo研」（10回 674名）
葛 西	・スポットガイド「ペンギン・海鳥・マグロ・サメ」（2,730回 115,156名） ・イキモノマヂカ（594回 6,196名） ・ウミホタル発光実験（336回 6,815名） ・裏側ガイドツアー（236回 2,798名） ・ガイドツアー（37回 306名） ・しおだまり（923回 26,642名） ・東京シーライフボランティアーズによるスポットガイド（336回 90,130名）
井の頭	・動物解説員によるガイドツアー（85回 1,900名） ・飼育係のいきものガイド（58回 1,585名） ・みてみてエサの時間だよ（369回 5,695名） ・こんにちはモルモット（736回 8,006名） ・いきもの広場であそぼう（19回 886名） ・東京動物園ボランティアーズ（DG）によるスポットガイド（44回 12,143名） ・ボトルウォッチング（9回 486名） ・東京動物園ボランティアーズ（SG）による平和祈念像ガイド（4回 39名） ・「あずきの会」との共同企画によるおはなし会（9回 257名）

(2) 動物相談室・情報資料室の運営

上野動物園では電話・書簡にて相談に応じた。夏休み期間は、自由研究のお手伝いを対面実施した。多摩動物公園内では動物相談所で、葛西臨海水族園では情報資料室において、入園者及び電話・書簡に

による相談に応じた。

園 名	来 園	電 話	書 簡	計
上 野	2 件	82件	0 件	84件
多 摩	252件	154件	0 件	406件
葛 西	12,674件	407件	—	13,081件

3. 特別プログラム

自然科学への探求心、野生生物に関する理解を深めるとともに、地球環境保全意識の向上を図ることを目的とした多様なプログラムを実施した。大人から子どもまで、障害のある方も含めて全ての人が楽しく学べる場をめざすとともに、気軽に参加できるクイズラリーや専門性の高い講演会など、一人でも多くの方に参加してもらえるように幅広いプログラムを企画・実践した。

(1) 主な参加型プログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・うえのZ00スクール小学1・2年コース (7/6) ・うえのZ00スクール小学3・4年「自分だけの『おもしろ動物図鑑』をつくろう」(作成講習会 6/21、22、完成報告会 8/17) ・うえのZ00スクール小学5・6年コース (10/27、28) ・うえのZ00スクール視覚障がい児クラス(盲児)(10/1) ・うえのZ00スクール弱視クラス (11/30) ・うえのZ00スクール中学生コース「動物の給餌器をつくってみよう ―検証！野生に近い行動を引き出せるか？」(3/1)
多 摩	・日本のカブトムシ (7/21、8/11) ・オータムスクール4～6年生コース：「みんなで目指そう！アジアゾウ博士」(11/8) ・オータムスクール1～3年生コース：「みんなで目指そう！モルモット博士」(11/22) ・昆虫園飼育体験 (1/17) ・中高生向けプログラムサイエンスカフェ「話そう！聞こう！動物園の仕事」(3/8)
葛 西	・小学1・2年向けプログラム「いきものはじめ―海でくらすカニたち」(5/11)、 ・幼児向けプログラム「進め！海のいきものたち―うみに行こう！」(5/25)、 ・小学3・4年向けプログラム「海のあそびや―生き物のすみかを探検！」(9/20) ・小学5・6年向けプログラム 集まれ！汐っこたち「西なぎさで生き物探索！」(9/21) 協力：葛西海浜公園パートナーズ ・高校生・大学生向け講座 海の学び舎「貝類を知り、世界を知る」(3/15) 対面とオンライン
井の頭	・文化園いきものクラブ「動物たちの食べものしらべ」(5/10)、「井の頭池いきものたんけん」(9/20)、「ニホンリスとクルミ」(1/11)、「井の頭池の鳥しらべ」(2/15)、「動物のくらしをかんがえよう」(3/1) ・動物園の松ぼっくりでニホンリスをつくろう！(6/28)

園 名	内 容 (実施日)
	・モルモットと夏祭り (8/5～9/10) ・怪談スタンプラリー関連イベント「もののけワークショップ」(10/4) ・植物担当職員による「ツバキガイド」(3/1～15)

(2) 主なクイズラリー、スタンプラリー等

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・戦後80年企画「動物園からつなぐ平和のバトン」デジタルスタンプラリー (8/5～31)
多 摩	・はじめまして、の春が来た！動物にかわって自己紹介カードを作ってみよう！ (3/22～4/6)
葛 西	・開園記念イベント All About MAGURO 「くらべるマグロシート」配布 (10/11～13) ・水族園のお正月2026「おめでたい生き物」クイズラリー (1/2～4)
井の頭	・西望アニマルズ「どうぶつ彫刻はっけんシート」(7/29～8/24) ・怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇一井之頭百物語・終(じゅう)」(9/30～11/24) ・文化園干支クイズラリーかけぬけろ！おはなしめいろ うまラリー (1/2～2/6)

(3) 主な特定の日や期間プログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・中高生向け世界トラの日企画「その一歩がトラを救う!? 知って守るトラの森」(7/29) ・「世界ゾウの日」企画 飼育係のおはなし特別版 (8/9～12)、ゾウの観察ビンゴ (8/9～31) ・戦後80年企画「動物園からつなぐ平和のバトン」絵本『かわいそうなぞう』の読み聞かせ (8/14～15) ・飼育係ワークショップ コケ玉ワークショップ——小さな緑の世界をつくろう (8/20～23) ・「世界ゴリラの日」企画 ゴリラの観察ビンゴの配布 (9/20～23)、ワークショップ「ゴリラクエスト～森の未来2025～」(9/21)、特別ライブ配信 (9/23)、「使用済み携帯電話・スマートフォン回収ボックスの設置」(9/17～) ・動物慰霊祭 (9/23) ・秋の夜の動物園 (10/10～10/13) 飼育係のおはなし—秋のスペシャルトークー、飼育係と学ぼう！—これで君も動物博士—、ナイトビバリウム、クイズで発見！～昼と夜のちがいを、動物園を支える仕事をのぞいてみよう！、子ども動物園係のパネル展示「運動の秋 動物のすごい能力を見てみよう！」、ハーバリウム・ワークショップ(10/10～10/11) ・文化財ウィーク特別ガイドツアー「恩賜上野動物園歴史探訪ツアー」(10/24～25) ・世界キツネザルの日 ポストの発信 (10/31)、ポスター掲出 (10/31～1か月程度)、キツネザルリレートーク (11/1) ・施設係ツアー 草木と花と冬支度 (12/19～20)

園 名	内 容 (実施日)
	・新年イベント 上野囃子保存会『獅子舞』園内練り歩き (1/2～4)、来園記念スタンプの設置 (1/2～28)、上野動物園から新年のご挨拶 (公式Xで配信 1/2)、飼育係のおはなし特別版「新年の干支『ウマ』のおはなし」(1/3～4) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」 ・不忍池の水鳥観察「はじめよう！バードウォッチング」(2/7) ・世界センザンコウの日 飼育係のおはなし (2/21～22) ・施設係のサクラガイド (3/19、25)
多 摩	・飼育の日 パネル展示「飼育係が50の質問に答えてみた！」(4/17～5/6)、飼育の日トーク (4/19～20)、体験イベント「のぞいてみよう！動物の引っ越しの裏側」(4/19)、飼育の日ドリンク「モンブランウータン」販売 (4/11～) ・世界バクの日 スペシャルトーク (4/27) ・開園記念日 園長と着ぐるみのお出迎え (5/5) ・世界カワウソの日 「クイズパネル展示」(5/22～6/3)、「キーパーズトーク」(5/28)、「ボランティアガイド」(5/25) ・世界キリンの日 「キリンのかんさつやってみよう！」(6/22) ・ヤマユリガイド (7/19) ・世界チンパンジーの日 キーパーズトーク (7/12～14)、「チンパンジーのかんさつビンゴ！」(7/13)、ミニパネル展 (7/10～22) ・世界ライオンの日 ボランティアによる特別イベント「やってみよう！ライオンクイズ」(8/10) ・世界ゾウの日 大きな折り紙で、ゾウのウンコを作ってみよう！、世界ゾウの日 夜のキーパーズトーク (8/11)、ボランティアによる特別イベント「ゾウをよくみてビンゴ！」(8/10～11)、野生動物の保護活動にあてられるグッズの販売 (8/14～15) ・国際オランウータンの日 ボランティアによる特別イベント「オランウータンの日 紙芝居」(8/23) ・サマーナイト@Tama Zoo 2025 一緒に見上げる、夏の夜空 「夜のキーパーズトーク」「コウモリウォッチング」(8/9～11、14～16)、昆虫をかんさつしよう！屋内編 (8/9)、昆虫をかんさつしよう！屋外編 (8/16、23)、動物園のエサをご紹介！(8/9～10、16、23)、「雑木林で生きもの探し」(8/15) など ・国際レッサーパンダデー ボランティアによる特別イベント「レッサーパンダを観察しよう！」(9/28) ・長寿イベント 長寿個体の紹介パネル (9/11～10/7)、長寿トーク (9/13～20) ・世界サイの日 スペシャルトーク (9/23) ・動物慰霊祭 (9/23) ・世界ユキヒョウの日 世界ユキヒョウの日及び保全啓発商品のパネル掲示 (10/12～10/31)、ボランティアによるスポットガイド(10/19)、世界ユキヒョウの日ポスト(10/23) ・コアラの日 SNS連携企画 Xによるリレー形式での投稿 (10/17～24) ・「Action for KOALA みんなで守ろう！コアラとコアラのくらす森」 ミニパネル展 (10/25～12/28)、スペシャルリレートーク、ユーカリ温室見学ツアー (10/25)、クラフトワークショップ (10/26)、ユーカリの木に葉っぱを生やそう！～現地へ支援を届

園 名	内 容 (実施日)
	けよう～ (10/25～10/26) ・多摩動物公園の東京文化財ウィーク 文化財ウィークキーパーズトーク (10/26～11/2)、文化財ウィークスペシャルトーク「アカガシラカラスバトってどんな鳥？」(11/1)、文化財ウィーク特別ガイド「イヌワシ」(11/1～3) ・第10回都立動物園アフリカフェア「オープニングセレモニー」「アフリカ音楽&ダンスの公演『アフリカン・ビートで踊ろう！』(11/15)、「アフリカ各国紹介ブース『アフリカン・ディスカバリー』『ワークショップ『アフリカ布と刺繍糸で作るタッセル』」「園内をめぐるスタンプラリー『アフリカン・スタンプラリー』」「アフリカ原産植物の紹介&フォトスポット『ここで撮ろう！アフリカの思い出』」「アフリカフェアにつなげ！飼育係のお話しリレー ～アフリカの動物の魅力を知ろう～」(11/15～16)、もんでんゆうこさんによる「ガラスアート」と「もんでんゆうこ展 Wild Animals」(9/24～)、平岩道夫写真展 ケニアの自然と野生動物たち(11/13～11/18)、「フェイスペインティング」「南アフリカ唯一の日本人サファリガイド、太田ゆか氏と行く！『オンラインサファリツアー』(11/16)、アフリカの多彩な文化と野生生物を紹介する企画展「アフリカの文化を学ぼう」(11/6～12/9) など ・新年イベント 干支の企画展「もう、このウマ 知ってる？」(12/18～2/24)、園長と着ぐるみのお出迎え (1/2～3)、新年特別キーパーズトーク (1/2, 24)、ボランティアによる特別イベント「モウコノウマのしぐさを見てみよう！」(1/4)、動物解説員の新年特別ガイド (1/5、9、10) ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」「カワウソについて知ろう！」 パネル展示「カワウソってどんなどうぶつ？」(1/29～3/3)、カワウソスペシャルトーク「韓国のユーラシアカワウソの生息地を見てきました！」(2/1)
葛 西	・飼育の日 「スペシャルガイドツアー」「飼育スタッフに聞こう！生き物たちのエサの時間」「飼育の日スタッフトーク」(4/19) ・水族園で夕涼み 園長・副園長の夕涼みトーク (8/11～14)、江戸川区発！和太鼓の演奏 (8/10～12)、「東京シーライフボランティアーズ (T.S.V.)」による紙芝居 (8/10～14)、氷柱の展示 (8/10～14)、氷彫刻の実演 (8/13～14) ・開園記念日イベント「All About MAGURO」 「情報資料室『マグロのぞき』」「マグロをもっと知ろう！『マグロラボ』」「スペシャルガイドツアー『マグロ裏側探検』」「マグロウルトラクイズ」(10/11～13)、Youtube動画配信 (10/12～) 協力：国立研究開発法人 水産研究・教育機構 ・～令和10年 新しい葛西臨海水族園のオープンに向けて～「おさかなプロジェクト」イベント 「夢いっぱいのおさかなアート」ワークショップ (11/2～3)、みんなで決めよう！新しい水族園の生き物たち (11/3～9) ・ボランティアーズDay (10/27) ・～令和10年 新しい葛西臨海水族園のオープンに向けて～ サンゴプロジェクトイベント サンゴの苗を作ってみよう (11/30) ・水族園のお正月2026「オーちゃん フーちゃんがお出迎え」(1/2)、「江戸川区発！

園 名	内 容 (実施日)
	『寿流 江戸川太鼓』の演奏」(1/3)、「開運・かさりんみくじ」「新春かさりん寄席」(1/2～4) ・ルミナスかさりん—冬の光の水族園— 「ガラスドーム×大観覧車のライトアップ」 「影絵で楽しむ海の世界 ～足元に泳ぐ海の生き物たち～」 「ルミナスかさりん」 Instagram投稿キャンペーン」(1/22～2/24) ・クワイエットアワー (3/3) ・Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち 深海トークショー (2/21) 対面とオンライン、深海ラボ (2/22～23) 協力：国立研究開発法人 水産研究・教育機構
井の頭	・飼育の日！飼育係のおしごととトーク(4/20～21)、スペシャル動画公開「飼育係！日々のヒトコマ。」(4/19～6/1) 展示とオンライン ・開園記念イベント「園長の文化園おさんぽガイド」「飼育係の文化園ガイド」「動物解説員とめぐる文化園歴史たんけん」「彫刻園学芸員による彫刻園歴史ガイド」「園長と着ぐるみのお出迎え」(5/17～18)、動物園の松ぼっくりでニホンリスをつくろう！(5/17)、農園芸職員とめぐる文化園植物めぐり(5/18) ・アジアゾウの「はな子」命日 献花台設置(5/25～6/8)、公式X配信(5/26) ・動物慰霊祭(9/23) ・地球にやさしく心あたたまる、冬のかざりつけプロジェクト 2025 (12/2～25) ・ヤマネコ祭2025～島にすむ生きものたち 「島のいきものスタンプラリー」「野生生物の保全に取り組む団体の展示」「島トーク 対馬/西表/小笠原/奄美」「ヤマネコにだいへんしん！」「飼育係のいきものガイド」「動物解説員の「島にすむいきものたち」ガイドツアー」(10/18～10/19)、「ヤマネコマグネットをつくろう」「野生動物画家 岡田宗徳さんとヤマネコを描こう！お絵描き教室」(10/18)、ヤマネコおはなし会(10/19) など ・文化財ウィーク 飼育係の天然記念物ガイド(10/25～11/2)、特別ガイドツアー「天然記念物の動物たち」(11/3) ・ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園 「夜のどうぶつたんけん 動物解説員によるガイドツアー」「飼育係のいきものガイド-夜編-」「飼育係に質問してみよう」「獣医さんのお仕事道具を見てみよう」「モルモットと写真撮影」「動物影絵」「彫刻ライトアップ」(11/8～9)、「彫刻館でピアノを弾こう」「ハンドベル演奏『夜の森のベルコンサート』」(11/8)、「彫刻園学芸員→飼育係リレートーク「コウモリもりもりてんこもりナイト！—絵本『こもり』から生態のお話・観察まで—」(11/8)、「秋の夜長のやさしい時間 心つながりコンサート」「彫刻ガイド『夜の彫刻園を楽しもう！』」(11/9) など ・地球にやさしく心あたたまる、冬のかざりつけプロジェクト 2024 (12/3～25) ・新春・干支フォトスポット(12/26～2/1) ・お正月イベント 「園長によるお出迎え」「新春・どうぶつおみくじ」「【午年スペシャル】西望さんの馬彫刻めぐり」(1/2～3)、「お正月の祝福芸能(1/2)」、「お正月・めでたい動物めぐり」「農園芸職員とめぐる『お正月飾りと冬支度』」(1/3) など

(4) 主なフィールドプログラム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・セミとコウモリの観察会 (8/2) ・池の生きもの観察DAY「しのばずの池をのぞいてみよう」(11/2) ・はじめよう！バードウォッチング (3/28、29)
多 摩	・ホタル観察会 オンライン教室 (事前学習) (6/5～8/31)、オンライン教室 (落選者向け配信)、園内観察会 (6/13、15)、 ・ムササビの棲む森を見よう！ (9/7) ・観察プログラム「春の七生公園で生きものさがし！」(3/15) NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
葛 西	・東京の海を知る・おさかなプロジェクト合同プログラム「ラムサール条約登録湿地の人工干潟を訪ねる」(7/12) 協力：葛西海浜公園パートナーズ
井の頭	・身近ないきもの探検「夜の文化園ではっけん！セミの羽化のひみつ」(8/3)、「旅するタネ、どうやって どこへいくの？」(11/16)

(5) 実施した主な講演会・シンポジウム

園 名	内 容 (実施日)
上 野	・パンダの日記念講演会「ジャイアントパンダの未来をつなぐ」(10/26) ・「東京動物園協会野生生物保全基金」報告講演会 (12/13)
多 摩	・多摩動物公園のスカイウォーク20周年記念講演会 (8/17) ・干支のイベント「干支の講演会」(1/12)
葛 西	・つどえ オロロ～ン！講演会 (1/17) 対面とオンライン ・第70回水族館技術者研究会開催記念講演会 (1/26) ・Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち 深海トークショー (2/21) 対面とオンライン ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」身近な水辺保全講演会「東京湾のアマモ場再生の来し方と行く先」(3/15) 対面とオンライン
井の頭	・アマミトゲネズミ保全講演会 「アマミトゲネズミを知ろう～奄美の森でおきていること」(6/15) 対面とオンライン ・ツシマヤマネコ保全講演会「対馬と西表島のヤマネコたち—飼育・調査からつむぐ」(10/13) 対面とオンライン ・世界湿地の日にあわせた4園連携企画「身近な湿地に目を向け、湿地の今を知ろう！」身近な水辺保全講演&観察会「ハクチョウと旅するスワンププロジェクト -知る、考える、水鳥のくらし」(3/7) ・第61回高碕賞表彰式・受賞記念講演 (3/14)

4. 園内での情報発信

上野動物園では、各施設が工事等で閉鎖する際に歴史を振り返る展示を開催した。多摩動物公園のサバンナエリアでは、各種の絶滅危機度やズーストック種情報を記載した種ラベルへの更新を行った。また、各園でサインの一部を更新し、印刷物や特設展等でより詳しい情報提供を行った。

(1) 展示解説サイン・種ラベルの充実

園 名	内 容
上 野	・サル山最上部展示の解説サイン（11/18～）
多 摩	・サバンナエリアの解説サイン（4/11～）
葛 西	・レストラン金魚水槽の解説サイン（6/12～） ・「干潟の浄化」水槽の情報ラベル（7/3～）
井の頭	・ヤマアラシ舎「フジの花とクマバチの関係」解説サイン（4/22～） ・カピバラの解説サイン（6/9～） ・アジアゾウ「はな子」歯レプリカと解説サインのリニューアル（8/26～） ・ユーラシアカワウソの解説サイン（11/25～、3/23～） ・ハクビシンの解説サイン（11/25～） ・園内で観察できる野山の鳥サイン（2/17～） ・アオバズクの解説サイン（3/24～） ・マーラの解説サイン（3/31～）

(2) ニュースレターや解説パンフレット等の発行

園 名	内 容
上 野	・ZOO TODAY（5月～4月号） ・こどもむけパンフレット「パンダって…こ～んな動物！」 ・ビンゴ de かんさつ（シロテテナガザル、世界ゾウの日、レッサーパンダ、ベニイロフラミンゴ）
多 摩	・TAMA NEWS（4月号～3月号） ・コアラ 40 周年パンフレット ・ヤマユリめぐりリーフレット
葛 西	・SEA LIFE NEWS（第 121 号～第 126 号）
井の頭	・花ごよみ（第 267 号～第 277 号） ・西望アニマルズセルフガイド「どうぶつ彫刻はっけんシート」 ・動物園怪談画劇 井之頭百物語・終

(3) 主な特設展、特設掲示

園 名	内 容（実施日）
上 野	・パネル展示「さよならサル山 ～92年のその先へ～」（4/15～5/11） ・「ありがとう、バードハウス展」（5/27～6/15）

園 名	内 容 (実施日)
	・戦後80年企画「動物園からつなぐ平和のバトン」 パネル展示 (8/5～8/31) ・しのばずラボ企画展「夏の昆虫展」(8/11～8/31) ・園内パネル展示「おしえて！コウノトリ」(10/2～10/26) ・企画展示「カメカメエブリバディ」(11/13～12/27) ・パネル展「在来馬の魅力」(12/9～2/8) ・パネル展「ありがとうシャオシャオ&レイレイ—上野初のふたごのこれまで—」(12/23～2/8)、職員からの寄せ書き展示(1/6～2/8) ・「パンダのもり」ジャイアントパンダの観覧通路を開放(2/10～3/1) ・世界センザンコウの日パネル展示(2/17～3/15)
多 摩	・飼育の日パネル展示「飼育係が50の質問に答えてみた！」(4/17～5/6) ・世界カワウソの日クイズパネル展示(5/22～6/3) ・カブトムシ展「からだにズーム カブトムシをよ～く見てみよう」(7/31～8/26) ・企画展「秋の鳴く虫展」(9/11～9/23) ・ツキノワグマミニパネル展(9/13～10/31) ・「Action for KOALA みんなで守ろう！コアラとコアラのくらす森」(10/25～12/28) ・世界ユキヒョウの日パネル展示(10/12～10/31) ・第11回 都立動物園アフリカフェア「平岩道夫写真展—ケニアの自然と野生動物たち—」(11/13～11/18)、アフリカの多彩な文化と野生生物を紹介する企画展「アフリカの文化を学ぼう」(11/6～12/9) ・干支の企画展「もう、このウマ 知ってる？」(12/18～2/24)
葛 西	・「ファンタジスタ～アートとデザインで切り拓く未来のキャンバス～」プログラムで子どもたちが制作した作品の展示(11/20～11/24) ・「影絵で楽しむ海の世界 ～足元に泳ぐ海の生き物たち～」(1/22～2/24) ・トピック展示「ライトトラップ採集生物の展示」(2/26～)
井の頭	・「アマミトゲネズミがやってきた！～奄美の森の小さな生きもの～」(3/18～2025/6/29) ・ウェルカム展示「ヒキガエル(たまご/オタマジャクシ)」(3/25～5/23)、「アゲハ(幼虫・さなぎ)」(5/24～6/22)、「ナナフシモドキ」(6/24～9/13)、「コバネイナゴ」(9/14～11/16)、「春をまつカマキリの卵」(11/18～) ・彫刻園企画展「西望アニマルズ」(4/8～8/24) ・水生物館特設展示「しずくのたび」(4/22～11/3) ・「川ガキ、しってる？ ～水辺で遊ぶ子どもたち～ 村山嘉昭写真展」(7/21～8/31) ・写真展「ZOO IS THE PEACE —井の頭自然文化園と戦争の時代—」(7/23～8/31) ・彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.9「アヤ井アキコ 絵本『こうもり』 原画展」(9/9～4/5) ・彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.9「アヤ井アキコ 絵本『こうもり』 原画展」サテライト展示 絵本『こうもり』ができるまで(9/9～11/30) ・現・水生物館竣工50周年記念特設展示「水生物館のあゆみ」(9/9～1/12)

5. 学校教育との連携

学校教育との連携を深めるため、教員を対象とした実践的な研修会や児童、生徒等を対象とした学習プログラム、学習補助教材の貸出しや提供等を行なった。オンラインの学習教材や研修教材の開発、オンライン授業や出張授業、オンラインによる教員向け研修会なども継続した。

(1) 教員を対象としたプログラム

① 授業に活かせる「動物園・水族園」講座

教員が授業を行う上で参考となる生物学的な知識やそれに関連したスキルを提供する研修講座を実施した。オンライン開催の講座と対面開催の講座の両方を実施した。

実施園	講座名	実施日	参加者
オンライン	動物の赤ちゃんの生まれかた・育ちかた	7月30日	68名
		8月20日	40名
	動物の観察のしかた～鳥のくちばしと足を例に～	7月29日	39名
		8月21日	22名
	動物園獣医師の1日	7月29日	47名
		8月21日	26名
	発見！スイミーが出会った生きものたちのひみつ	7月30日	60名
		8月20日	40名
上野	動物の食べ方と消化	7月23日	19名
		7月24日	20名
		7月25日	19名
	はじめての飼育動物 モルモット	8月8日	20名
	身近な水辺で体験！外来生物ってなあに？	8月12日	20名
		8月22日	21名
多摩	動物の体のつくりと運動	8月4日	19名
		8月5日	21名
	昆虫に親しむ・昆虫を知る	8月18日	16名
		8月19日	20名
葛西	干潟で体験！生きものと環境を知る	7月24日	31名
	水族園でみつける「うみのかくれんぼ」	7月28日AM	19名
		7月28日PM	22名
		8月6日AM	21名
		8月6日PM	22名
井の頭	身近なムシの調べ方・よび寄せ方	7月31日	19名
		8月7日	17名
	動物園での生きもの観察の視点と導き方	8月1日	24名
		8月21日	23名
計			735名

②授業に活かせる動画集

学校の授業で活用できる各単元に即した動画を、公式YouTubeチャンネルで継続して公開した。

対象教科	タイトル	制作園
小学校 国語	たまどうぶつこうえんのキリンの赤ちゃん	多 摩
	とりのくちばし（うえのどうぶつえん）	上 野
	とりのくちばし（たまどうぶつこうえん）	多 摩
	どうぶつのみのもりかた**	上 野
	うみのかくれんぼ～オニダルマオコゼ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～オクヨウジ～	葛 西
	うみのかくれんぼ～カレイのなかまプレイス～	葛 西
	スイミーのくらし	葛 西
	たまどうぶつこうえんのじゅういのいちにち	多 摩
小学校～中学校 理科	きせつと生物（ニホンジカの一年①毛のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンジカの一年②角のへん化）	上 野
	きせつと生物（ニホンザルの一年）	上 野
	動物たちの食べかた ①アジアゾウ	上 野
	動物たちの食べかた ②キリン	上 野
	動物たちの食べかた ③ホッキョクグマ	上 野
	動物たちの食べかた ④カリフォルニアアシカ	上 野
	動物たちの食べかた ⑤ジャイアントパンダ	上 野
	動物たちの食べかた ⑥ふんをくらべてみよう	上 野
	動物たちの食べかた ⑦ウマ	上 野
	みぢかな虫をさがそう	多 摩
	いろいろな虫をよびよせよう！バナナトラップ編	井の頭
	カブトムシの一生を知ろう！	多 摩

**内容を修正した動画

③生き物飼育についての先生向け研修動画

生き物の飼い方をテーマにした教員向けの研修動画を公式YouTubeチャンネルで公開した。

タイトル	制作園
モンシロチョウの飼い方	多 摩
学校で飼育してみよう！——メダカ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ザリガニ編	葛 西
学校で飼育してみよう！——ヤゴ編	葛 西

④授業が楽しくなる教材集

教員へのヒアリングで要望が多かった、単元に即した動画資料や実物大画像などをセットにしたパッケージ教材の開発のほか、国語の読み物をテーマにした教材等を特設コンテンツとして東京ゾーンネット内に公開した。

タイトル	制作園
スイミー	葛 西
うみのかくれんぼ	葛 西
動物の体のつくりと運動	多 摩
どうぶつの赤ちゃん*	上野・多摩・井の頭
モルモットをみよう・しろく・なかよくなろう*	上野・多摩・井の頭

*今年度、新規に公開したタイトル

⑤国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日2025」への参加

「教員のための博物館の日」は、学校での博物館利用を進めるために、教員自身に博物館の楽しさや学習資源を知ってもらう日として全国で開かれている催しである。国立科学博物館会場に設けられたブースにて、都立動物園・水族園4園が作成している教員向けの各種冊子や、都立動物園・水族園を学校で活用してもらうための資料の配布、授業に役立てられる動画の紹介やスタッフによる口頭説明等を行った。また、7月29日には各30分の自由参加制プログラム「生きもの観察が楽しくなる！マングロで学ぶ生きものの見方」参加者44名、「生きもの観察が楽しくなる！キリンで学ぶ生きものの見方」参加者49名を実施した。参加者は期間中、上野動物園を無料で見学できるようにした。

実施日：7月29～8月1日 参加者1,819名 うち、上野動物園入園者431名

⑥日本理科教育学会全国大会への参加

日本理科教育学会第75回全国大会（富山大会）にて、協賛団体として会場にブース出展した。教員向けの各種冊子やオンライン教材等を対面で説明し、ブースを訪れた大会参加者と情報交換を行った。また、「動物園の学習資源の利用と教材開発」と題した口頭発表を行った。

実施日：8月23～24日 大会参加者1,128名

⑦ その他の教員向け研修・セミナー

実施園	講座名（実施日・対応人数）
上 野	・武蔵野市立小中学校教育研究会「鳥の足・くちばしの観察のしかた」（8/7・19名）
多 摩	・東京都小学校理科教育研究会「昆虫プログラムと昆虫園見学」（6/13・17名） ・東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ「選択研修」（8/29・3名） ・日野市教育委員会課題別研修「多摩動物公園」研修（9/12・27名）
井の頭	・三鷹市立小中学校教育研究会「中学理科：動物の体のつくり」（5/7・17名） ・杉並区教育委員会「動物園の役割」（6/4・21名） ・東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ「選択研修」（8/27・1名） ・東村山市教育委員会理科部「井の頭池の変遷」（12/3・14名）

(2) 児童、生徒、学生などを対象としたプログラム(大学・専門学校含む)

園 名	内 容	件数・対応人数
上 野	団体見学指導 (モルモットふれあいプログラム)	105件・2,864名 (28件・362名)
	出張授業・講師派遣	7 件・415名
	オンライン授業	24件・1,880名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	769件
多 摩	団体見学指導	110件・7,860名
	出張授業・講師派遣	5 件・309名
	オンライン授業	6 件・730名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	601件
	職場体験	6 件・20名
葛 西	団体見学指導	290件・17,426名
	出張授業・講師派遣	3 件・290 名
	オンライン授業	13 件・1,177 名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	1,086 件
	職場体験	10 件・28 名
井の頭	団体見学指導 (モルモットふれあいプログラム)	174件・7,043名 (60件・1,702名)
	出張授業・講師派遣	5 件・420名
	オンライン授業	12件・959名
	団体引率者への事前指導：電話対応等含む	271件
	職場体験	10件・16名

(3) 教材の開発と貸出、動画教材の制作と配信

① 学校団体向け教材の配布と提供

事前学習や当日の見学時に活用するための教材の開発と提供を行った。また、生きものを見るポイントや園の見どころ、プログラム・教材を紹介した教育活用ガイドブックなどの参考資料を配布した。

園 名	内 容 (件数・対応人数)
上 野	貸出教材 ・わくわく観察バッグ (47件・2,608名) ・クイズdeスタンプ (106件・10,140名) ・テーマ別見学ワークシート (24件・2,090名) ・オンライン授業後貸出教材 (4 件・283名)
	提供教材 ・観察ガイドブックレット (2 種・ダウンロードも可能)
多 摩	貸出教材 ・動物ふしぎ発見ポケット (194件・13,243名) ・紙芝居セット (119件・6,760名)

園 名	内 容 (件数・対応人数)
	・事前学習用DVD (7件・600名) ・スタンプ (15件・1,580名) ・その他 (3件・402名)
	提供教材 ・動物クイズ (183件・15,228名) ・昆虫ポケット (53件・4,561名) ・観察シート (4件・414名) ・セルフガイドブックレット (3件・108名) ・その他 (5件・200名)
葛 西	提供教材 ・事前学習用DVD (38件) ・水族園魚タッチングシート (ダウンロード教材)
井の頭	貸出教材 ・事前パネルセット (19件・864名) ・その他：頭骨など (3件・102名)
	提供教材 ・事前教材セット (460件・29,110名) ・個別教材 (9件・544名)

② 中高生向けの冊子の配布、「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集

「中学生・高校生のための動物園・水族園活用ガイド」は、引き続き東京ゾーネットからダウンロードできるようにした。「動物園・水族園レポートチャレンジ」の募集案内を、「活用ガイド」とともに都内と近県の中学校・高等学校(1,460校)の理科教員宛に郵送した。

「動物園・水族園レポートチャレンジ」には、過去最高の915組(中学生705組・高校生210組)から応募があり、最優秀作品賞を4組(中学生3組、高校生1組)に、奨励賞を6組(中学生5組、高校生1組)に、ユニーク賞を3組(中学生2組、高校生1組)に授与した。

(4) 大学教育の実践

連携協定を締結した大学等、大学・専門学校の学生に向けた講義、実習プログラム等を実施した。

① 実習

内 容	上野	多摩	葛西	井の頭	計
飼育実習(井の頭は動物園実習)	8名	14名	12名	5名	39名
獣医臨床実習	2名	2名	—	—	4名
博物館実習	6名	9名	12名	4名	31名
特別実習(研究・卒論)	3名	2名	—	2名	7名
海外研修生	—	4名			4名
インターンシップ(都立大)	—	—	—	2名	2名

② 講義・見学指導（オンライン・出張授業を含む）

園 名	内 容（実施日・対応人数）
上 野	・ 埼玉動物海洋専門学校「動物園の教育活動について」（6/6・28名） ・ ビジョナリーアーツ専門学校「動物の観察法（アジアゾウ）」（12/12・35名） ・ ビジョナリーアーツ専門学校「ほ乳類頭骨と爬虫類の触察」（12/19・55名） ・ 国立音楽大学「動物園の幼児教育」（1/20・23名）
多 摩	・ 日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科「チンパンジーの行動観察」（5/8・52名、5/15・53名） ・ 日本獣医生命科学大学獣医学科「キリンの観察」（5/9・32名）、「チンパンジーの観察」（6/6・32名）、「キリンの観察」（6/20・32名）、「チンパンジーの観察」（7/4・32名） ・ 帝京科学大学「動物福祉と動物園動物」（5/11・5/12・45名、出張） ・ 日本獣医生命科学大学「動物園と飼育係の仕事について」（6/14・40名、出張） ・ 東京農工大学農学部共同獣医学科「野生動物および展示動物に関する獣医倫理について」（6/16・40名、オンライン） ・ 帝京大学「動物園の活動を通して人と動物の関わり」（6/18・360名、出張） ・ 東京農工大学農学部共同獣医学科「動物病院業務の紹介と見学」（7/1・5名） ・ TCA東京ECO動物海洋専門学校「動物観察についてのレクチャー、動物観察、質問対応」（7/12・89名） ・ 埼玉動物海洋専門学校「飼育係の仕事・動物園の保全活動」（7/17・22名） ・ 帝京科学大学「動物園の仕事について」（7/24・150名、出張） ・ 東京都立大学「講義、さまざまな教育プログラムの体験」（10/11・15名） ・ 白百合女子大学・駒澤大学「チンパンジーの母子の行動観察」（12/5・12名、12/6・10名、12/6・13名） ・ 日本獣医生命科学大学獣医学科「展示動物の衛生管理」（12/12・90名、出張） ・ 日本獣医生命科学大学学生相談室「奇蹄目ツアー」（1/6・28名）
葛 西	・ 専門学校ルネサンスペットアカデミー静岡校（4/4・37名）
井の頭	・ 日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科「動物観察」（5/23・53名、5/27・52名） ・ 武蔵野大学幼児教育学科「教材を使った動物園見学」（5/24・102名） ・ 玉川大学リベラルアーツ学部「動物観察」（6/21・9名） ・ 専門学校ビジョナリーアーツ「井の頭自然文化園の役割」（7/12・33名） ・ 日本獣医生命科学大学「野生動物学実習」（8/19・48名） ・ 武蔵野美術大学春原ゼミ「コラボ活動初回見学」（9/13・15名） ・ 埼玉動物海洋専門学校「動物園の仕事」（12/16・15名） ・ 東京学芸大学彫刻科「北村西望の制作」（2/10・38名）

6. 他団体と連携した教育プログラム

専門的な視点や地域に根差した教育普及事業団体等の他団体と連携して行う、生きものの解説や観察会、展示などの教育プログラム。一部のプログラムはオンラインにより実施した。

(1) 野生動物保全関連団体と連携したプログラム

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
上 野	・国内でゴリラを飼育している動物園との連携企画「世界ゴリラの日」特別ライブ配信(9/23) 千葉市動物公園、浜松市動物園、京都市動物園、東山動植物園、日本モンキーセンター ・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント 園内パネル展示「おしえて！コウノトリ」、スタンプラリー「ニホンコウノトリの食べ物になる生き物を探そう！」(10/2～27)、飼育係×動物解説員特別ガイド「コウノトリってどんな鳥？」(10/8, 24) ・「世界野生生物の日」買って・知って まもるシェ！(3/7～8) 岐阜大学 動物園生物学研究センター・動物保全繁殖学研究室、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金、NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄、太平電機株式会社、(公財)世界自然保護基金ジャパン、関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会、三菱UFJ銀行上野支店
多 摩	・日本クマネットワーク ツキノワグマについてもっと知ろう 「普及啓発ブース」「ツキノワグマ紙芝居」「ツキノワグマミニ講演会」「ツキノワグマキーパーズトーク」(9/13)、ツキノワグマミニパネル展(9/13～10/31) ・関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会連携イベント「おしえて！コウノトリ」 パネル展、関東エコ・ネットカード・おしえてコウノトリBOOK配布(1/29～3/3)、キーパーズトーク(2/8～15) 世界湿地の日にあわせた4園連携企画として実施
葛 西	・北海道苫前郡羽幌町 つどえ オロロ～ン！ 講演会(1/17)、「北海道羽幌町物産展」「オロ坊と写真を撮ろう！」(1/17～18) - 環境省北海道地方環境事務所、羽幌自然保護官事務所、羽幌町／北海道海鳥センター ・(公社)日本動物園水族館協会 第70回水族館技術者研究会(1/27～28)
井の頭	・ヤマネコ祭2025 「野生生物の保全に取り組む団体の展示」(10/18～19) - 対馬市／対馬観光物産協会、NPO法人ツシマヤマネコを守る会、NPO法人どうぶつたちの病院、認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金、日本アジアカワウソ保全協会、岐阜大学 動物園生物学研究センター・動物保全繁殖学研究室、日本獣医生命科学大学ツシマヤマネコ域外保全栄養チーム、大正大学公共政策学科、(一財)自然環境研究センター、奄美市／奄美市立奄美博物館

(2) 地域の博物館・公園・商業施設等と連携したプログラム

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
上 野	・上野ミュージアムウィーク 国際博物館の日記念「上野の山でゾウめぐり」(5/18) 国立科学博物館、東京国立博物館 ・東京都歯科医師会 歯と口の健康週間イベント「いい歯いきいき上野動物園行事」(6/1) ・中国駐東京観光代表処イベント「シャンシャンファミリー誕生会」(6/12)

園 名	内 容 (実施日・対応人数)
	・東京都生活文化スポーツ局 東京2025デフリンピック映像上映 (11/1～30) ・東京都生活文化スポーツ局 オールウェルカムTOKYO～デフ・スペシャル～日本手話言語の通訳つき動物ガイド (11/6, 12, 18, 26) ・台東区 上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会シリーズ「知っているようで実は知らないカメの話」(11/24) ・東京都美術館・台東区の医療機関との連携「ミュージアム処方箋」ワークショップ「キリンってすごい！を体験」(12/9) ・東京都環境局 「くらしの知恵」優秀賞受賞者向け特別招待 (12/14) ・小笠原村産業観光課、都営交通 おがさわらのなかまたち スタンプラリー (2/8～3/31)
多 摩	・東京都環境局 デジタルでみる東京自然いきもの展 (5/24～7/6)、東京都こどもワークショップ「自然豊かな東京」(7/5) 東京都子供政策連携室 ・立川市立柴崎図書館「動物園のひみつを見てみよう！」(出張授業 8/10) ・こども写生画コンクール (9/11～10/13)、表彰式 (12/7)、入選作品展 (11/27～12/23) 日野市、日野市商工会、京王電鉄株式会社、株式会社京王ストア、多摩都市モノレール株式会社 ・ひの市民大学「多摩動物公園の楽しみ方」(9/20) ・日野市環境共生部 緑と清流課 水と緑の日野・市民ネットワークシンポジウム「日野の蜚」ホテルについて(話題提供 9/27) ・日本獣医師会「男女ともに獣医として活躍を続けるためのセミナー」(講演 10/25) ・東京都生活文化スポーツ局 東京2025デフリンピック映像上映 (11/1～30)
葛 西	・東京都建設局公園緑地部計画課再生計画担当 新水族園PRイベント「新しい葛西臨海水族園に関するオープンハウス」(7/4) ・北海道海鳥センター 海鳥フェスティバル「海鳥のエサの時間 Live配信」「海鳥の生態エリア観察会」(7/18) アバターロボットを使用 ・江戸川区特産金魚まつり委員会、江戸川区 江戸川区特産金魚まつり (7/19) ・千代田区「おがちよ教育交流事業」事前学習会 (7/30) ・東京都生活文化局、アーツカウンスル東京、多摩美術大学 ネクスト・クリエイション・プログラム「ファンタジスタ～アートとデザインで切り拓く未来のキャンバス～」(8/19、21)、子どもたちが制作した作品を展示 (11/20～24) ・江戸川区立臨海小学校 ドリームフェスティバル (10/4) アバターロボットを使用 ・東京都生活文化スポーツ局 東京2025デフリンピック映像上映 (11/1～30) ・東京都建設局公園緑地部計画課再生計画担当 「ガラスドーム・プロジェクト」シンポジウム (12/13) 対面とオンライン ・小笠原村産業観光課、都営交通 おがさわらのなかまたち スタンプラリー (2/8～3/31)
井の頭	・むさしのエコレゾート ワークショップ「ツシマヤマネコってどんないきもの？お話を聞いてヤマネコ・マグネットをつくろう」(8/17) ・(公財) 三鷹国際交流協会 「第34回三鷹国際交流フェスティバル」参加 (9/21)

園 名	内 容（実施日・対応人数）
	・ Art and the Zoo 飼育係×アーティスト コウモリトークカフェ&観察会（9/27）株式会社偕成社 ・ Art and the Zoo 吉祥寺絵本屋さんめぐり（11/1～30） クレヨンハウス東京店、緑のゆび、絵本の古本屋MAIN TENT / メインテント ・ 東京都生活文化スポーツ局 東京2025デフリンピック映像上映（11/1～30） ・ 東京都環境局 令和8年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール作品展（11/1～24）、表彰式（11/16） ・ 三鷹ネットワーク大学 「干支にまつわるエトセトラ『駿馬のごとく！馬の魅力を知ろう』」参加（12/11） ・ 武蔵野美術大学コラボレーション企画「ムサビ芸文in井の頭自然文化園 ちょうこくのたまご 彫刻をもっと楽しむためのワークショップと鑑賞プログラム」ねんど造形ワークショップ「彫刻家になろう～ねんどで作るちいさないのち～」（1/31）、鑑賞ワークショップ「彫刻と出会おう～あなただけの見方を見つける～」（2/1）、鑑賞プログラム「ちょうこくのみかた」（設置型配布物：リーフレットと「みかたくじ」）（2/1～8）

7. 移動水族館

葛西臨海水族園では、普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、大型水槽車両を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施した。

実施プログラム	実施件数	延べ参加者数
（１）大型水槽車両による海洋生物の展示解説プログラム	23件	5,120名
（２）磯の生物とのふれあいと解説プログラム	30件	4,053名
計	53件	9,173名

*他、2件が都合により中止

8. 友の会運営

動物園・水族園への関心を高めるとともに、広く自然科学への興味を育ててもらうために組織している「東京動物園友の会」の運営を行った。

名 称	東京動物園友の会
会 員 数	一般：4,248名 ジュニア：237名（令和8年3月31日現在）
実 施 事 項	① 新規入会、継続手続等、受付・管理事務 ② 季刊雑誌「どうぶつと動物園」及びジュニア向け会誌「Z00! どうぶつえんしんぶん」の送付 ③ 各種普及活動案内送付（ダイレクトメール） ④ 新規入会案内パンフレットの配布

(1) 友の会会員対象催物

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
あきる野市カエル 観察会	6月14日	田んぼや河原などの水辺を歩きながらカエルのなかまを観察 企画：上野動物園	26名
ホタル観察会 ①オンライン教室 ②園内観察会	①6月6日公開 ②6月13日・15日	事前にオンラインでゲンジボタルの生態等について学び、別日に日没後の園内でホタルを観察 企画：多摩動物公園	一般含 ②6/13： 44名 6/15： 52名
北海道霧多布湿原 エコツアー	8月2～4日	霧多布湿原のエコツアーやラッコ観察、釧路市動物園の施設見学 企画：多摩動物公園	16名
セミとコウモリ 観察会	8月2日	閉園後の上野動物園不忍池周辺で、セミとコウモリを観察 企画：上野動物園	一般含 77名
ムササビの棲む森 を見よう！	9月7日	ムササビの生態や生息環境などについての講義と高尾山薬王院でのムササビ観察 講師：岡崎弘幸（中央大学附属中学校高等学校元教諭） 企画：多摩動物公園	一般含 31名
我孫子市鳥の博物 館見学と野鳥観察	10月25日	手賀沼で秋に飛来するカモ類を中心に野鳥を観察 観察指導：我孫子市鳥の博物館学芸員 企画：井の頭自然文化園	30名
新年お話し会	1月31日	4園の最近の話題 スタッフトーク「イカ類の飼育と展示について」 企画：葛西臨海水族園	一般含 78名
東京大学三崎臨海 実験所見学ツアー	3月8日	東京大学三崎臨海実験所の見学と荒井浜海岸での海岸生物や地層の観察	23名
初心者野鳥観察会	3月8日	初心者のための野鳥観察会 企画：多摩動物公園	一般含 42名
高碕賞表彰式と 受賞記念講演会	3月14日	講演「スマトラトラ繁殖成功への道のり——“常識”を見直す」：廣瀬 格・高岡英正（上野動物園）	77名

(2) ジュニア会員対象催物

開催園	実施月日	内容	参加者
多摩動物公園	6月14日	ホテル観察会	49名
葛西臨海水族園	8月23日	バックヤードツアー	26名
井の頭自然文化園	9月28日	井の頭池のいきものをみよう	18名
上野動物園	12月7日	野鳥観察会	27名

(3) 「友の会の日」の実施

今年度の「友の会の日」は葛西臨海水族園で開催し、園内特別見学会を実施して、友の会会員相互及び動物園スタッフとの交流を深めるための懇親会を開催した。また、開催前に希望者向けの講演会を実施した。

行 事 名	実施月日	内容・講師等	参加者
友の会の日	9月27日	4園の最近の話題 第1部：園内特別見学 第2部：懇親会と抽選会（レストラン「シーウインド」） ※開催前講演会「フェアリーペンギンの卵 8,000kmの旅」「北極採集に向けた事前調査 北米出張報告」	103名

9. 資料の収集・公開

動物及び動物園・水族館関係の専門書や学術雑誌、普及雑誌を中心に収集した。定期刊行物は、購入や寄贈のほか、動物園、博物館、研究所等の出版物との交換により収集した。

図書コーナーは毎週土曜日を開室日として閲覧サービスを実施したほか、文献複写郵送サービスを行った。

令和6年から令和7年にかけて、上野動物園資料室の蔵書点検と図書館システム「情報館」の導入を実施した。令和7年10月にシステムの導入が完了した。

写真・ビデオ等の映像資料のほか、動物の音声資料（録音データ）も園内外の利用に供した。収蔵図書については、ウェブサイト上に図書検索システムを設けている。

(1) 図書収集状況

区 分	収集 点数	国 内			国 外			摘 要
		購入	寄贈	交換	購入	寄贈	交換	
書 籍 類	243	87	143	0	1	12	0	収蔵数 和書 16,597冊 洋書 5,466冊
雑 誌 類	304	177	49	40	37	0	1	

(2) 図書利用一覧（文献複写郵送サービスの利用も含む）

区分	動物園	哺乳類	鳥 類	爬虫類	魚 類	無脊椎	一 般	その他	計
件数	18	5	0	0	0	0	0	0	23件

（都立動物園水族園関係者は除く）

(3) 映像資料利用状況

区 分	無 料		有 料		合 計	
写 真	35件	179点	51件	138点	86件	317点
ビデオ映像	16件	38点	27件	35点	43件	73点
音 声 資 料	1件	3点	2件	2点	3件	5点
計	52件	220点	80件	175点	132件	395点

（都立動物園水族園関係者は除く）

10. 出版事業

(1) 「東京動物園友の会」会員向け機関誌の発行

動物及び動物園に関する情報を提供するための出版物を発行し、「東京動物園友の会」会員その他関係機関等に配付した。

刊 行 物	内 容
どうぶつと動物園	A4 変型判・54 頁／各号約 6,000 部／春・夏・秋・冬号（Vol. 77-2～Vol. 78-1） ・春号：表紙は井の頭のカイツブリ。井の頭におけるカイツブリの繁殖経過及び多様な行動、並びに上野で26年ぶりに成功したスマトラトラ繁殖までの道のりを飼育レポートとして掲載。 ・夏号：表紙は葛西のナメモンガラ。多摩のキリン2頭がインドネシアへ移送された大規模な移動の舞台裏や、日立市かみね動物園が挑戦したカバの体重測定の成功に至る取組を飼育レポートとして掲載。 ・秋号：表紙は上野のマヌルネコ。令和7年3月に上野で13年ぶりに誕生したコビトカバの赤ちゃんについて、その誕生及び現在の成長に至る取組を飼育レポートとして掲載。 ・冬号：表紙は多摩のオランウータン。命を救うための人工哺育に伴う課題について、元飼育担当者が振り返る記事や、上野のゾウ同士の関係性に関する飼育レポートを掲載。 ・その他、研究や保全活動の最新知見などとして、三浦文治の日本画「動物園行楽」を通じ、昭和初期の上野動物園をめぐる時代背景や変遷を紹介する記事や、溪流などに生息するイワナの現状、WWFによるオーストラリアでのコアラ保全活動、ブータンの希少種シロハラサギの保全支援プロジェ

	クト、ハクビシンの運動能力に関する研究成果など、多様な寄稿記事を掲載した。
ZOO！どーぶつえん しんぶん	A4判・8頁／各号約600部／8月・2月発行 ・第34号（8月発行）は「シロテテナガザル」を特集した。上野動物園のシロテテナガザル2頭を取り上げ、体の特徴や運動能力などについて紹介した。 ・第35号（2月発行）は「イリエワニ」を特集した。ワニの分類や生息地、イリエワニの形態、また、上野動物園の飼育個体「フック」の展示と飼育の工夫などについて紹介した。

（2）葛西臨海水族園情報誌の発行

刊 行 物	内 容
SEA LIFE NEWS	A4判・4頁（第116号は6頁）／各号約4,500部／第121号～第126号発行 ・葛西臨海水族園の展示生物についての情報や保全活動・調査活動等に関する情報を取り上げ、園内で配布するとともに東京ズーネットサイトで公開した。
	第121号 水族園初繁殖のタコクラゲ、「西なぎさ」調査2024まとめ、他
	第122号 「ウニ」特集、カニの子どもはプランクトン、他
	第123号 新しくなった金魚水槽、干潟の生き物による水質の浄化、他
	第124号 にぎやかな夏のなぎさ、水族園で楽しむ夏の夕涼み、他
	第125号 クマノミの産卵について、トビハゼの現地調査 他
	第126号 大きく育て！みんなのサンゴ、メンダコモチーフのデザート、他

（3）高碕賞の表彰

季刊「どうぶつと動物園」の令和7年度発行号（春号～冬号）に掲載された記事及び写真を対象に、優れた作品を選出し表彰した。

区分	タイトル	掲載号	氏 名	摘 要
高碕賞	スマトラトラ繁殖成功への道のり——“常識”を見直す	春号	廣瀬 格 高岡英正	
奨励賞	埼玉県こども動物自然公園のコアラ	春号	菊谷利秋	
	よこはま動物園ズーラシアのチーター	春号	佐藤友梨	
	上野動物園のスマトラトラ	夏号	柏 博美	

11. インターネット事業

都立動物園・水族園公式サイト「東京ズーネット」、上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA.JP」、X、YouTube、Instagramを通じて、動物園・水族園の基本情報及び動物に関する情報を広く提供・配信した。

また、「東京ズーネット」を来園者や利用者に向けた情報発信やコミュニケーションを深めるための重要なプラットフォームと位置付け、協会が使命として掲げる「人と動物の共存への貢献」に寄与するデジタルプラットフォームを構築することを目的として全面リニューアルを行い、令和8年3月16日に公開した。

(1) ウェブサイト「東京ズーネット」の運営 (<https://www.tokyo-zoo.net/>)

都立動物園・水族園の公式サイトとして、基本情報としての利用案内をはじめ、動物に関する最新情報や各園イベント情報、動物に関する基礎知識、各園の見どころや動物の紹介、保全への取組など、様々な情報を提供した。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和6年度	令和7年度
ページビュー数	34,200,384	39,721,244

※令和7年度 リニューアル前（令和7年4月1日～令和8年3月15日） 38,119,436

リニューアル後（令和8年3月16日～令和8年3月31日） 1,601,808

【リニューアル後の主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
お知らせ	都立動物園・水族園の飼育動物に関する最新情報や各園イベント情報の発信
動物園・水族園だより	飼育係による飼育レポートや教育普及イベントの開催報告等の発信
各種利用案内	開園時間、休園日、入園料、団体入園、乳幼児・障害者対応、園内利用施設、交通アクセス、園内マップ
見どころと歴史	各園の特徴と見どころ及び歴史の紹介
保全・研究	野生生物や生物多様性の保全、研究、環境教育に関する取組の紹介
生き物図鑑	飼育動物に関する生態等の解説 ※リニューアルに際して「どうぶつ図鑑」を改称
どうぶつ動画ギャラリー	動物の様々な行動の動画の配信（令和8年3月31日現在 計1,297点） ※リニューアルに際して「東京ズーネットBB」を改称
鳴き声図鑑	動物の鳴き声の音声の配信
東京動物園友の会	友の会に関する案内や発行雑誌の紹介
蔵書検索	上野動物園資料室に収蔵されている動物関連図書の検索システム
どうぶつえんデジタルライブラリー	都立動物園・水族園に関する書籍や雑誌を電子書籍として公開

ページ名	内 容 等
動物園サポーター	動物園サポーターの紹介、登録方法、登録者リスト、会計報告
学校向けプログラム	教育機関のための各種プログラムの紹介
デジタルマップ	各園の動物の解説、ショップやトイレ等の園内施設の案内、お子様連れを対象とした授乳室等の案内、経路検索、イベント連携
パンダのもりネット	ジャイアントパンダの生態、上野動物園で飼育してきた個体、保全の取り組みの紹介 ※リニューアルに際して「UENO-PANDA. JP」を整理、統合
幼児向けコンテンツ 「Kids and Zoo」	おもに幼児を対象に、多摩動物公園の動物を取り上げ、ぬりえやひらがな練習等のワークシートや動画を通じて、来園のきっかけや観察の視点を提供
かんさつシート	多摩動物公園の「かんさつシート」の紹介
水族園魚タッチングシート	葛西臨海水族園で楽しく生物観察をするためのワークシートの紹介
移動水族館	葛西臨海水族園の「移動水族館」事業の紹介と申込案内
いきもの広場	井の頭自然文化園園内の「いきもの広場」の紹介、毎週の活動の紹介
花ごよみ	井の頭自然文化園の四季おりおりの植物の紹介
北村西望の彫刻園	井の頭自然文化園園内の彫刻園の紹介、收藏・展示している彫刻家・北村西望の作品の紹介

(2) ウェブサイト「UENO-PANDA. JP」の運営 (<https://www.ueno-panda.jp/>)

上野動物園のジャイアントパンダ情報サイトとして、展示個体並びに過去に飼育した個体の情報、ジャイアントパンダに関する最新情報やQ&A等を紹介。また、保全への取組やジャイアントパンダ保護サポート基金の紹介、企業協賛の募集等のコンテンツ等の情報を提供した。

なお、「東京ズーネット」のリニューアルに合わせて「UENO-PANDA. JP」を統合し、令和8年3月16日をもって運用を終了した。本サイトの内容は、整理のうえ「東京ズーネット」上野動物園ページのコンテンツ「パンダのもりネット」に引き継いでいる。

【年間アナリティクス数値】

年度	令和6年度	令和7年度
ページビュー数	2,038,019	1,957,869

※令和7年度集計期間：令和7年4月1日～令和8年3月15日

【「UENO-PANDA. JP」で提供していた主なコンテンツ】

ページ名	内 容 等
トピックス	上野動物園のジャイアントパンダに関する最新情報
パンダプロフィール	上野動物園で展示している2頭の個体紹介

ジャイアントパンダについて	様々な角度からジャイアントパンダを紹介
パンダムービー	動画によるジャイアントパンダ紹介
歴代のパンダたち	これまで上野動物園で飼育した個体を動画とともに紹介
パンダ舎の紹介	ジャイアントパンダ舎を写真付きで紹介
パンダ大百科	ジャイアントパンダに関するQ&A
保全への取り組み	ジャイアントパンダ保護研究に関する概要
熊猫的新聞（パンダニュース）	飼育係による写真付きのレポート
壁紙ダウンロード	パソコン用にダウンロードできる壁紙を提供
ジャイアントパンダ保護サポート基金	基金の概要、企業協賛の募集

（３）Xによる情報発信

SNS「X」を活用し、４園と東京ゾーネットの５アカウントから積極的に情報を発信した。

アカウント		フォロワー数	
		令和７年３月末	令和８年３月末
上野動物園	@UenoZooGardens	1, 100, 840	960, 758
多摩動物公園	@TamaZooPark	278, 823	272, 900
葛西臨海水族園	@KasaiSuizokuen	197, 787	191, 852
井の頭自然文化園	@InokashiraZoo	154, 934	153, 292
東京ゾーネット	@TokyoZooNet_PR	447, 470	391, 165

（４）YouTubeによる情報発信

動画配信サービス「YouTube」を活用し、「東京ゾーネット公式チャンネル」「葛西臨海水族園公式チャンネル」「東京ZoovieYouTubeチャンネル」で動画配信を積極的に行った。

（５）Instagramによる情報発信

都立動物園・水族園の公式 Instagram アカウント (@tokyo_zoogram) 及び上野動物園公式 Instagram アカウント (@ueno_zoo_official) を活用し、写真や動画を中心とした積極的な情報発信を行った。フォロワー数はそれぞれ 38, 286 及び 50, 420（令和８年３月 31 日現在）。

（６）メールマガジンによる情報発信

プッシュ型メディアであるメールマガジンを活用し、「ゾー・エクスプレス」を隔週で計26号（No. 922～947）を配信した。登録数4, 223（令和８年３月31日現在）。

1 2. 映像記録資料制作

(1) 動物写真撮影

都立動物園・水族園を中心に、飼育動物全般に関する記録及び園内外の行事や催物を撮影・記録した。

(2) 動画撮影・制作

飼育動物の行動記録や動物園情報を動画撮影し、ウェブサイト「東京ゾーネット」や「UENO-PANDA. JP」で配信したほか、研究発表等の資料として活用した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
キリンの削蹄	1時間51分15秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	2分57秒	上野	資料として提供
スマトラトラの搬出	7分8秒	上野	資料として提供
オガサワラカワラヒワの育雛	1分10秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	5分12秒	上野	資料として提供
スカイウォーク記念講演会	1時間48分	多摩	資料として提供
ハガツオの搬入	15分19秒	葛西	資料として提供
上野サポーターズデイ講演会	1時間22分29秒	上野	資料として提供
世界トラの日イベント	1時間30分24秒	上野	資料として提供
アジアゾウの1日	7分31秒	多摩	展示場放映用
ニシローランドゴリラ治療	2時間1分27秒	上野	資料として提供
輸送箱	11分34秒	上野	イベント放映用
ジャイアントパンダ	8分4秒	上野	資料として提供
ジャイアントパンダ	5分48秒	上野	資料として提供
セマルハコガメ	58秒	上野	展示場放映用
野生生物保全基金講演会	3時間41分34秒	上野	資料として提供
アカゲザル全頭捕獲	44分21秒	井の頭	資料として提供
ジャイアントパンダ	12分48秒	上野	資料として提供
保全・栄養シンポジウム	3時間2分49秒	多摩	資料として提供
アジアゾウのトレーニング	2分27秒	多摩	ゾーネットBB配信用
動くイリエワニの「フック」	2分52秒	上野	ゾーネットBB配信用
コビトカバ誕生	2分2秒	上野	ゾーネットBB配信用
ニホンイヌワシのエサの食べ方	2分9秒	多摩	ゾーネットBB配信用
インドサイ親子にタケノコのプレゼント	3分8秒	多摩	ゾーネットBB配信用
タイリクオオカミ スイとカヨランのじゃれあい	3分12秒	多摩	ゾーネットBB配信用
チゴガニのバンザイとケンカと団子づくり	2分19秒	葛西	ゾーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
コビトマンガースの新しい展示	2分41秒	上野	ズーネットBB配信用
カピバラ「なえ」の放飼場デビュー@井の頭	3分9秒	井の頭	ズーネットBB配信用
サバンナエリアに戻ったモイロペリカン	3分8秒	多摩	ズーネットBB配信用
ホテル観察会2025	2分39秒	多摩	ズーネットBB配信用
ユキヒョウの鳴き声	1分50秒	多摩	ズーネットBB配信用
骨を喰らうオスライオン	1分59秒	多摩	ズーネットBB配信用
葉に擬態するオオコノハムシ	1分19秒	多摩	ズーネットBB配信用
サバンナに戻ったシロオリックス	2分10秒	多摩	ズーネットBB配信用
すくすく成長するコブシ	3分3秒	上野	ズーネットBB配信用
クマノミの卵の世話	2分9秒	葛西	ズーネットBB配信用
ゴンズイ玉	1分43秒	葛西	ズーネットBB配信用
セミとコウモリ観察会@上野	2分25秒	上野	ズーネットBB配信用
おさるのダイブ	2分7秒	多摩	ズーネットBB配信用
オガサワラカワラヒワのひな誕生	1分48秒	上野	ズーネットBB配信用
シロテテナガザルの赤ちゃん誕生	3分50秒	上野	ズーネットBB配信用
サマーナイト@Tama Zoo 2025	2分41秒	多摩	ズーネットBB配信用
ハガツオの搬入	2分33秒	葛西	ズーネットBB配信用
身近にいる絶滅危惧種アズマヒキガエル	1分43秒	井の頭	ズーネットBB配信用
オオハクチョウの鳴き声	2分20秒	井の頭	ズーネットBB配信用
カワウソの体から泡が出る理由	1分22秒	多摩	ズーネットBB配信用
秋の夜の動物園	2分57秒	上野	ズーネットBB配信用
カバ舎に引越したナツメ・コブシ親子	1分37秒	上野	ズーネットBB配信用
シロテテナガザルの子の成長	1分41秒	上野	ズーネットBB配信用
パッションのつまみ食い	2分24秒	井の頭	ズーネットBB配信用
秋の夜長の自然文化園	2分35秒	井の頭	ズーネットBB配信用
ゲンタロウ来園	2分	上野	ズーネットBB配信用
活発になってきたシロテテナガザルの子	1分46秒	上野	ズーネットBB配信用
2026年はモウコノウマに注目	2分	多摩	ズーネットBB配信用
のんびり過ごすアフリカタテガミヤマアラシ	1分35秒	井の頭	ズーネットBB配信用
木くず舞うコゲラの巣穴づくり	1分15秒	井の頭	ズーネットBB配信用
白いおヒゲ?のインカアジサシ	1分33秒	上野	ズーネットBB配信用
2026年上野動物園のお正月	2分48秒	上野	ズーネットBB配信用
2026年多摩動物公園のお正月	3分19秒	多摩	ズーネットBB配信用
クロシロエリマキキツネザルの鳴き声	1分56秒	上野	ズーネットBB配信用

内 容	時間	園名	主な使用目的
上野f動物園のアフリカクロトキ	1分39秒	上野	ズーネットBB配信用
チンパンジーのサクラ・ハヤテ親子	2分21秒	多摩	ズーネットBB配信用
モルモットのエサタイム	1分52秒	井の頭	ズーネットBB配信用
人知れず動くエメラルドツリーボア	1分24秒	上野	ズーネットBB配信用
スマトラトラ「ベラニ」と「レスタ」の水遊び	2分47秒	上野	ズーネットBB配信用
マレーバクの屋外展示	2分14秒	多摩	ズーネットBB配信用
猛獣等脱出対策訓練	3分17秒	上野	ズーネットBB配信用

(3) 広報用資料の制作

動物園・水族園の広報発表時の写真資料に加え、ビデオ映像を撮影・制作し、提供した。

内 容	時間	園名	主な使用目的
ジャイアントパンダ（4月24日）	5分48秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（5月29日）	5分8秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（6月26日）	5分59秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（7月24日）	4分29秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（8月28日）	5分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（9月18日）	5分30秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（10月30日）	6分	多摩	報道発表資料
ジャイアントパンダ（11月27日）	5分32秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月15日）	1分29秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（12月25日）	6分12秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月22日）	4分42秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月25日）	2分20秒	上野	報道発表資料
ジャイアントパンダ（1月27日）	9分7秒	上野	報道発表資料

〔４〕市民・団体との協働事業

１．ボランティアとの協働

園内で展示動物の解説等や入園者案内等のボランティア活動を行う「東京動物園ボランティアーズ（TZV）」（活動場所：上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、登録者数647名）と「東京シーライフボランティアーズ（TSV）」（活動場所：葛西臨海水族園、登録者数110名）に対して、新規応募者や既存会員を対象とした研修会の開催やユニフォーム等活動経費の援助を行った。葛西臨海水族園は令和10年のリニューアルオープンに伴い、令和7年度より当面の間、TSVの新規募集を停止した。

また、「恩賜上野動物園樹木美化ボランティア」が上野動物園で、「NPO法人樹木・環境ネットワーク」が多摩動物公園で、園内の植物の維持管理活動等を行った。

（１）新規応募者対象研修会実施状況

園 名		内 容	実施回数	参加者数
TZV	上野	①DG講習会	① 2 回	①85名
		②SG 講習会	② 2 回	②94名
	多摩	①ガイド実習	① 1 回	①23名
		②DG講習会	② 1 回	②41名
		③SG新人研修	③ 1 回	③20名
TSV	葛 西	①DG講習会	① 1 回	①40名
		②SG講習会	② 2 回	②10名
TSV	葛 西	新規募集は当面の間、見合わせる。	0回	0名

（２）ボランティア会員を対象とした研修会

園 名		内 容	参加者数
TZV	上野	のんびり楽しむドリームナイト&イブニング勉強会ほか	228名
	多摩	モルモットふれあい研修、アフリカンキャッツ勉強会ほか	188名
	井の頭	彫刻園勉強会、動物福祉勉強会ほか	44名
TSV	葛 西	クロマグロの展示勉強会、西なぎさ現地研修ほか	182名

(3) ボランティアとの協働による教育活動等

園 名		内 容	実施回数
TZV	上野	園内スポットガイド等	417回
	多摩	園内スポットガイド、ふれあいコーナー活動等	337回
	井の頭	園内スポットガイド等	118回
TSV	葛 西	しおだまり、東京の海ガイド等	286回

2. サポーター事業

個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、都立動物園における動物飼育環境の改善に資するとともに、「動物園サポーター」として登録し、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進した。

(1) 動物園サポーターの登録状況

園 名	個人 (大人) 1口：10,000円	個人 (大学生以下) 1口：5,000円	子供 サポーター 1口：500円	法人 (団体) 1口：50,000円	金額
上 野	575件 809口	14件 17口	11件 18口	10件 11口	8,734,000円
多 摩	262件 366口	6件 8口	8件 8口	3件 4口	3,904,000円
葛 西	35件 40口	5件 6口	0件 0口	4件 4口	630,000円
井の頭	85件 111口	3件 4口	4件 5口	1件 2口	1,232,500円
合 計	957件 1,326口	28件 35口	23件 31口	18件 21口	14,500,500円

(2) サポーターを対象とした園内見学等の催物（サポーターズデイ）等の実施

開催園	実施月日	内 容	参加者
上野	8月24日	東京国立博物館にて講演会	233名
多摩	10月4日	近況報告・収支報告、キーパーズトーク	109名
井の頭	12月7日	園内ガイドツアー、近況報告・収支報告	38名
葛西	2月28日	収支報告、ガイドツアー	26名
多摩	3月7日	収支報告、キーパーズトーク	128名
上野	3月15日	東園自由見学	309名

(3) サポーター資金による飼育展示等の改善

園 名	実 施 事 項
上 野 動 物 園	エゾシカ展示用柵設置工事、アメリカバイソン舎スポットクーラー導入ほか
多 摩 動 物 公 園	アジアゾウ舎風除け設置、アカカンガルー屋外ヒーター・日除けシェード導入ほか
葛 西 臨 海 水 族 園	エトピリカ巣穴観察用カメラ導入、トビハゼ水槽泥導入
井の頭自然文化園	フェネック展示場敷砂入替、ツシマヤマネコ・アムールヤマネコ舎カメラ設置ほか

3. 関係団体への協力

(1) 国際自然保護連合への協力

国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 略称IUCN）の委員会である種保存委員会（Species Survival Commission 略称SSC）の保全計画専門家グループ（Conservation Planning Specialist Group 略称CPSG）に事業援助のため寄付を行った。

(2) 関係団体への協力

動物園事業に関係する20の団体に加入し、情報の交換や募金活動への協力を行った。

[加入団体]

会員区分	団 体 名	会員区分	団 体 名
法 人 会 員	(公財)世界自然保護基金ジャパン	団 体 会 員	(公財)日本自然保護協会
〃	(公財)日本鳥類保護連盟	〃	(一社)日本霊長類学会
賛 助 会 員	(公財)山階鳥類研究所	〃	(一社)日本応用動物昆虫学会
〃	(一社)日本生態学会	〃	(一社)日本環境教育学会
〃	日本動物心理学会	〃	(一社)日本昆虫学会
〃	(公社)日本造園学会	〃	日本鱗翅学会
維 持 会 員	(公社)日本動物園水族館協会	〃	(一社)日本鳥学会
〃	(公財)日本博物館協会	〃	日本爬虫両棲類学会
団 体 会 員	(一社)日本哺乳類学会	〃	(一社)日本生物教育学会
〃	(公社)日本動物学会	〃	日本動物園水族館教育研究会

4. 基金事業

(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金の運営

募金やドネーション商品からの寄付、企業からの協賛金等を積み立て、ジャイアントパンダ保護に向けた普及啓発活動や上野動物園での飼育環境の向上、東京都と中国が共同で進めている繁殖研究プロジェクトへの支援に活用した。

① 収入の状況

項 目	金 額	内 容
寄付金	11,740,255円	①園内外募金箱への募金 ②SAVE the PANDAパートナーズ ほか
企業協賛金	2,803,050円	①園内広告協賛 ②ロゴマーク、キャラクターライセンス使用
ドネーション商品 売上金からの寄付金	13,068,813円	オリジナルドネーション商品売上金額の5% （「ありがとうシャンシャン」CD/DVDは80%） アイテム数：37点（ぬいぐるみ、お菓子ほか） 売上点数：151,377点

② 基金活用の状況

使 途	活用内容	活用金額
ジャイアントパンダの保護に向けた普及 啓発活動	中国返還企画（シャオシャオ・レイレイ）、パンダの日記念企画及び「パンダのもり」ジャイアントパンダの観覧通路の開放ほか	6,957,113円
上野動物園におけるジャイアントパンダの 飼育環境の向上	パンダのもりにおける飼育環境の充実（観察用カメラ移設・増設工事、行動観察記録用ソフトの構築、木製工作物の設置ほか）	9,240,770円
東京都と中国野生動物保護協会が共同で 進める国際的なパンダ保護活動	東京都と中国の共同繁殖プロジェクト支援（東京都へ寄付）	10,000,000円

③ 基金残高

基金残高	116,517,978円（令和8年3月31日現在）
------	---------------------------

④ ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会の開催

基金を適正に管理し事業に活用するため、ジャイアントパンダ保護サポート基金運営委員会を開催した。

〔委員・顧問〕（令和8年3月31日現在）

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	土 居 利 光	日本パンダ保護協会会長
副 委 員 長	杉崎 智恵子	公益財団法人東京動物園協会理事長
委 員	湯川 れい子	音楽評論家・作詞家
委 員	二 木 忠 男	上野観光連盟名誉会長
委 員	荒 井 芳 則	東京都建設局次長
顧 問	黒 柳 徹 子	女優・ユニセフ親善大使

〔運営委員会〕

回	開催月日	議 題
第1回	8月6日	(1) 令和6年度基金事業報告・決算報告について (2) 令和7年度基金進捗状況について (3) 現在の飼育状況について
第2回	2月25日	(1) 令和7年度基金進捗状況について (2) 令和8年度基金事業・予算（案）について

（2）東京動物園協会野生生物保全基金の運営

野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の支援を目的として、助成対象活動を公募し、審査のうえ、助成金交付を行った。令和7年度の助成対象活動募集に当たっては、「一般部門」「中高校生部門」「東京動物園協会保全パートナー部門」の募集を行った。

基金PR活動としてポスターとチラシを作成して全国の大学や博物館、研究施設、NPO、SSH、理科教育に関心の高い都立高校等に送付して本助成制度を広くアピールしたほか、各園で配布するパンフレットを新たに作成した。またクレジットカード決済のほか、みずほ銀行が運営する「J-Coin Pay」、株式会社ヤフーが運営する「Yahoo!ネット募金」へ参加するなど、オンライン寄付システムの活用により幅広く寄付を募った。

① 助成交付実績

〔令和7年度〕

＊令和7年2月1日～2月28日公募。令和6年度内に助成対象を決定し、令和7年度に助成金交付

【一般部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
ダイトウオオコウモリの生息阻害要因の解明－特に感電事故の急増と対策について	保全活動	大東諸島生物相研究グループ	963,000円
ペンギンを傷つけずに抱卵中の生理・心理状態を把握する手法の確立	調査研究	齋藤綾華	1,000,000円
琉球列島固有種リュウキュウヤマガメの生息状況と集団構造の解明	調査研究	栗田隆気・笹井隆	999,390円
アマミノクロウサギの乳はどのようにして作られるのか？－腸からのアプローチ－	調査研究	帯広畜産大学乳研究グループ	1,000,000円
国内希少野生動植物種アカモズのファウンダー導入と野生復帰に向けた技術検討（継続）	保全活動	長野アカモズ保全研究所	1,000,000円
アジアゾウ繁殖保全に関わるタンパク質の探索3～タンパク質挙動についての検討～（継続）	調査研究	佐藤陽子	1,000,000円
トキ・コウノトリの野生復帰をサポートするための情報収集	調査研究	蘇雲山	985,000円

【中高校生部門】

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
岐阜県海津市南濃町津屋地区清水池におけるハリヨの生態調査	調査研究	岐阜県立大垣東高等学校	285,760円
ニホンカナヘビのアロメトリー	調査研究	学校法人池田学園 池田中学校・高等学校	500,000円
天然記念物カラスバトに関する保全生物学的研究および啓蒙的活動	調査研究	東京都立国分寺高等学校	500,000円
27年間のニッポンバラタナゴ保護活動から地域貢献型研究	調査研究	清風中学校・高等学校	500,000円
トウホクサンショウウオの生息環境をどのようにに保全するか、その最適解を求める	調査研究	仙台城南高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

助成対象活動名	助成対象者	交付額
日本の動物園水族館で培った飼養繁殖技術を用いたシロハラサギ域外保全個体群創設の支援	シロハラサギ保全チーム	1,500,000円

希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究(令和6年度から継続)	東京農工大学 獣医生理学研究室	1,500,000円
オガサワラカワヒワの飼育繁殖技術の習得及び域内調査活動(令和5年度から継続)	一般社団法人Islands care	1,500,000円

② 収入の状況

寄付金	2,414,779円	企業・個人からの寄付(収益事業からの繰入れ除く)
-----	------------	--------------------------

③ 基金残高

基金残高	93,647,397円(令和8年3月31日現在)
------	--------------------------

④ 東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会の開催

助成対象活動の選定を適正かつ公正に行うため、東京動物園協会野生生物保全基金審査委員会を開催し、助成対象活動を選定した。

〔審査委員〕(令和8年3月31日現在)

役 職	氏 名	職 名
委 員 長	田 畑 直 樹	公益財団法人日本動物愛護協会 理事長、前・葛西臨海水族園 長
委 員	内 田 純 子	東京動物園ボランティアーズ第4期生
委 員	平 岡 考	公益財団法人山階鳥類研究所 参与
委 員	山 崎 晃 司	東京農業大学教授
委 員	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授、アミノクロウサギミュージアムQuruGuru 名誉館長
委 員	杉 崎 智 恵 子	公益財団法人東京動物園協会 理事長
委 員	渡 部 浩 文	公益財団法人東京動物園協会 野生生物保全センター所長

〔審査委員会〕

開催日	議 題
3月13日	第1号議案 令和8年度助成対象活動選定について

⑤ 助成対象活動選定結果

*令和8年2月1日～2月28日公募。7年度内に助成対象を決定し、助成金は8年度に交付。

【一般部門】

*助成金額上限：100万円/年、助成件数：9件

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
ダイトウオコウモリの生息阻害要因の解明－特に感電事故の急増と対策について（継続）	保全活動	大東諸島生物相研究グループ	972,000円
琉球列島固有種リュウキュウヤマガメの生息状況と集団構造の解明（継続）	調査研究	栗田隆気・笹井隆秀	991,000円
高大連携プロジェクト「野生動物学初歩実習」を通じた野生生物の保全発信	普及啓発	動物園教育と動物行動探求の会ドーダー	344,000円
動物園・水族館動物における生殖状態評価に向けた糞中性ホルモン測定法の向上	調査研究	柳川洋二郎	1,000,000円
DNAを用いた野生マルミミゾウの年齢推定手法の開発	調査研究	野本繭子	1,000,000円
飼育下ミナミシロサイの繁殖に向けた嗅覚刺激による性的動機付けの検証	調査研究	神崎野道	957,000円
祇苗島におけるオーストンウミツバメの繁殖生態モニタリング	調査研究	寺嶋太輝	1,000,000円
アマミノクロウサギの乳はどのようにして作られるのか？－腸からのアプローチ－（継続）	調査研究	帯広畜産大学乳研究グループ	1,000,000円
家畜を襲撃するユキヒョウの食性および生理的特徴の解明－人との軋轢問題解決に向けて－	調査研究	木下こづえ	1,000,000円

【中高校生部門】

*助成金額上限：50万円/年、助成件数：合計5件

助成対象活動名	部門	助成対象者	交付額
ナガレホトケドジョウの保護に向けた環境DNA分布調査	調査研究	岐阜県立大垣東高等学校	500,000円
兵庫県小野市周辺におけるダルマガエルの分布動態とトノサマガエルとの交雑構造の解明－Mig-seq解析を用いた遺伝的多様性評価－	調査研究	兵庫県立小野高等学校	500,000円
トウホクサンショウウオの生息環境をどのようにに保全するか、その最適解を求める（継続）	調査研究	仙台城南高等学校	500,000円
天然記念物カラスバトに関する保全生物学的研究啓蒙的活動（継続）	調査研究	東京都立国分寺高等学校	500,000円
京都由良川における絶滅危惧種オヤニラミの生息状況調査	調査研究	京都府立福知山高等学校	500,000円

【東京動物園協会保全パートナー部門】

*助成金額上限：150万円/年、助成件数：2件（※3年間継続：継続2件）

助成対象活動名	助成対象者	交付額
日本の動物園水族館で培った飼養繁殖技術を用いたシロハラサギ域外保全個体群創設の支援（継続）	シロハラサギ保全チーム	1,500,000円
希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究（継続）	東京農工大学 獣医生理学研究室	1,500,000円

⑥ 「東京動物園協会野生生物保全基金」成果報告会

令和6年度に完了した助成対象活動のうち11件について、成果報告講演会（令和7年12月13日）を行った。

開催日	内 容
令和7年 12月13日実施	講演① 天草に生息するゲンジボタルについてのDNA分析を用いた生態及び生息状況調査：辻愛珠氏 講演② 紀ノ川下流における止水域に重点を置いた水生生物調査：田村魁都氏、佐藤まのあ氏 講演③ ヒメタイコウチの分布調査と分子系統解析、生態ニッチモデリングによる種の保全：宮崎多聞氏 講演④ 奈良県生駒市におけるツバメの子育て研究：荻巣樹氏 講演⑤ 都市部運河域における魚類の生息場創出に関する研究－魚類の食性に着目して－：今村匠氏 講演⑥ 野生動物における身体的ストレスおよび心理的幸福度の評価法に関する研究（II）：大和修氏 講演⑦ 野生メダカはいつ・どこで・どのように繁殖している？動画撮影とDNA解析から迫る：近藤湧生氏 講演⑧ ヒキガエル属3種の種の境界維持機構の解明：西川完途氏 講演⑨ 国内希少野生動植物種アカモズのファウンダー導入と野生復帰に向けた技術検討：松宮裕秋氏 講演⑩ 絶滅危惧鳥類シロハラサギの飼育下繁殖技術の確立に向けたアオサギの孵化育雛研究：松本令以氏 講演⑪ 希少哺乳動物の域外保全に寄与する精巣機能解析と精巣細胞保存方法に関する研究：山本ゆき氏

〔５〕利用者サービス

１．入場券の売改札及び利用案内・園内サービス

（１）入場券の売改札

入場券の売改札、年間パスポートの販売を行った。

【入園者数】

（単位：人）

区 分			上野	多摩	葛西	井の頭	合計	摘 要
有 料	個 人	一 般	2,044,485	402,201	634,033	341,735	3,422,454	
		中学生	85,020	4,527	16,079	1,234	106,860	
		65歳以上	183,876	33,075	37,638	41,807	296,396	
		計	2,313,381	439,803	687,750	384,776	3,825,710	
	団 体	一 般	54,351	18,821	36,270	5,490	114,932	20人以上
		中学生	1,548	59	471	3	2,081	〃
		65歳以上	3,298	308	4,184	438	8,228	〃
		計	59,197	19,188	40,925	5,931	125,241	
	小 計		2,372,578	458,991	728,675	390,707	3,950,951	
	無 料	個 人	小学生以下	648,974	229,820	422,547	178,480	1,479,821
中学生			20,389	4,389	12,105	5,609	42,492	都内在住在学
計			669,363	234,209	434,652	184,089	1,522,313	
団 体		幼 児	36,211	36,171	22,169	19,550	114,101	
		小学生	43,777	36,515	46,526	12,805	139,623	
		中学生	38,992	3,456	10,008	319	52,775	
		計	118,980	76,142	78,703	32,674	306,499	
特 免		112,411	34,225	50,230	32,607	229,473	身体障害者等	
その他		114,627	56,148	49,379	34,544	254,698	無料開園日等	
小 計		1,015,381	400,724	612,964	283,914	2,312,983		
合 計			3,387,959	859,715	1,341,639	674,621	6,263,934	

【年間パスポート販売状況】

園 名	販売実績	摘 要
上 野 動 物 園	23,629 枚	一般2,400円、65歳以上1,200円
多 摩 動 物 公 園	6,986 枚	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	3,533 枚	一般2,800円、65歳以上1,400円
井の頭自然文化園	9,855 枚	一般1,600円、65歳以上 800円
合 計	44,003 枚	

(2) 有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収

園内での写真撮影や集会所の使用申請の受付事務と入園料、使用料、占用料の徴収及び東京都への納付事務を行った。

【入園料金の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	1,204,563,920円	大人600円、中学生200円、65歳以上300円
多 摩 動 物 公 園	243,751,740 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	475,594,980 円	大人700円、中学生250円、65歳以上350円
井の頭自然文化園	125,774,260 円	大人400円、中学生150円、65歳以上200円
合 計	2,049,684,900 円	

【占用料・使用料の徴収】

園 名	収 納 額	摘 要
上 野 動 物 園	2,178,889 円	占用料（写真撮影等）
多 摩 動 物 公 園	1,580,472 円	〃
葛 西 臨 海 水 族 園	321,463 円	〃
井の頭自然文化園	432,302 円	占用料・使用料（資料館・童心居）
合 計	4,513,126 円	

(3) 利用案内・園内サービス

園内における利用者案内、迷子相談、園内放送、救急救護、車椅子の貸出等のサービスや遺失物・拾得物対応を実施したほか、園外からの電話による問い合わせに対応、園内案内図、案内板の更新を行った。

【園内利用案内】

(単位：件)

園名	迷子相談	園内放送	入園者救護	車椅子貸出	遺失物届	拾得物届
上野	243	3,325	567	1,766	731	3,104
多摩	43	3,017	264	299	547	4,335
葛西	136	1,686	135	514	505	2,444
井の頭	50	262	113	89	255	1,676
合計	472	8,290	1,079	2,668	2,038	11,559

2. 園内の保安及び環境美化

(1) 園内巡回警備

巡回警備による整理・誘導、防犯等、入園者の安全に配慮して実施した。

(2) 園内清掃及び廃棄物搬出

園内美化を図り、園内の清掃及び収集したゴミ等の廃棄物を園外へ搬出した。また、搬出した寝藁等は専門施設においてリサイクルし、肥料化した。

3. 利用促進・PR活動

ウェブサイトやSNSによるデジタルコンテンツでの広告展開や情報発信を強化し、当協会が行っている野生生物保全に関する取組を発信することで、集客に向けた認知拡大だけでなく、都立動物園・水族園のファンを増やす取組を行った。

【主な施策】

実施項目	内 容
春季施策	・(公財)東京都道路整備保全公社が管理する新宿駅西口広場の行政情報掲示板において、当協会が取り組む野生生物保全活動に関するメッセージをデザインした掲示物を、年度を通して掲出した。 ・春休み期間やゴールデンウィーク、無料公開日の利用促進のため、4園のPR動画像を利用した、Instagram広告(4月21日～5月5日)やディスプレイ広告(4月25日～5月5日)を実施した。

実施項目	内 容
夏季施策	・夏期の各園のイベント（開園延長等）の周知のため、Instagram広告（8月1日～8月13日）、YouTube広告（7月28日～8月22日）、ディスプレイ広告（7月25日～8月22日）での広報を積極的に行った。また、代々木公園で開催された台湾フェスタ（7月26日・27日）、こども霞が関見学デー（8月6日・7日）、初参加となる多摩中央公園夜間イベントでのブース出展（8月9日・10日 ※10日は雨天により中止）において、ブース来訪者に対してイベントチラシ等を用いて動物園・水族園誘致のPRを行った。
秋季施策	・Instagram広告（10月1日～11月16日・11月29日～12月1日）・YouTube広告（10月25日～11月15日）でイベント認知を促進した。
冬季施策	・東京ビッグサイトで行われる環境総合展「エコプロ」（12月10日～12日）でのブース出展において、ブース来訪者に対してイベントチラシ等を用いて動物園・水族園誘致のPRを行った。 ・4園合同企画（1月8日～3月8日）については、既存のファンに加えて若い世代を取り込むため、都立動物園において初めて謎解きイベントを実施した（参加人数：13,506名）。また、企画を周知するためInstagram広告（1月5日～3月8日）、YouTube広告（1月5日～3月8日）、ディスプレイ広告（1月5日～3月8日）を実施した。 ・井の頭自然文化園の春の来園者誘致に向けて、春のメニューや季節の花の情報をInstagram広告にて配信した。

【利用促進・PR】

事 項	摘 要
ウェブサイト	・ウェブサイト「東京ズーネット」を通じて、動物の最新ニュースや動画、イベント情報等を多くの人に向けて発信した。また、ウェブサイトの全面リニューアルを行い、令和8年3月16日に公開した。 ・各園の見どころや写真撮影スポット、おすすめのギフト商品等を「都立動物園・水族園 見どころデジタルマップ」で情報発信した。 ・上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト「UENO-PANDA. JP」では、パンダに関する情報を掲載したほか、ジャイアントパンダ保護サポート基金についても広くアピールした。なお「東京ズーネット」のリニューアルに合わせて「UENO-PANDA. JP」を統合し、令和8年3月16日をもって運用を終了した。 ・葛西臨海水族園の混雑予想カレンダーを掲載し、快適な観覧のための情報を提供した。 ・Xによる4園の情報発信を通じて、即時性のある情報をタイムリーに配信した。 ・YouTube上の「東京ズーネット公式チャンネル」において、ジャイアントパンダの最新情報など、動物園・水族園の魅力を動画配信した。

事 項	摘 要
	・Instagramを4園共通アカウント及び上野動物園アカウントとして運用し、園内や事業の魅力を伝える写真や動画の投稿を行った。
広 告 物	・東京都内の幼稚園・保育園へ配布する携帯型クーポン冊子「ハッピープレゼントクーポン東京版」（都内の幼稚園・保育園850園に納品、約90,000部配布）の春号・夏号・秋号・冬号に広告を掲出し、夏号では多摩動物公園・葛西臨海水族園の、秋号では上野動物園・井の頭自然文化園の夜間開園をPRした。 ・新宿駅西口広場のブライトサインにて、当協会が取り組む野生生物保全への活動をメッセージにしたデザインを通年で掲示した。 ・東京観光情報センターの4施設（東京都庁、バスタ新宿、京成上野、多摩）のデジタルサイネージにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・八王子駅北口ビジョンにて、各園のPR動画を通年で放映した。 ・上野動物園では、上野公園内の常設看板や東京メトロ銀座線上野駅通路「文化の杜路」において、イベントや特設展に関する情報掲示を行った。掲出する情報がない期間には、公式SNSを紹介するポスターを掲示した。 ・多摩動物公園では、京王線近隣主要駅及び多摩モノレール主要駅に、サマーナイトをPRするポスターを7月下旬～8月中旬まで掲出するとともに、アフリカフェアをPRするポスターを10月中旬～11月16日まで掲出した。 ポスター掲出と併せ、日野市立小学校及び近隣施設へのPRチラシ配架を行った。また、多摩動物公園PR動画を公式HPで公開した。 ・葛西臨海水族園では、JR東日本と連携し、年間を通じてJR葛西臨海公園駅構内のディスプレイモニターで展示生物を紹介する映像の放映や隔月発行の機関誌「シーライフニュース」の配架を行った。また、開園記念日イベントや講演会などのチラシを葛西臨海公園内の施設や江戸川区内の公共施設、講演会内容に関連する施設などに配架し、利用促進を図った。 ・井の頭自然文化園では、デザインをリニューアルした年間パスポートについて、4月と6月に「リビングむさしの」、6月に「デイリースポーツ」へ掲載し、利用促進に取り組んだ。10～11月には、秋の夜間開園のPRとして、吉祥寺駅自由通路や吉祥寺駅前商店街でのデジタルサイネージ掲出、学校や近隣施設へのポスター掲出、地方情報紙への広告、さらにInstagramなどのSNSやディスプレイ広告といったインターネット広告を展開した。また、年間を通して園内PR動画を公式HPで放映した。
そ の 他	・繁忙期における休園日の臨時開園（上野6日、多摩5日、葛西5日、井の頭1日）、開園時間延長（上野13日、多摩11日、葛西9日、井の頭10日）を実施した。 ・「雨の日サービス」として、各園のXを利用して展示やイベントに関する予定変更の情報、雨の日の展示動物の様子や「雨の日ならではの楽しみ方」等に関する

事 項	摘 要
	る情報発信を実施した。 ・訪日外国人来園者の動向を把握するため、定量調査（4園）、定性調査（上野）及びオンラインチケット購入者の国別推計調査を実施した。 ・訪都旅行者向けに、都立動物園・水族園紹介パンフレット「Tokyo Zoos & Aquarium」（英語・中国語〔繁体・簡体〕・韓国語及び日本語）を東京都観光案内所等で配布した。

4. 広報広聴

園内動物の繁殖や催物等についての広報発表、取材対応のほか苦情や意見への対応を行った。

（1）主な広報発表

園 名	発表日	件 名
上 野	4月10日	「さよならサル山」イベントを実施します
	7月4日	スマトラトラのミンピが出産しました！
	7月24日	戦後80年企画「動物園からつなぐ平和のバトン」を実施します
	12月15日	ジャイアントパンダ「シャオシャオ」と「レイレイ」の返還について
	12月26日	コビトカバのモミジが出産しました！
	その他、合計32件	
多 摩	4月24日	マレーバクがインドネシアから来園しました
	6月26日	多摩動物公園のスカイウォーク20周年記念講演会
	10月9日	「Action for KOALA みんなで守ろう！コアラとコアラのくらす森」を開催します
	10月15日	チンパンジーが生まれました！
	3月26日	ボルネオオランウータンが生まれました！
	その他、合計33件	
葛 西	6月12日	ミナミイワトビペンギンの人工繁殖研究が、日本動物園水族館協会最高の賞「古賀賞」を受賞しました～希少動物の繁殖に関する、国内で最も栄誉ある賞です～
	7月24日	夏の開園3時間延長「水族園で夕涼み」
	10月9日	～令和10年 新しい葛西臨海水族園のオープンに向けて～ 「おさかなプロジェクト」イベントを開催します！
	10月23日	～令和10年 新しい葛西臨海水族園のオープンに向けて～ サンゴプロジェクトイベント「サンゴの苗を作ってみよう」を開催します！

園 名	発表日	件 名
	1月22日	「Deep of Wonder-不思議な深海の生き物たち」開催！
	その他、合計21件	
井の頭	4月24日	講演会「アマミトゲネズミを知ろう～奄美の森でおきていること」参加者募集！
	8月28日	ヤマネコ保全講演会「対馬と西表島のヤマネコたち－飼育・調査からつむぐ」参加者募集
	9月11日	怪談スタンプラリー最終回「動物園怪談画劇——井之頭百物語・拾（じゅう）」
	9月25日	「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」を開催します！
	11月27日	午年だよ！文化園の新年イベント
	その他、合計15件	

（２）苦情・意見への対応

園内に設置した意見箱やウェブサイト「東京ズーネット」に寄せられた苦情・意見について、関係部署へ周知するとともに対応策を検討し、園内環境やサービスなどの改善に努めた。また、データベースを活用しサービスの改善・充実を図ったほか、各園に寄せられた主なご意見ご要望及びそれに対する回答と対応について、月毎にウェブサイト「東京ズーネット」への掲載を行った。

〔6〕安全・安心の確保

令和7年度は「危機管理委員会の下、自然災害、人為災害、サーバー攻撃や各種感染症等への的確な対策を講じ、来園者・動物・職員の安全第一の考えに基づく不断の業務改善を行う」ことを組織方針の一つに掲げ、安全・安心の確保に努めた。

（1）動物事故再発防止対策

令和元年8月に多摩動物公園インドサイ舎において発生した飼育職員の死亡事故を受け、動物事故再発防止PTによる再発防止策として令和2年に策定した「動物事故再発防止対策」に基づき、危機管理委員会下にある「動物事故・感染症等対策部会」において定期的に進捗状況を確認し、安全管理の徹底を図った。

【動物事故再発防止対策】

区分	対策	具体的内容
特定動物等のより安全な管理方法の構築	飼育管理のルール化	- 種毎に危険度に応じたルールを設定し、同場に関するルールを定める。 - 飼育作業におけるリスクアセスメントを実施し、それを踏まえた「安全作業マニュアル」を作成する。
職員が安全に作業できる施設・設備の整備	物理的遮蔽	- 管理通路にライン塗装し、通常の作業ではラインより動物舎側に立ち入らないこととする。 - スクイズケージや柵場の導入など、物理的遮蔽手段を検討する。
	職員の状況把握のための取組	- カメラによるモニターシステムを導入する。 - 複数の動物舎を担当する職員がどこで作業をしているか把握するための作業スケジュール表を作成する。
	非常時連絡システムの導入	- 転倒時通報機能や音声発信機能を有したスマートウォッチを順次導入する。 - 既存のPHSに位置情報通知機能等を追加する。
職員の安全を確保するための取組及び体制の確立	作業時の安全確保体制	- インドサイ舎の飼育体制について、2名の担当者を置いた。 - 班の担当する飼育作業を共同で行う「グループ制」、又はリスクの高い作業を抽出し、班の枠を超えた2～3名の職員が対応する「ユニット制」の導入を検討する。
	施設改修や補修の計画的実施	毎年作成している施設改修の全体計画に、随時提出される個別の工事・作業依頼を反映させ、柔軟に施工準の見直しを行う。
	引継ぎの体系化	引継ぎ書類の内容を統一化し、それぞれの動物種の課題・懸案事項を着実に引き継げる体制とする。
職員の安全意識の向上	職員の情報共有等の仕組み	職員の作業予定や体調など、班員同士が情報共有を図るため「班ミーティング」を毎日決まった時間に実施する。
	ヒヤリハット事例の収集と共有	ヒヤリハット事例の収集と共有のルールを策定し、事故防止に活用する仕組みを構築する。
	作業の安全性の	飼育管理のルール化において実施する飼育作業のリスク

	客観的な検証	アセスメントにおいて定めるリスク提言措置について、年に1回実施状況確認を行う。
	継続した安全意識の確保	・安全意識向上につながる研修を毎年実施する。 ・事故の発生した8月25日を「安全の日」と定め、黙とうや訓示を実施し、事故の記憶の風化を防止する。

令和7年12月に多摩動物公園タイリクオオカミ舎において、開園時間中にタイリクオオカミ1頭が園内に脱出するという事故が発生した。来園者、動物及び職員にけがはなかったが、臨時休園となったため、来園者の退園誘導や入園券の払い戻し等、「猛獣等脱出対策計画書」に定めがない事項への対応が必要となった。再発事項防止対策として「臨時動物事故・感染症等対策部会」にて速やかに4園と情報共有し、緊急施設点検を実施したほか、「猛獣等脱出対策計画書」の見直しに向けて検討し、安全管理の徹底を図った。

(2) 事業継続 (BCP)

震災、テロ等の大規模災害の発生を想定し、備蓄品の確保や見直しを行ったほか、各種訓練の実施を通して災害対応力を向上させた。

令和7年度には、東京都の地域防災計画火山編の公表を踏まえ、富士山大規模噴火による降灰に備えた対策の検討を開始し、「降灰対策計画書〔暫定版〕」を策定した。

また、近年の無差別殺傷事件数の増加等を踏まえ、警察と連携したテロ対策訓練を4園それぞれで実施した。さらに各園にて冬季の発生を想定した震災対策訓練を実施し、必要備品の確認を行うとともに、災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認した。

訓練名	開催日	目 的
テロ対策訓練 (第1回訓練)	上 野：8/4 多 摩：7/2 葛 西：6/4 井の頭：12/1	テロの発生抑止と対応力の向上を目的として実施 ・サスマタ演習等初動対応の確認 ・警察等関連機関との連携強化
参集訓練	総務部・4園：11/18	参集経路の確認と参集者による本部運営訓練を実施
震災対策訓練 (第2回訓練)	総務部：10/27 上 野：12/1 多 摩：2/4 葛 西：12/3 井の頭：2/2	首都直下型地震の発生を想定し、災害対応力の向上を目的として実施 ・災害発生時の体制や役割、対応の流れを再確認 ・初動対応及び災害対策本部運営の確認 ・消防等関連団体との連携強化
無線通信訓練	総務部・各園：毎月	災害対応力の向上を目的として実施
安否確認訓練	総務部・各園：4回	災害対応力の向上を目的として実施

(3) 災害対策

台風や大雨等の気象警報発令時等には、巡回点検や職員の事務所待機を行い災害時に備えるとともに、被害復旧対応を行った。

（４）情報セキュリティ対策

社会状況の変化やセキュリティ技術の向上を受け、情報資産に対する新たな脅威に対応すべく業務用端末で使用する基本ソフトウェア等のアップデートを行った。また、業務でパソコンを使用する職員を対象とした「eラーニング」を実施するとともに、専門業者による「サイバーセキュリティ外部監査」「サイバーセキュリティ脆弱性診断」等のセキュリティ対策を実施した。

（５）工事等安全衛生対策

上野労働基準監督署より講師を招いて講習会（オンライン）を行い、園内で工事や作業を行う指定店事業者の安全衛生対策の強化を促した。

講演「建設業における労働災害の防止について」

参加者数：144社160名（協会職員含む）

（６）工事等事故防止対策

過去の事故事例を教訓に、園内作業における事故防止対策を積み重ねている。事故防止のため、協会職員と受注者が共通の安全管理意識を持って、組織的に安全対策に取り組んでいる。

また、危機管理委員会の下に置かれた、事故防止対策部会において、維持管理部門における安全管理の年間取組計画や重点管理目標を定め、定期的に進行管理を行うなど、各種の安全管理対策に取り組み、事故防止の徹底を図った。

主な対策等 ・受発注者の立ち合いによる安全対策の事前確認

- ・朝礼や終礼でのKY活動等の強化
- ・特記仕様書による事故防止対策指示の強化
- ・指定店契約時の意識啓発（安全管理計画等）
- ・熱中症防止対策の強化
- ・自動車事故防止対策の強化
- ・工事安全パトロールの実施（４回）
- ・維持管理担当者向けのeラーニングの実施
- ・ヒヤリハット事例集の作成・周知

（７）園内施設・設備の維持管理

① 定常的維持管理

施設や設備を適切に保守し、利用者の安全と快適性を確保するために、以下の園内施設の維持管理業務を行っている。

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
上 野 動 物 園	・敷地面積：144千㎡ ・パンダ舎、ホッキョクグマとアザラシの海、クマ舎、ゾウ舎、アイアイのすむ森 等 ・両生爬虫類館	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） ・不忍池水質管理 ・設備点検

園 名	主 要 施 設	主要維持管理業務
	・管理センター ・不忍池	・保護管理（植込地、花壇） ・危険樹点検対応 他
多 摩 動 物 公 園	・敷地面積：601千㎡ （含む七生公園） ・オランウータン舎、 コアラ館等 ・ライオン園 他 ・昆虫生態園 ・丘陵地	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送、動物脱出防止柵 他） ・設備点検 ・保護管理（植込地、芝生地、花壇） ・危険樹点検対応 他
葛 西 臨 海 水 族 園	・敷地面積：86千㎡ ・水槽数：45 マグロ水槽、世界の海、 ペンギン池 他 ・ポンプ数：水処理用216台 給排水用36台	・設備補修（冷凍機、水処理 他） ・施設補修（水槽、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（中央監視、水処理、展示システム、 排水処理、オゾン設備 他） ・設備点検 ・保護管理（植込地、芝生地、花壇） ・危険樹点検対応 他
井 の 頭 自 然 文 化 園	・敷地面積：116千㎡ ・大放飼場 ・彫刻館 ・リスの小径 ・資料館 ・水生物館	・設備更新（水処理、ボイラー、空調、暖房 他） ・補修工事（動物舎、漏水、排水、園内不陸 他） ・設備保守（機械、水処理、放送 他） ・設備点検 ・保護管理（植込地、花壇） ・危険樹点検対応 他

② 集中的維持管理

設備補修や地球温暖化対策等を行うとともに、ナラ枯れ処理、鳥インフルエンザ対策等の集中的な修繕を行った。

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
上 野	1	動物舎	ハシビロコウ舎鳥インフルエンザ対策補修工事
	2	放飼場	プレーリードッグ放飼場防鳥ワイヤー改修ほか工事
	3	観覧園路	ボート池側園路補修工事
	4	工作物	ゴリラ・トラのすむ森パーゴラ補修工事
多 摩	1	電気設備	高圧区分開閉器(UGS)更新工事
	2	動物舎	ニホンイヌワシ舎鳥インフルエンザ対策工事
	3	建物	七生公園ほかトイレ補修工事
	4	樹林	樹林地維持管理委託（ナラ枯れ対応）
葛 西	1	展示水槽	31号水槽造波装置補修工事
	2	建物	排水処理所躯体補修工事（緊急工事）

園名	No.	修 繕 施 設	概 要
	3	循環設備	オゾン発生装置補修工事
	4	空調設備	ヒートポンプ式冷暖房機補修工事
井の頭	1	動物舎	ペンギン舎鳥インフルエンザ対策ほか補修工事
	2	観覧通路	水辺の小道舗装補修工事
	3	建物	彫刻館A館北側外壁タイル補修工事（緊急工事）
	4	樹林	オシドリ舎前ほか鳥インフルエンザ対策樹木剪定工事

〔 7 〕 受託業務

1. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトにおける業務受託

東京都からの受託により、都と中国野生生物保護協会の間で締結された「ジャイアントパンダ保護研究実施の協力協定書」に基づく研究プロジェクトについて、上野動物園におけるジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの進展状況報告書の作成、子の返還輸送業務、飼育下におけるジャイアントパンダの飼育管理及び繁殖に関する研究の実施と報告書の作成業務を実施した。

項 目	内 容
件 名	ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトにおける業務の委託に関する年度協定（令和 7 年度）
業 務 内 容	ジャイアントパンダの飼育、管理及び健康等の状況報告、研究協力プロジェクトの進展状況報告書の作成、中国側との連絡業務、子の返還業務、飼育管理及び繁殖に関する研究の実施と報告書の作成業務。
期 間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 2 月 20 日
協 定 金 額	158,450,000円
受 領 額	61,848,427円

2. 多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における受託に関する協定

東京都がスリランカ民主社会主義共和国から導入するスリランカゾウ 2 頭を、多摩動物公園に導入するための支援事業について都と協定を締結したが、スリランカ民主社会主義共和国内の情勢が安定せず、当該業務は遂行できなかった。

項 目	内 容
件 名	多摩動物公園へのスリランカゾウの導入支援事業における委託に関する協定
業 務 内 容	スリランカゾウの輸送、スリランカゾウ導入準備、報告書の作成。
期 間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日
協 定 金 額	213,800,000円
受 領 額	0 円 ※履行に至らず。

3. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託

東京都大島支庁からの受託により、大島公園動物園における展示動物の飼育管理やイベントの対応等を行った。

項 目	内 容
件 名	大島公園動物園動物飼育管理業務委託
業 務 内 容	大島公園動物園の展示動物の飼育及びこれに関する管理業務
期 間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
委 託 金 額	62,260,000円

4. 葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務受託

東京都からの受託により、葛西臨海水族園（仮称）整備等事業に関して、設計等に係るモニタリング支援、助言等技術支援、維持管理・運営に関する技術的支援、開園に向けたPR業務等を実施した。

項 目	内 容
件 名	葛西臨海水族園（仮称）整備等事業の支援業務に関する年度協定（令和7年度）
業 務 内 容	① モニタリング支援、助言等技術的支援 ② 各種計画策定支援 ③ 生物調達・移転業務 ④ 維持管理・運営に関する技術的支援 ⑤ 開園に向けたPR業務 ⑥ 中間報告 ⑦ 報告書の作成 ⑧ その他、本件業務委託の実施に当たり必要な業務
期 間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
協 定 金 額	79,800,000円
受 領 額	79,493,700円

5. 公園施設のイベント企画・運営に関する業務受託

東京都からの受託により、ガラスドーム・プロジェクトの実施、本プロジェクトに関するPR業務、効果測定、報告書の作成を実施した。

項 目	内 容
件 名	公園施設のイベント企画・運営に関する協定（令和7年度）
業 務 内 容	① ガラスドーム・プロジェクトの実施 ② 本プロジェクトに関するPR業務 ③ 効果測定・分析 ④ 報告書の作成
期 間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
協 定 金 額	80,000,000円
受 領 額	18,150,000円

6. オガサワラカワラヒワ生息域外保全事業に関する協定書

東京都からの受託により、年間4回の現地出張を実施し、定点観測や生息環境の調査、モニタリング及び標識の装着等の実施、繁殖地及びその周辺の環境整備、小笠原諸島及び動物園における飼育繁殖、生体展示棟による普及啓発を実施した。

項 目	内 容
件 名	オガサワラカワラヒワ生息域外保全事業に関する協定書（令和7年度）
業 務 内 容	・ 定点観測や生息環境の調査、モニタリング及び標識の装着等の実施 ・ 繁殖地及びその周辺でのネズミ類の駆除 ・ 小笠原諸島及び動物園における飼育繁殖 ・ 生体展示棟による普及啓発
期 間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
執行予定金額	2,383,620円
受 領 額	1,997,328円

7. 都立動物園・水族園の魅力向上に関する業務受託

東京都からの受託により、動物園におけるモビリティ運行事業及び春季夜間開園の実施、効果測定、報告書の作成を実施した。

項 目	内 容
件 名	都立動物園・水族園の魅力向上に関する年度協定（令和7年度）
業 務 内 容	① 動物園におけるモビリティ運行事業の実施 ② 春季夜間開園の実施 ③ 効果測定・分析 ④ 報告書の作成
期 間	令和7年2月6日 ～ 令和8年3月31日
協 定 金 額	36,000,000円
受 領 額	10,681,949円

第3 収 益 事 業

I. 事業総括

上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の利用者の利便性と公益目的事業の充実のために、以下の事業を実施した。

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
I. 便益施設の経営	(1) 上野動物園	(1) 売店	3
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	3
		(6) コインロッカー	2
		(7) フォトサービス	1
		(8) 写真（映像資料）貸出	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	5
		(4) 自動販売機コーナー	12
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
		(7) ライオンバス	1
		(8) フォトサービス	1
	(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	2
		(5) コインロッカー	2
		(6) フォトサービス	1
	(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2
		(2) 臨時売店	3
		(3) 自動販売機コーナー	3
II. その他事業	(1) 上野動物園内広告事業（広告施設7箇所）		
	(2) 協賛金募集事業（ジャイアントパンダ保護サポート基金等）		

Ⅱ．事業実績

〔１〕 便益施設等の経営

収益事業の売上高は、物価高騰による販売価格の上昇にも拘らず好調に推移し、インバウンド需要や上野のジャイアントパンダ返還による関連商品の特需等もあり、好調だった前年度をさらに大きく上回る結果となった。また、園外販売の専任部署を設け、通信販売や委託販売等を引き続き実施するとともに、ギフト商品に限らない園外への出店や、機動性を高めるためにキッチンカーの製作を進めた。

上野動物園では、季節や年間を通じた様々な園内イベントに合わせた店舗展開を行い、飼育展示係や教育普及係と連携し「伝える」取組を強化した。コビトカバの子の公開に合わせ「コビトカバの親子カード」を配布し、動物について知っていただく取組や、「世界キツネザルの日」には寄付金付きのマダガスカル産バニラビーンズを使用したバニラアイスクリームを販売したほか、但馬産コウノトリ育むお米や小笠原村の地産商品の販売を通じて生息域内環境を伝える取組を行った。

双子のジャイアントパンダ（シャオシャオ、レイレイ）関連商品としては「4歳記念商品」を令和7年6月23日の誕生日に発売した。また、令和8年1月27日の返還に向けて順次、「Thank you Xiao Xiao & Lei Lei」商品を展開した。

多摩動物公園では、環境に配慮して再生プラスチック等の素材を使用したオリジナルグッズを作成し、ギフトショップで販売した。また「飼育の日（4月19日）」に関連して飼育展示係や教育普及係と連携し、飼育動物をモチーフにしたオリジナルドリンクを販売したほか、コウノトリの生育環境を伝えることを目的としてコウノトリ育むお米と但馬地域の食材を使用したオリジナルメニュー「コウノトリの郷定食」を販売した。

「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」では初めてライオンバスの無料運行を実施し、参加者に好評であった。また、アクセシビリティの向上を目的として電動カートの運用を開始した。

葛西臨海水族園では、展示生物をデザインしたオリジナル商品を作成し、ギフトショップで販売した。また、海鳥保全の取組を紹介するため、パートナーシップ協定を締結している北海道羽幌町にある海鳥センターの商品の販売を開始した。レストランでは飼育展示係や教育普及係と連携した、魚の性転換を表現したドリンクメニュー「キンギョハナダイのトロピカルレッド」を販売し、さらに東京都産食材を使用したメニューを継続販売した。また、環境配慮の取組の一環として洗剤・ゴミ袋を環境配慮型の製品へ変更した。

井の頭自然文化園では、インハウスデザイナーによるオリジナルデザインのTシャツや手ぬぐいなど多数の商品を販売した。またフード商品では、「カピバラマシュマロのタピオカ黒糖ミルク」など飼育展示係が監修したメニューや、季節に応じたオリジナルメニューを積極的に導入したほか、園のイベントと連携して、ヤマネコ祭りでは対馬銘菓「かすまき」と「対馬紅茶」のセットを提供し、夜間イベントではオリジナルステッカーを販売した。

1. 施設及び収入額

(単位：千円)

園 名	施 設 名	収 入 額
上 野 動 物 園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 飲食店第1号（店名：さるやまキッチン） 5. 飲食店第2号 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. コインロッカー 10. フォトサービス 11. 写真（映像資料）貸出 12. その他（通信販売事業を含む）	2,856,443 （この内、通販 は47,079）
多 摩 動 物 公 園	1. 1号売店（店名：コアラ館下売店） 2. 2号売店（店名：ライオンカフェ） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（店名：サバンナキッチン） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	762,453
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 臨時売店 5. 自動販売機コーナー 6. コインロッカー 7. フォトサービス 8. その他	720,779

井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	120,722
合 計		4,460,397

2. 商品取扱状況

（単位：点）

区 分		上野 動物園	多摩 動物公園	葛西 臨海水族園	井の頭 自然文化園
取扱商品数		1,184	1,594	1,371	378
内 訳	ギフトその他	977	1,446	1,265	259
	飲 食 品	207	148	106	119

〔2〕その他の事業

1. 上野動物園内広告事業

上野動物園の案内誘導サイン等の整備費用に充てるため、園内に設置した下記の広告掲示施設により、広告料金による民間からの資金を得た。

種 別	設 置 場 所	数 量
動物解説ボード	ジャイアントパンダ、アジアゾウ、ニシゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	6 基
環境啓発ボード	さるやまキッチン付近	1 基
収 入 額	2,983 千円	

2. 協賛金募集事業

ジャイアントパンダ保護サポート基金を活用した事業展開のため、園内普及啓発ボードによる協賛や園外でのロゴマーク協賛を実施した。

収 入 額	2,803 千円
-------	----------

第4 決 算 概 要（正味財産増減計算書）

（単位：千円）

科目	公益目的 事業会計	収益事業 会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
基本財産運用益	3,216	—	4,218	7,434
特定資産運用益	496	—	—	496
受取会費	9,783	—	—	9,783
事業収益	234,431	4,472,567	—	4,706,998
受取寄付金	13,682	—	—	13,682
受取委託料	7,660,782	—	222,658	7,883,440
雑収益	14,851	13,017	504	28,371
経常収益計	7,937,242	4,485,584	227,380	12,650,205
（2）経常費用				
事業費	8,010,453	3,836,473	—	11,846,926
管理費	—	—	347,059	347,059
経常費用計	8,010,453	3,836,473	347,059	12,193,985
評価損益等	0	△17,490	0	△17,490
当期経常増減額	△73,212	631,621	△119,679	438,730
2. 経常外増減の部				
経常外収益	0	777	0	777
経常外費用	0	1,018	208	1,226
当期経常外増減額	0	△241	△208	△449
他会計振替額	268,151	△390,718	122,567	0
税引前当期一般正味財産額	194,939	240,661	2,681	438,281
法人税等	—	46,000	—	46,000
法人税等調整額	—	△15,909	—	△15,909
当期一般正味財産増減額	194,939	210,570	2,681	408,190
一般正味財産期首残高	92,191	1,220,448	304,138	1,616,776
一般正味財産期末残高	287,130	1,431,018	306,818	2,024,966
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	28,656	0	0	28,656
一般正味財産への振替額	13,682	0	0	13,682
当期指定正味財産増減額	14,973	0	0	14,973
指定正味財産期首残高	231,324	0	0	231,324
指定正味財産期末残高	246,297	0	0	246,297
III 正味財産期末残高	533,428	1,431,018	306,818	2,271,261

（注）千円単位未満を四捨五入しているため、合計欄の数値と内訳を足し上げたものとが一致しない場合がある。

第5 事 務 報 告

I. 役員会議の開催

〔1〕 評議員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月23日	(1) 理事の選任について
第1回 定時評議員会	6月26日	(1) 令和6年度決算報告(案)について 監査報告 (報告事項) 令和6年度事業報告について
書面決議	9月12日	(1) 理事の選任について
書面決議	12月26日	(1) 監事の選任について
書面決議	2月20日	(1) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について (2) 常勤理事の報酬総額の変更について
書面決議	3月19日	(1) 定款の一部改正について (2) 常勤理事の報酬に関する規程の一部改正について

〔2〕 理 事 会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月9日	(1) 評議員会の開催について
第1回 通常理事会	6月11日	(1) 令和6年度事業報告(案)について (2) 令和6年度決算報告(案)について 監査報告 (3) 定時評議員会の開催について (4) 確定給付企業年金規約の一部改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告 次期指定管理事業計画策定に向けた方向性について
書面決議	8月22日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	9月17日	(1) 基本財産の更新について

回	開催月日	議 題
書面決議	10月31日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について
書面決議	12月12日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	2月6日	(1) 評議員会の開催について
書面決議	3月3日	(1) 常勤理事の報酬額の変更について (2) 評議員会の開催について
第2回 通常理事会	3月27日	(1) 令和8年度事業計画(案)について (2) 令和8年度収支予算(案)について (3) 資金調達及び設備投資の見込みについて (4) 副理事長の選定について (5) 第4号議案で選定した副理事長の報酬額について (6) 役員賠償責任保険の加入について (7) 諸規程の一部改正について (報告事項) 理事長及び常務理事の職務状況報告
書面決議	3月31日	(1) 事務局長の任免について

〔3〕評議員選定委員会

回	開催月日	議 題
書面決議	5月23日	(1) 評議員の退任に伴う後任評議員の選任について
書面決議	10月17日	(1) 評議員の退任に伴う後任評議員の選任について
書面決議	1月16日	(1) 評議員の退任に伴う後任評議員の選任について

Ⅱ. 監 査

〔1〕公認会計士下村久幸氏・岸徹氏と監査契約を締結し、公認会計士による会計帳簿・証憑書類の試査、実地棚卸立会、現金実査、銀行残高確認等の外部監査を実施した。

〔2〕令和6年度の事業報告及び決算報告について、5月26日に監事による監査を実施した。

Ⅲ. 人事関係

〔１〕就任・退任

① 評議員の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
評 議 員	坂 下 智 弘	５月30日	東京都西部公園緑地事務所長
〃	清 水 や す こ	10月24日	東京都議会環境・建設委員会委員長
〃	荒 井 芳 則	１月30日	東京都建設局次長

② 評議員の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
評 議 員	内 山 晟	５月31日	動物写真家
〃	曾 根 は じ め	７月31日	東京都議会環境・建設委員会委員長
〃	上 林 山 隆	８月12日	東京都建設局次長
〃	根 来 千 秋	３月31日	東京都東部公園緑地事務所長
〃	坂 下 智 弘	３月31日	東京都西部公園緑地事務所長

③ 理事・監事の就任

役職名	氏 名	就任月日	摘 要
理 事	本 木 一 彦	５月30日	東京都建設局公園緑地部長
理 事	本 田 三 緒 子	９月19日	ヤマザキ動物看護専門職短期大学教授
理 事	松 本 朱 実	９月19日	桜美林大学教育探求科学群特任教授
監 事	宮 武 和 弘	12月30日	東京都建設局総務部長

④ 理事・監事の退任

役職名	氏 名	退任月日	摘 要
監 事	荒 井 芳 則	11月28日	東京都建設局次長

〔２〕役員等名簿（令和８年３月３１日現在）

○総 裁 常陸宮正仁親王

（１）評 議 員

No.	氏 名	摘 要
1	林 良 博	国立科学博物館顧問
2	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
3	遠 藤 秀 紀	東京大学総合研究博物館教授
4	今 泉 忠 明	日本ネコ科動物研究所長
5	林 公 義	皇居内生物学研究所
6	三 浦 慎 悟	早稲田大学人間科学学術院名誉教授
7	打 越 綾 子	成城大学法学部教授
8	竹 内 伸 子	絵手紙作家
9	村 松 真 貴 子	公益社団法人全国公民館連合会副会長
10	平 井 純 子	駿河台大学副学長・スポーツ科学部教授
11	清 水 や す こ	東京都議会環境・建設委員会委員長
12	荒 井 芳 則	東京都建設局次長
13	根 来 千 秋	東京都東部公園緑地事務所長
14	細 川 卓 巳	東京都西部公園緑地事務所長
15	矢 岡 俊 樹	公益財団法人東京都公園協会理事長

（２）評議員選定委員会

No.	氏 名	摘 要
1	清 水 眞 澄	成城大学名誉教授、三井記念美術館館長
2	会 田 保 彦	ヤマザキ動物看護大学名誉教授
3	久 邦 彦	漫画家・絵本作家
4	須 賀 光 一	上野のれん会会長
5	矢 島 剛	公益財団法人東京動物園協会総務部長

(3) 理事・監事

No.	役職名	氏 名	摘 要
1	理 事 長	杉 崎 智 恵 子	元東京都収用委員会事務局長
2	常 務 理 事	黒 田 慶 樹	東京都建設局局務担当部長
3	常 務 理 事	松 山 俊 樹	前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長
4	理 事	菅 谷 博	茨城県立自然博物館名誉館長
5	〃	見 城 美 枝 子	青森大学名誉教授、エッセイスト
6	〃	長 谷 川 寿 一	東京大学名誉教授
7	〃	西 源 二 郎	公益財団法人新潟市海洋河川文化財団理事
8	〃	村 井 良 子	有限会社プランニング・ラボ代表取締役
9	〃	尾 崎 清 明	公益財団法人山階鳥類研究所副所長
10	〃	都 村 智 史	京王電鉄株式会社代表取締役社長
11	〃	本 田 三 緒 子	ヤマザキ動物看護専門職短期大学教授
12	〃	松 本 朱 実	桜美林大学教育探究科学群特任教授
13	〃	本 木 一 彦	東京都建設局公園緑地部長
1	監 事	須 賀 光 一	上野のれん会会長
2	〃	半 田 昌 之	公益財団法人日本博物館協会専務理事
3	〃	宮 武 和 弘	東京都建設局総務部長

(4) 会計監査人

No.	氏 名	摘 要
1	下 村 久 幸	公認会計士
2	岸 徹	公認会計士

(5) 顧 問

No.	氏 名	摘 要
1	小 池 百 合 子	東京都知事
2	浅 倉 義 信	元公益財団法人東京動物園協会理事長
3	藤 井 芳 弘	元公益財団法人東京動物園協会理事長
4	羽 仁 進	映画監督・評論家

(6) 正会員

〔賛助会員〕 上 田 浩 上 田 憲 治 上 田 清 一

〔特別会員〕 篠 永 哲 (令和8年3月死去)

IV. 組 織 概 要

〔１〕協会の機構

○ 総 裁 常陸宮正仁親王

機関名	名 称	人数等	摘 要
1. 議決・監督 機関	評 議 員 会	15 名	
2. 執 行 機 関	理 事 会	13 名	理事長・常務理事を含む
	理 事 長	1 名	
	常 務 理 事	2 名	
	事 務 局	4 部 15 課 52 係	
3. 諮 問 機 関	顧 問	4 名	
4. 監 査 機 関	監 事	3 名	
5. 協 力 機 関	賛 助 会 員	3 名	
	特 別 会 員	0 名	
	準 会 員	4,248 名	東京動物園友の会会員

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

〔 3 〕 事務局職員数

(単位：人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
277	141	418	86	0	86	363	141	504

(令和 8 年 3 月 31 日現在)